平成 17 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2006

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成17年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成17年度 調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
岩倉市　御山寺遺跡 …… 8
清須市ほか 朝日遺跡 …… 14
稲沢市　須ケ谷遺跡 …… 20
西海塚遺跡 …… 23
山王遺跡 …… 24
豊田市　牛寺遺跡 …… 25
日進市　三ヶ所遺跡 …… 28
瀬戸市　桑下東窯跡 …… 30
大坪西遺跡 …… 36
稲沢市　鎌倉街道周辺遺跡 …… 38
安城市　姫下遺跡 …… 43

Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 47
第108集　水入遺跡 …… 48
第109集　鶯窯跡 …… 50
第122集　城山城跡 …… 52
第132集　上品野遺跡 …… 54
第133集　NA311号窯 …… 56
第134集　凧山C窯跡・惣作･鐘場遺跡Ⅰ …… 58
第135集　瓶子窯跡 …… 60
第136集　小針遺跡 …… 62
第137集　奥町Ｆ古窯群 …… 64
第153集　桜鐘古窯群 …… 66
第131集　清洲城下町遺跡IX …… 68
第139集　島崎・中之郷北・伝法寺本郷遺跡 …… 69

Ⅳ.埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 71

Ⅴ.発掘調査技術等研修会の記録 …… 77

Ⅵ.埋蔵文化財センターの活動 …… 81
写真資料の貸出・提供 …… 82
現地・地元説明会等 …… 84
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 85
研究会の活動報告 …… 86
ホームページ …… 88
平成17年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 91

Ⅰ. 平成 17 年度事業概要

調査の理由と工程

1．発掘調査

調査委託者		事業名	遺跡名	面積 (m²)	調査期間	調査担当者
国土交通省	愛知国道事務所	名岐道路	朝日遺跡	1,354	平成17年10月 ～平成18年3月	赤塚・永井(宏)・ 川添
	豊橋河川事務所	矢作川野見地区改修事業	牛寺遺跡	1,300	平成17年4月 ～6月	小澤・鵜飼・ 永井(宏)
中日本高速道路株式会社		近畿自動車道名古屋関線清洲JCT	朝日遺跡	282	平成17年10月 ～平成18年3月	赤塚・永井(宏)・ 川添
名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線	朝日遺跡	1,359	平成17年10月 ～平成18年3月	赤塚・永井(宏)・ 川添
県建設部	都市整備課	街路新設改良一宮春日井線	御山寺遺跡	3,870	平成17年4月 ～10月	石黒・永井(邦)
	道路建設課	国道363号	桑下東窯跡	4,726	平成17年7月 ～平成18年3月	小澤・鵜飼
		国道248号	大坪西遺跡	380	平成17年11月 ～12月	小澤・樋上
		県道岩崎名古屋線道路改良	三ヶ所遺跡	800	平成17年7月 ～9月	小澤・永井(宏)
		県道津島稲沢線道路改築	須ケ谷遺跡	1,341	平成17年11月 ～平成18年1月	石黒・加藤
			西海塚遺跡	461	平成18年1月 ～2月	石黒・加藤・ 永井(邦)
			山王遺跡	738	平成18年2月 ～3月	石黒・加藤・ 永井(邦)
		県道名古屋豊山稲沢線道路改良	鎌倉街道周辺遺跡	2,278	平成17年4月 ～11月	宮腰・鈴木・ 加藤
	河川課	中小河川改良事業	姫下遺跡	3,470	平成17年10月 ～平成18年3月	宮腰・鈴木
		11事業	11遺跡	22,359		

2．整理・報告書編集

	調査委託者		調査の理由	遺跡名	面積 (m²)	調査年度
整理	県建設部	道路建設課	国道248道路改築	惣作・鐘場遺跡	28,650	平成12～16年度
		下水道課	日光川上流流域下水道事業	一色青海遺跡	7,124	平成15年度

	調査委託者		調査の理由	遺跡名	面積 (m²)	調査年度
整理・報告	国土交通省	愛知国道事務所	東海環状自動車道	瓶子窯跡	1,300	平成15年度
	中日本高速道路株式会社		近畿自動車道名古屋関線清洲JCT	朝日遺跡	3,646	平成13～15年度
	名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線	朝日遺跡	7,487	平成11・13～15年度
			県道高速清洲一宮線	島崎遺跡	2,000	平成12年度
				伝法寺本郷遺跡	1,600	平成13年度
				中之郷北遺跡	2,400	平成13年度
	独立行政法人都市再生機構		常滑西特定土地区画整理事業	夏敷古窯跡	915	平成16年度
			常滑東特定土地区画整理事業	蛇廻間古窯跡	700	平成16年度
	企業庁	愛知用水水道南部事務所	工業用水道事業	桜鐘古窯群	536	平成16年度
	県建設部	道路建設課	県道草井羽黒線道路改築	高木遺跡	3,550	平成15・16年度
		下水道課	五条川右岸流域下水道事業	伝法寺野田遺跡	5,940	平成14年度
		河川課	中小河川改良事業（鹿乗川）	上橋下遺跡	5,400	平成13～15年度
				鹿乗川流域遺跡群	800	平成10年度
				14遺跡		

3．平成17年度刊行物

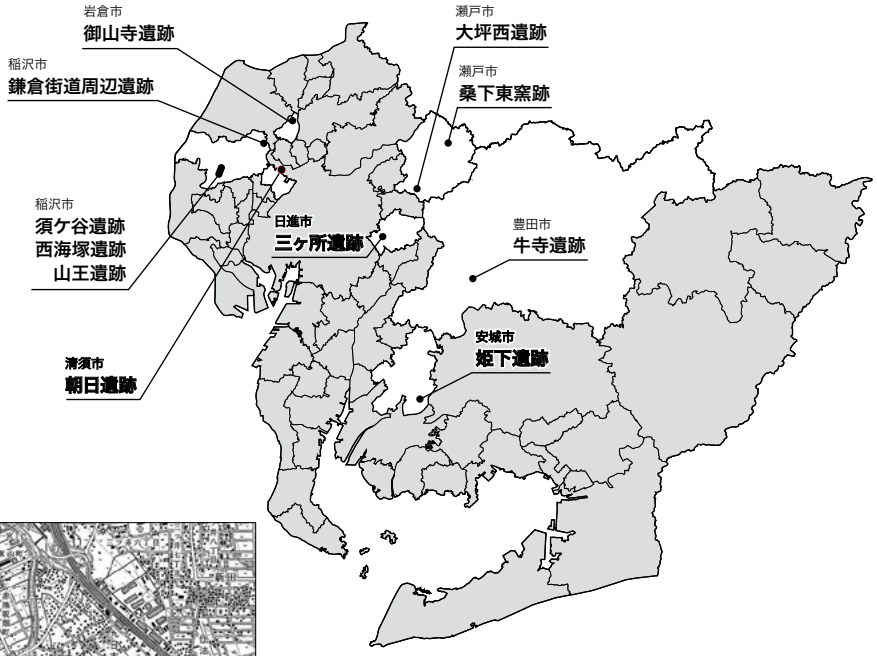
・埋蔵文化財報告書（計12冊）

第108集　水入遺跡
第109集　鴈窯跡
第122集　城山城跡
第131集　清洲城下町遺跡IX
第132集　上品野遺跡
第133集　NA311号窯跡
第134集　凧山C窯跡・惣作･鐘場遺跡I
第135集　瓶子窯跡
第136集　小針遺跡
第137集　奥町Ｆ古窯群
第139集　島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡
第153集　桜鐘古窯群

・平成17年度　愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要　第７号

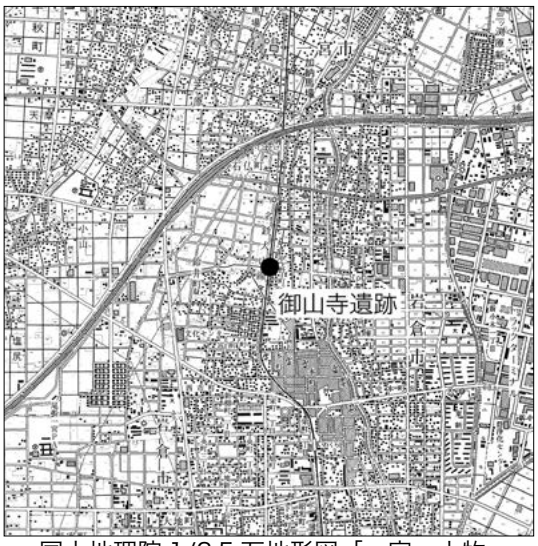
平成17年度　調査遺跡位置図



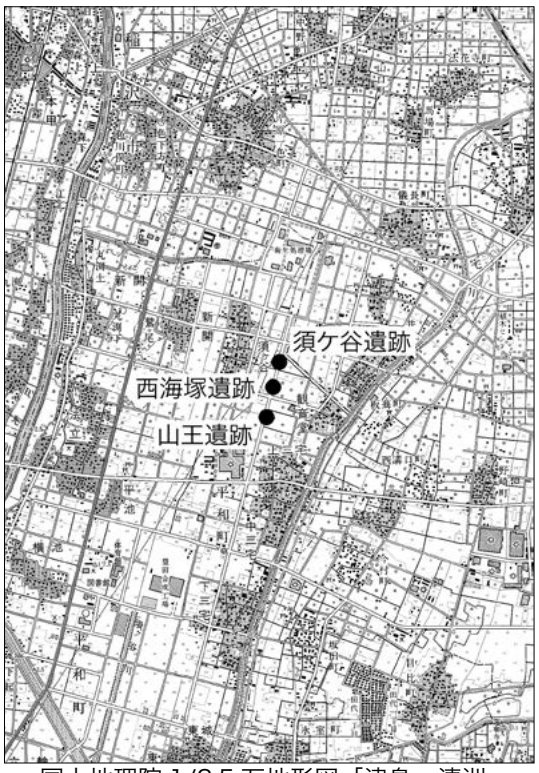


国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」

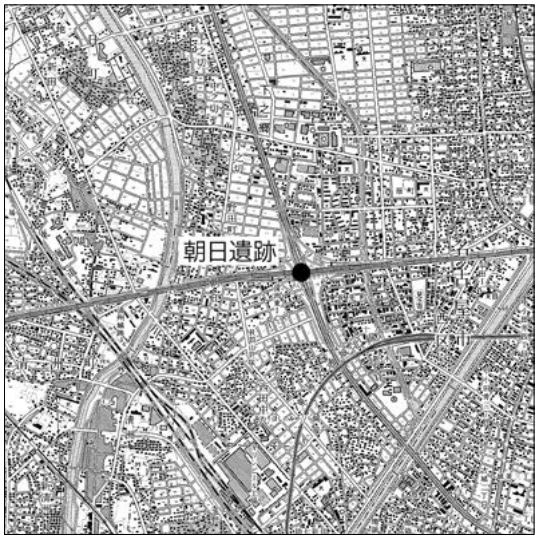
※ 地形図は 50%縮小されています。



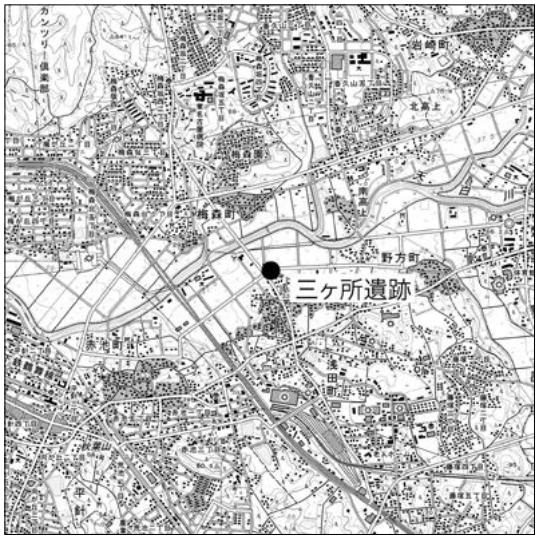
国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・小牧」



国土地理院 1/2.5 万地形図「津島・清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「平針」



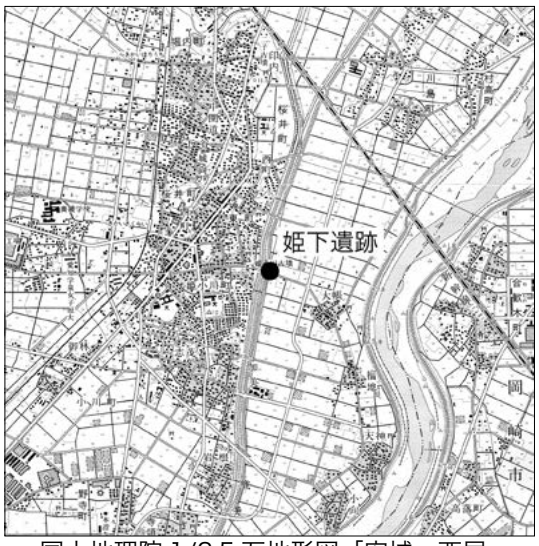
国土地理院 1/2.5 万地形図「瀬戸」



国土地理院 1/2.5 万地形図「多治見・猿投山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南部」

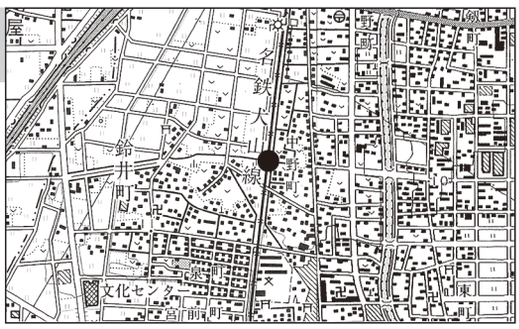


国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」

II. 遺跡調査の概要

御山寺（ごさんじ）遺跡

所　在　地　岩倉市中野町
（北緯35度17分18秒 東経136度52分13秒）
調 査 理 由　緊急地方道路整備事業3･3･8号一宮春日井線
調 査 期 間　平成17年４月～９月
調 査 面 積　3,890㎡
担　当　者　石黒立人・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

調査の経過　発掘調査は、県道一宮春日井線街路新設改良工事の事前調査として、愛知県建設部都市整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。平成16年度（調査面積2580㎡）に引き続き２年目の調査である。前年度は名鉄犬山線の東西両隣接地を調査区としたが（04A・B区）、今年度はそこからさらに東西へと調査エリアを拡大した。すなわち線路西側で05A･B区、東側で05C～E区である。

立地と環境　当遺跡は犬山扇状地末端に位置し、04A・05B区ではその礫層が地表面下約20㎝で露出する箇所がある。遺跡および付近の標高は11m前後であるが、これは昭和40年代の区画整理までに微高地の高所を削り低地へ土砂を移動させた結果であり、特に礫層露出部分ではかなりの遺構が滅失していた。

この礫層は、05A区での調査成果および明治時代地籍図の解析から、幅約50m規模の旧河道の東岸にあたることが判明し、礫層を形成した河道はかつて木曽川から分かれていた流路の一つであったことが想定された。ここでは昨年度に引き続き旧河道を「旧五条川」と仮称する。05A区と05B区の間には幅1.8mの用水路が現在も機能しているが、この用水路は上流で現在の五条川から分岐する。そのルートは地籍図から復元される「旧五条川」の東岸からやや高所を南下していることになる。

調査の概要　昨年度と同様に戦国時代の大溝、古墳時代中期と平安時代の竪穴建物で構成される集落が確認された他、線路の東側で埋没した谷地形を２か所で検出した（図１）。以下時代別に概観する。

弥生時代末期　05Ea･Eb区では現地表面から約2.5m下る小さな谷地形を調査区東端と西端でそれぞれ確認した。いずれも南方向に開析するもので、幅も10mに満たない規模である。谷地形の形成時期は不明であるが、平安時代には若干の窪地になっており、該期の集落が展開されるに及んで整地され平坦地化する。西側の谷底からは廻間Ⅰ式期の土器が大量に廃棄状態で出土した。器種は高杯、壺、甕で概ね使用されたものである。一方東側の谷では傾斜面に同じく廃棄状態の土器群が確認された。東側の谷では赤彩された小型壺が出土し、調査中には豊富な湧水も認められたことから、湧水点祭祀が行われた可能性も考えられる。

古墳時代前～中期の集落　線路東側では古墳時代土器の出土は寡少であったが、西側05B区では松河戸様式の土師器を中心とする土器の出土があった。特に松河戸Ⅰ式の土師器甕・高杯が目立つ。竪穴建物は重複状態にある30棟近くが検出されたが、残存状況が良かったのは数棟にすぎない。ほとんどは確認面から深さ５㎝程度で床面に達しており、出土遺物も少なかった。唯一まとまった出土遺物のあったSB1029は重複関係で最古段階と判断され、床面までの深さは約20㎝あった。土器群は覆土中から台付甕、壺、高杯が廃棄状態で出土した。

遺構検出作業中に竪穴建物跡の確認面にて滑石製双孔円板1点が出土した（図２）。そこ

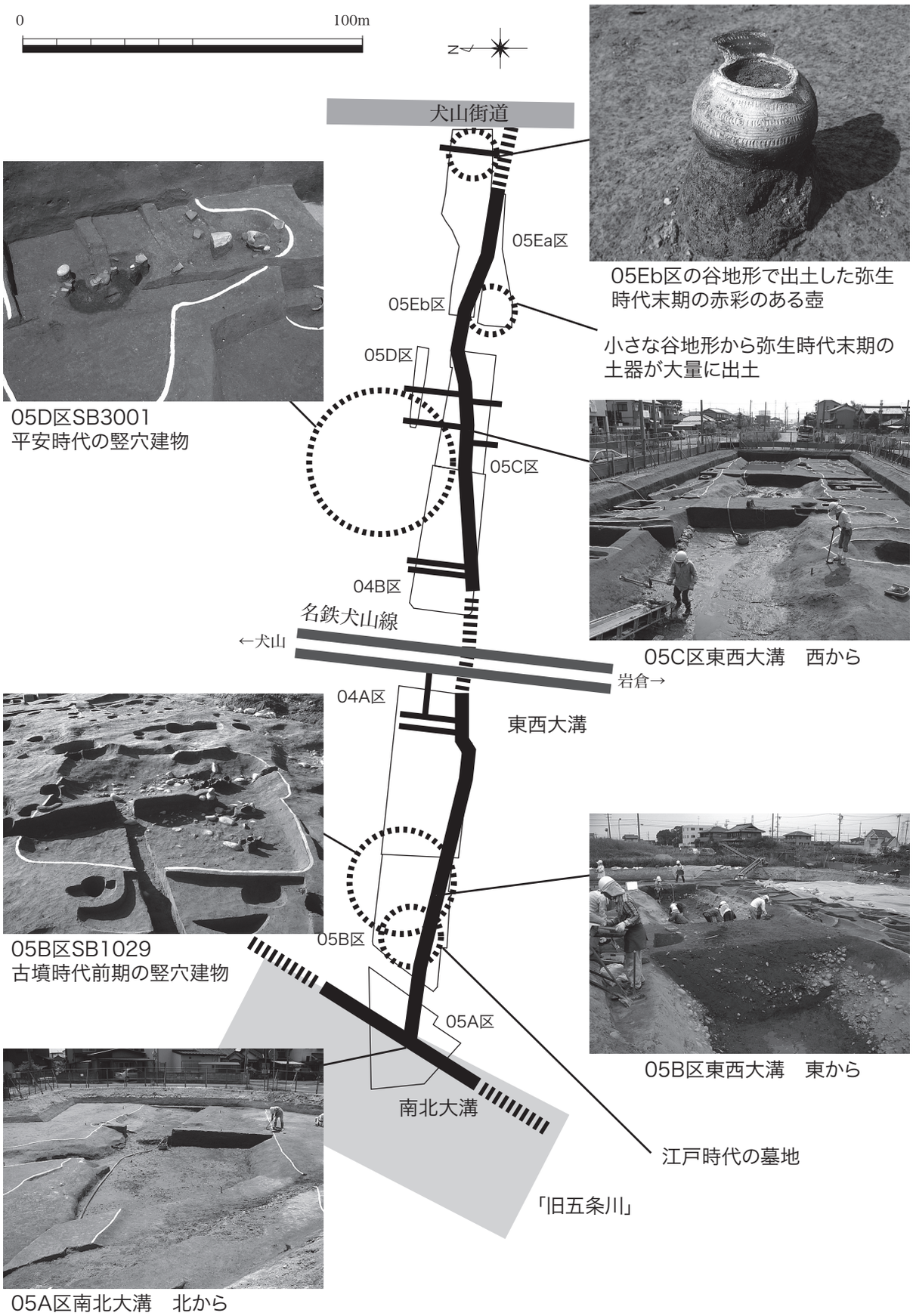

0
100m
N
犬山街道
05Ea区
05Eb区
05D区
05C区
04B区
名鉄犬山線
←犬山
岩倉→
04A区
東西大溝
05B区
05A区
南北大溝
「旧五条川」
江戸時代の墓地
05Eb区の谷地形で出土した弥生時代末期の赤彩のある壺
小さな谷地形から弥生時代末期の土器が大量に出土
05D区SB3001
平安時代の竪穴建物
05C区東西大溝　西から
05B区SB1029
古墳時代前期の竪穴建物
05B区東西大溝　東から
05A区南北大溝　北から

図1　遺跡概略図

で竪穴建物の覆土は全て事務所に持ち帰り、水洗選別作業を実施した。その結果、滑石製の臼玉2点とガラス製臼玉1点が確認された。また検出段階で出土したものに両端に穿孔のある棒状土錘1点がある（図3）。瀬戸内海から紀伊半島沿岸の弥生～古墳時代に展開するタイプで、伊勢湾岸地域では愛知県一宮市大毛池田遺跡や岐阜県可児市など木曽川流域に若干みられる程度である。ただこれ以外の漁労に関わる遺物はなかった。なお、猿投窯初期段階の須恵器は若干数にとどまった。竪穴建物の覆土からは出土せず、05A区などで器台などが出土した。

平安時代の集落

線路東側の05C～E区では、奈良～平安時代の遺物が中世・戦国時代の遺物に混在して多数出土した。しかし確認された古代の遺構は平安時代中期の竪穴建物3棟にとどまった。竪穴建物は、昨年度の調査区（04B区）から東方の05C・D区にあり、05C区東端付近は平安時代でもなお谷地形が窪地状に残っていたとみられること、04B・05D区の北側の畑地でも古代の土器が採集されることから、当該期集落の南端付近を確認したと考えられる。古代でも前半期にあたる7～8世紀の集落遺構については全くといっていいほど確認できなかったが、平安時代集落の形成以前に大規模な整地がなされて大部分が滅失した可能性も考えておきたい。05C区東端付近の谷地形では一部を埋めて整地したとみられる土層があり、そこから古代の須恵器が出土するからである。

竪穴建物は平面形が一辺約3mときわめて小型であるが、造り付けの竈がある。05C区SB2001では北壁に、05D区SB3001では東壁に約40㎝長の煙道のある竈が確認された。特に05D区SB3001の竈は基底部が「袖」として確認され、焚口から煙道の一部が焼けて赤変していた。また焚口底部には土師器甕底部を支える支脚（おそらく石）を据えた直径10㎝の円形穴があった。竈内からは土師器甕1個体分と灰釉陶器が出土した。

遺物で特徴的なのは、包含層中からであるが円面硯、緑釉陶器（器種不明）、墨書土器である。墨書土器は8世紀末～9世紀初頭の須恵器蓋外面に「新」と書かれたもので、地名もしくは人名と考えられる。これら特徴的な遺物は05C区北西部に集中しており、それぞれの所属時期も近いことから、セット関係にあったと考えられる。ただこのセット関係は仏具のそれとは異なり、官衙出土土器のセットに近い。当該期集落の中心的施設がこの付近に存在したと想定しておきたい。

昨年度は平安時代の土錘が一括廃棄された土坑が確認されたが、今年度も包含層中から多数の土錘の出土をみた。また、05C区では包含層中から鉄滓が多数出土したことも特記される。鉄滓はその形状から中世における小鍛冶の可能性が高いが、05C区竪穴建物SB2001の覆土中からも出土しており、平安時代にも行なわれていた可能性も考えておくべきだろう。

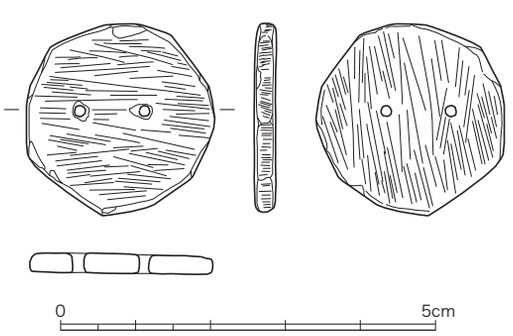


図2　双孔円板実測図（1:1）

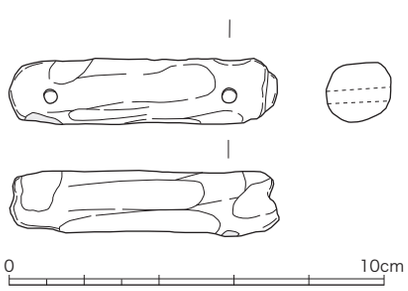


図3　土錘実測図（1:2）

希薄な鎌倉時代

11世紀代の灰釉陶器がみられるものの、12〜13世紀の灰釉系陶器は少なく、鎌倉時代の御山寺遺跡周辺は空閑地もしくは耕作地になっていたと考えられる。ただ遺跡南側を北西方向へのびる道は岩倉と一宮市町屋を結ぶ古い道であったと考えられ、13世紀代は05A区でみられた「旧五条川」の流路も機能していたとみられることから、渡河点としての何らかの施設も想定されよう。しかしながらそれに関わる遺構はなかった。

戦国時代の溝

御山寺遺跡の出土遺物の中でおそらく最大割合を占めると考えられるのが瀬戸美濃編年における古瀬戸後期段階から大窯1期の陶器である。これら陶器は全調査区を通じた包含層中から多数出土するが、大溝からの出土が最も多い。大溝は昨年度確認された途中に屈曲部をもつ概ね東西方向にのびるものの続きで、05A区ではそれが「旧五条川」が湿地化し埋没した後に掘削される南北大溝に合流。したがってここが西端となる。一方東端は未だ不明であるが、犬山街道から東方へのびることは確定的で、全長250m以上の規模になると推定される。ただ、線路から東側では幅約7mであるのに対し、線路から西側では幅約5m以下である点は注意しておきたい。04A区で確認された大溝屈曲部から南方へ大溝が分岐する可能性も考えられ、そうするといくつかの単位で掘削された大溝が結果的に連続した状態で検出されたということもありうる。また05B区では円礫主体の土砂によって意図的に埋め戻した痕跡がうかがえるが、線路東側ではそれが明瞭にはみえない。大溝の掘削から埋没過程については遺物の検討が欠かせず、今後の検討課題としたい。

なお、05C区では大溝に対して南北方向の小溝が数条合流する。これらが検出状況から東西大溝に先行するのはあきらかで、04B区での評価とおりこれらが屋敷地区画溝とするならば、もともとあった屋敷地区画溝を連続させるかたちで大溝が掘削されたことが想定される。その結果大溝は完全な直線にならなかったとも考えられる。ただいずれにせよ大溝開削に何らかの意図があったはずで、その歴史的意義を追求する作業が必要となる。御山寺遺跡は岩倉城と井上城との中間地点に位置し（図4）、これまでの中世〜戦国時代地域史研究からはややはずれた存在であったこともある。大溝出土の遺物は岩倉城が発展期にあった15世紀末〜16世紀前半のものであり、岩倉城下町の範囲にも関わる課題でもあることを示しておきたい。



図4　御山寺遺跡大溝と岩倉城跡の位置関係図
（1:25,000）

江戸時代の墓地

05B区では大溝が埋没した後に形成された墓地が確認した。長軸約1mの楕円形となる土坑は礫層上面まで掘り込まれて、被葬者は棺に入れられな

い状態で埋葬されていた。人骨や歯は9基の土坑から出土したが、風化が進んで形状を保って取り上げられたものはなかった（図5）。出土位置から横臥とされるものが複数あった。また歯だけが残存していた墓はその鑑定から子供とみられる。副葬品のあるものは2基にとどまり、そのうち1基からは寛永通宝6枚を六道銭として埋めたものもあった。他に人骨などの出土がなかあったものの形状から土坑墓と考えられるものが約15ある。また、土坑墓と関わりは不明ながら、長さ約2m幅約15㎝の壁面が焼けて赤変した土坑が3基確認された。土坑覆土からは焼けた骨片が出土しており、火葬施設と推測される。ただ火葬骨を埋葬した墓は確認できなかった。ちなみに05B区では墓石の出土はなく、付近一帯でも当該地点が墓地であった伝承はなかった。（永井邦仁）

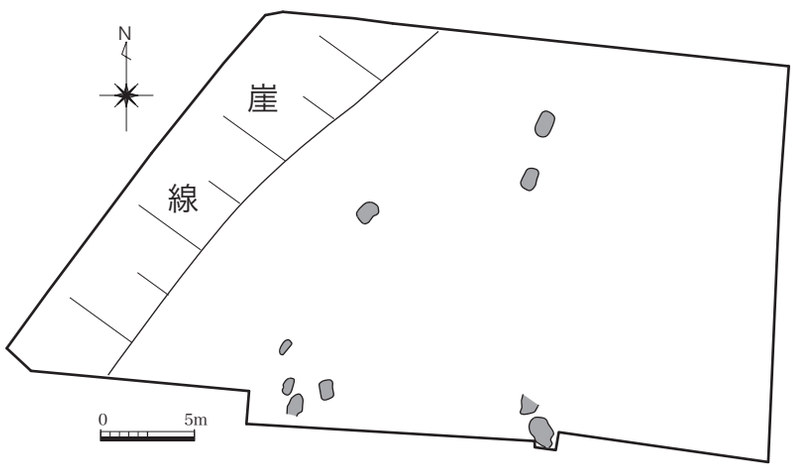
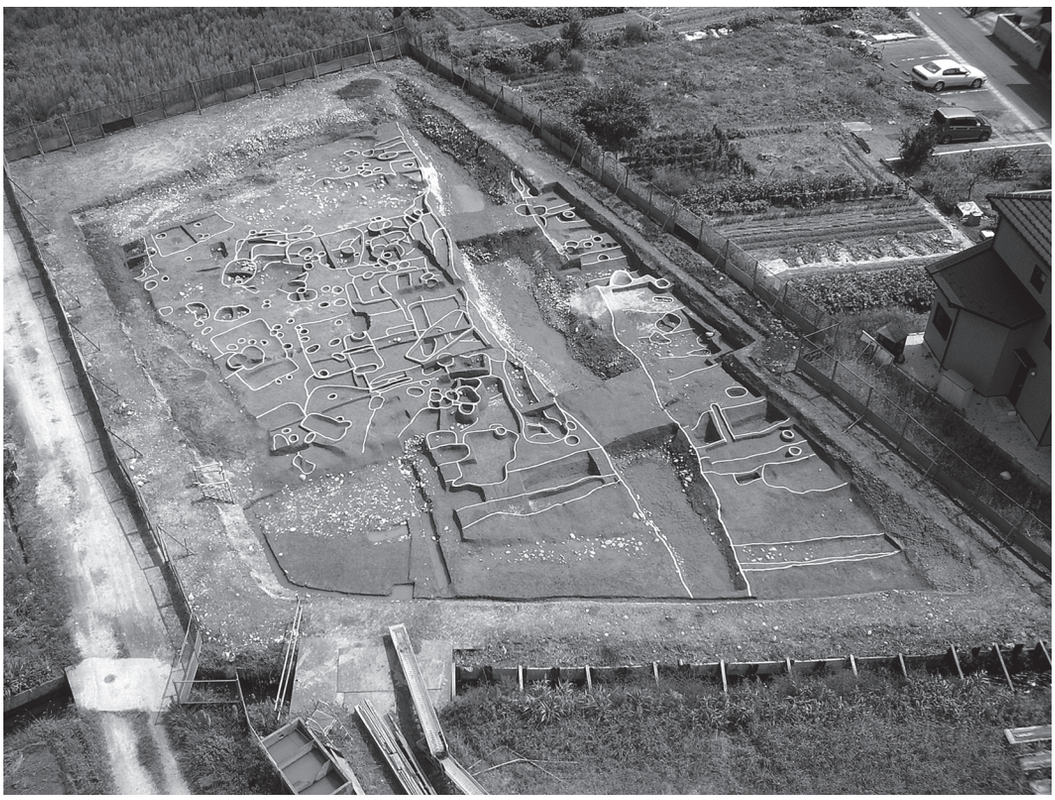


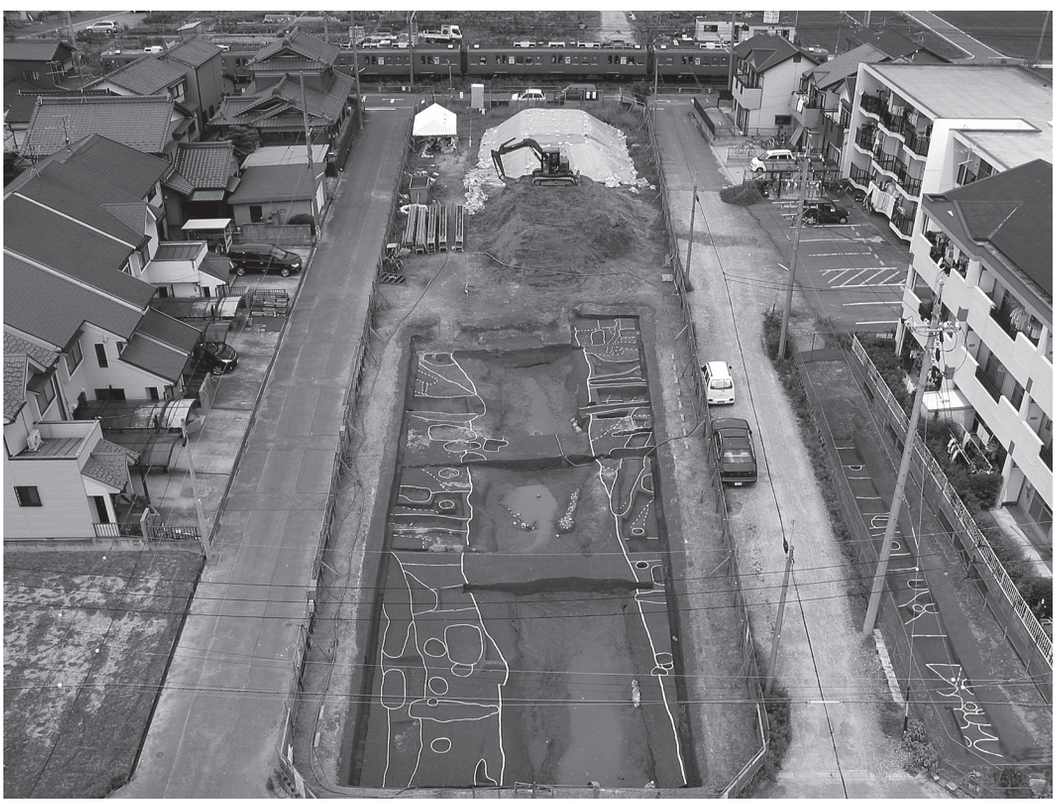
図5　05B区人骨出土墓配置図（1:200）



遺跡全景　西から（手前に05B区、線路東側に05C区、左奥は小牧山）

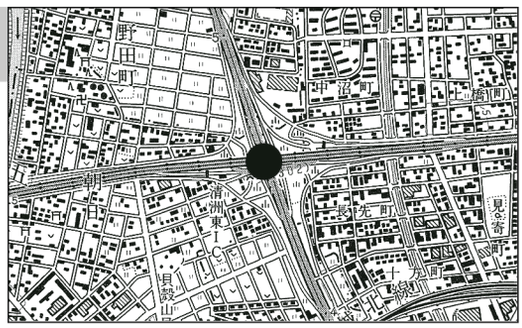


05B区全景　西から



05C区全景　東から

朝日（あさひ）遺跡



調査地点（1/2.5万「清洲」）

所　在　地　清須市ほか
(北緯35度13分18秒 東経136度51分18秒)

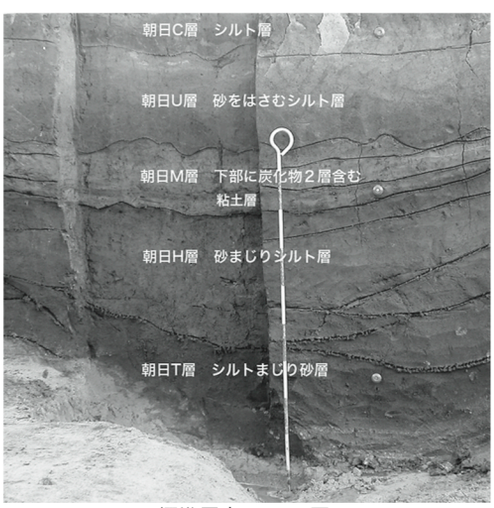
調査理由　名岐道路・近畿自動車道名古屋関線清洲JCT・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線

調査期間　平成17年10月～平成18年3月

調査面積　2,995㎡

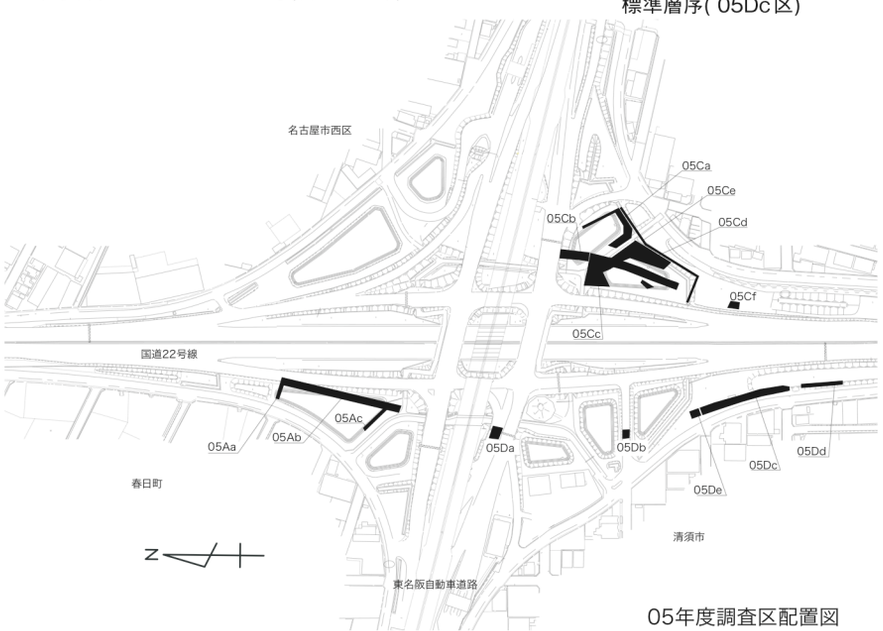
担　当　者　赤塚次郎・永井宏幸・川添和暁

調査の経過　本遺跡は愛知県清須市・西春日井郡春日町・名古屋市西区に広がる、県下最大規模を誇る弥生時代集落である。調査は名岐道路・近畿自動車道名古屋関線清洲JCT・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線に伴う事前調査として、国土交通省愛知国道事務所・中日本高速道路株式会社・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。本年度は、2,995m^{2}を対象として、05Aa区・05Ab区・05Ac区・05Ca区・05Cb区・05Cc区・05Cd区・05Ce区・05Cf区・05Da区・05Db区05Dc区・05Dd区・05De区の14調査区を設定し、調査を行った。



標準層序(05Dc区)

標準層位　朝日遺跡における標準層位については、現場における検討を経て、右図のような基本案を作成し、調査に対応した。上位より朝日C層・朝日U層(砂をはさむシルト層)・朝日M層・朝日H層・朝日T層・朝日B層(基盤層)。また朝日U層と朝日M層との間に不整合面が見られる。現状では、朝日M層が松河戸様式を中心とした古墳時代前期後葉段階、朝日H層を廻間様式を中心とした堆積層と想定している。(赤塚次郎)

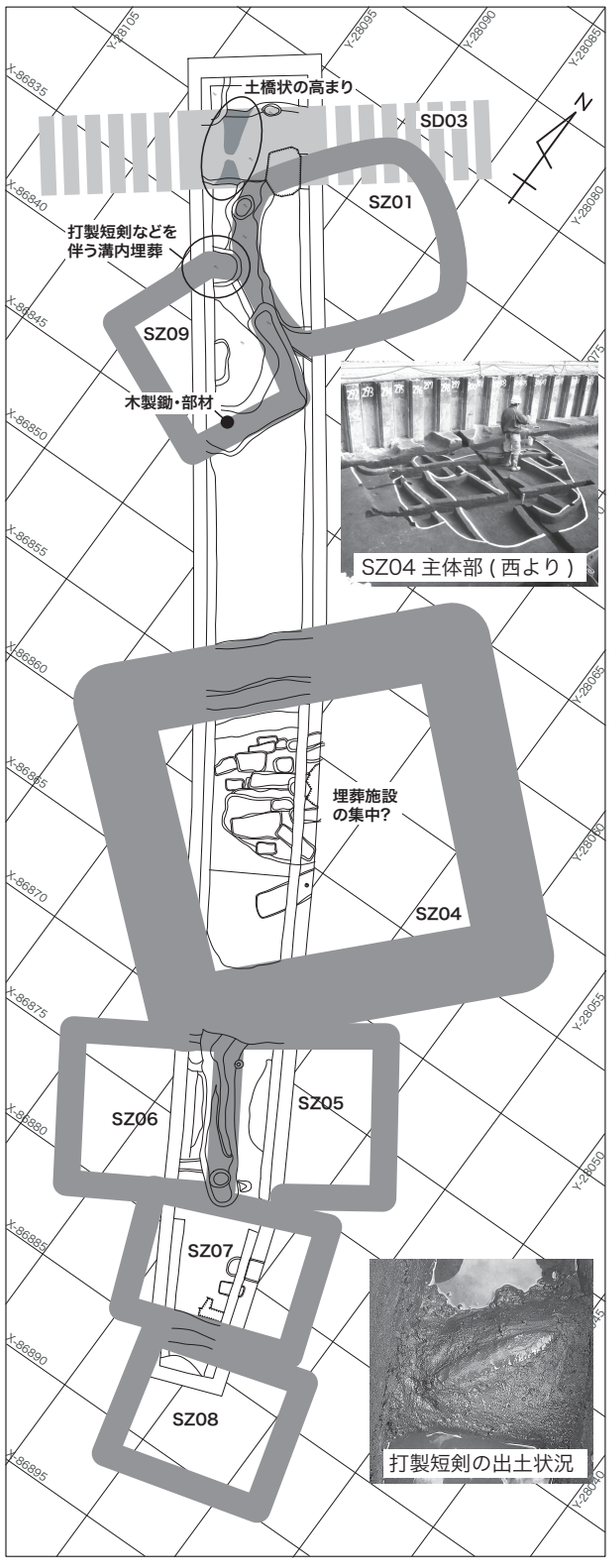


05年度調査区配置図

Ｄｃ区　遺構の時期は中世末期・弥生時代中期後半・弥生時代中期前半以前の大きく３期に分かれる。中世末期では方形土壙が７基検出された。弥生時代中期後半では、東西に延びる溝１条の南側に方形周溝墓が７基が展開しているほか、廃棄土壙や住居跡１軒が検出された。弥生時代中期前半以前では、上記溝１条をはじめ、方形周溝墓の周溝や土坑が見つかっている。

区画溝　調査区北隅に存在する溝SD03を境にして、その南側には方形周溝墓群が展開する。SD03は弥生時代中期前葉に掘削された溝で、朝日遺跡谷C左岸に展開する集落遺跡の南限を区画する溝として考えられている。SD03下層には、掘削時期が朝日式期に遡る溝が存在する。弓片や部材と考えられる木製品(片)などが出土している。SD03は貝田町式新段階に、溝内に土橋状の貼出部が作られている。貼出部の東側には細頸壺をはじめとする土器群とともにイノシシ下顎骨が出土している。

方形周溝墓　方形周溝墓はおおむね高蔵式期を中心にして展開するものであるが、貝田町式新段階に所属する方形周溝墓と一部に重複関係がみられる。特に注目される遺構としては、調査区中央部付近に存在する方形周溝墓SZ04がある。規模的にも比較的大きなものであるが、さらに墳丘上には複数の埋葬施設が重複して存在している。また、SZ09 は北溝にはやや不定形な陸橋部が認められるもので、南側溝内からは部材および鋤?の木製品が並べられた状態で出土している。 周溝内から溝内埋葬と推測できる土壙を検出した。そこからは打製石剣・赤色顔料が付着する摺石・磨製石斧片および粗製有孔鉢が出土している。(川添和暁)



05Dc 区弥生中期後半主要遺構配置図 (1 ：400)



05Cc区SD01(南東より)



05Cc区SD01埋土セクション



05Cc区土器集積(弥生中期後葉)



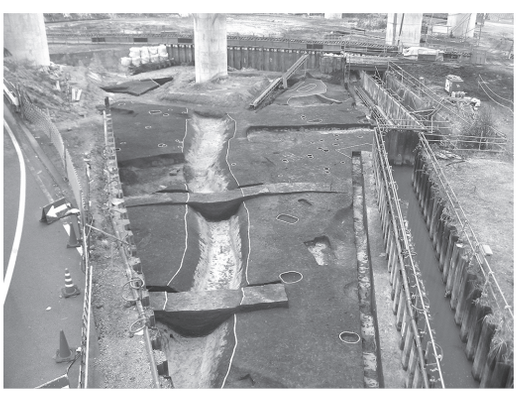
05Cc区SD09内土器棺墓(弥生中期後葉)



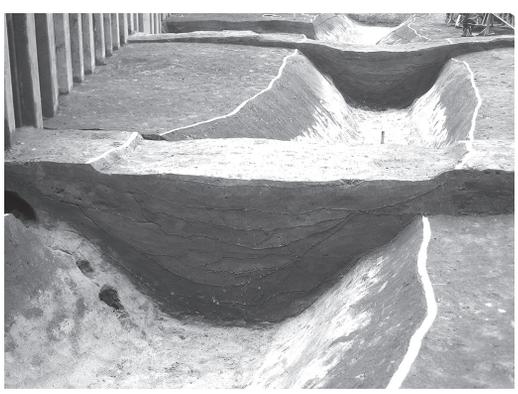
05Cc区弥生中期後葉全景(北より



05Cc区SB25(弥生中期前葉)



05Cd区SD06(南より)



05Cd区SD06埋土セクション



05Cd区SB18(弥生中期後葉)



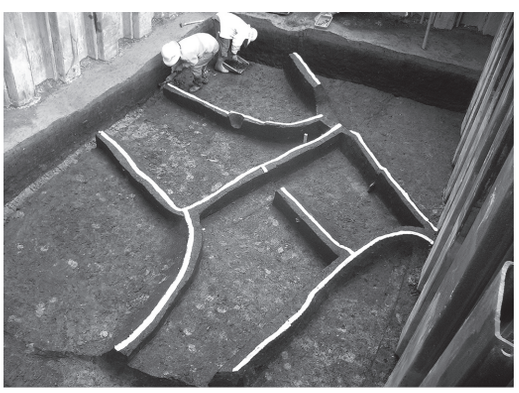
05Cd区SB09(弥生中期後葉)



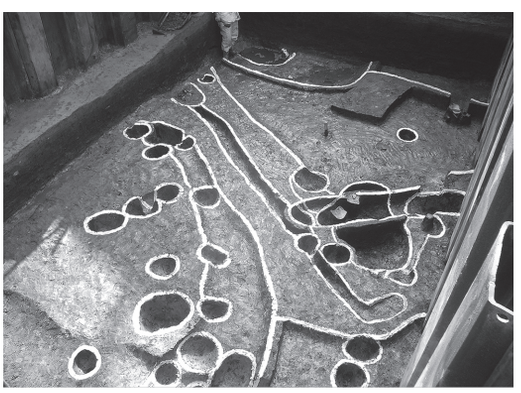
05Cd区SK128(弥生中期後葉)



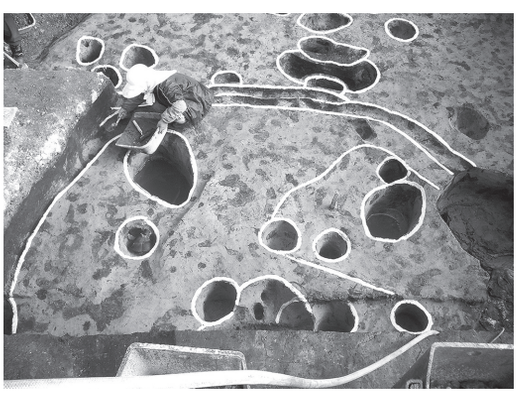
05Cd区弥生中期中葉～後葉全景(北東より)



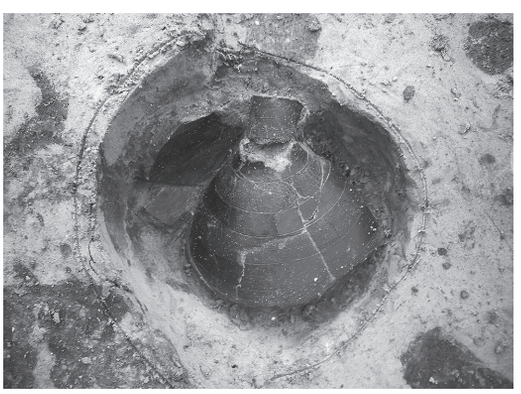
05Db区弥生中期末～後期初頭全景(北西より)



05Db区弥生中期初頭～前葉全景(北西より)



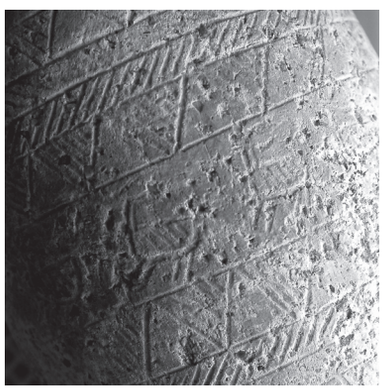
05De区弥生中期後半全景(西より)



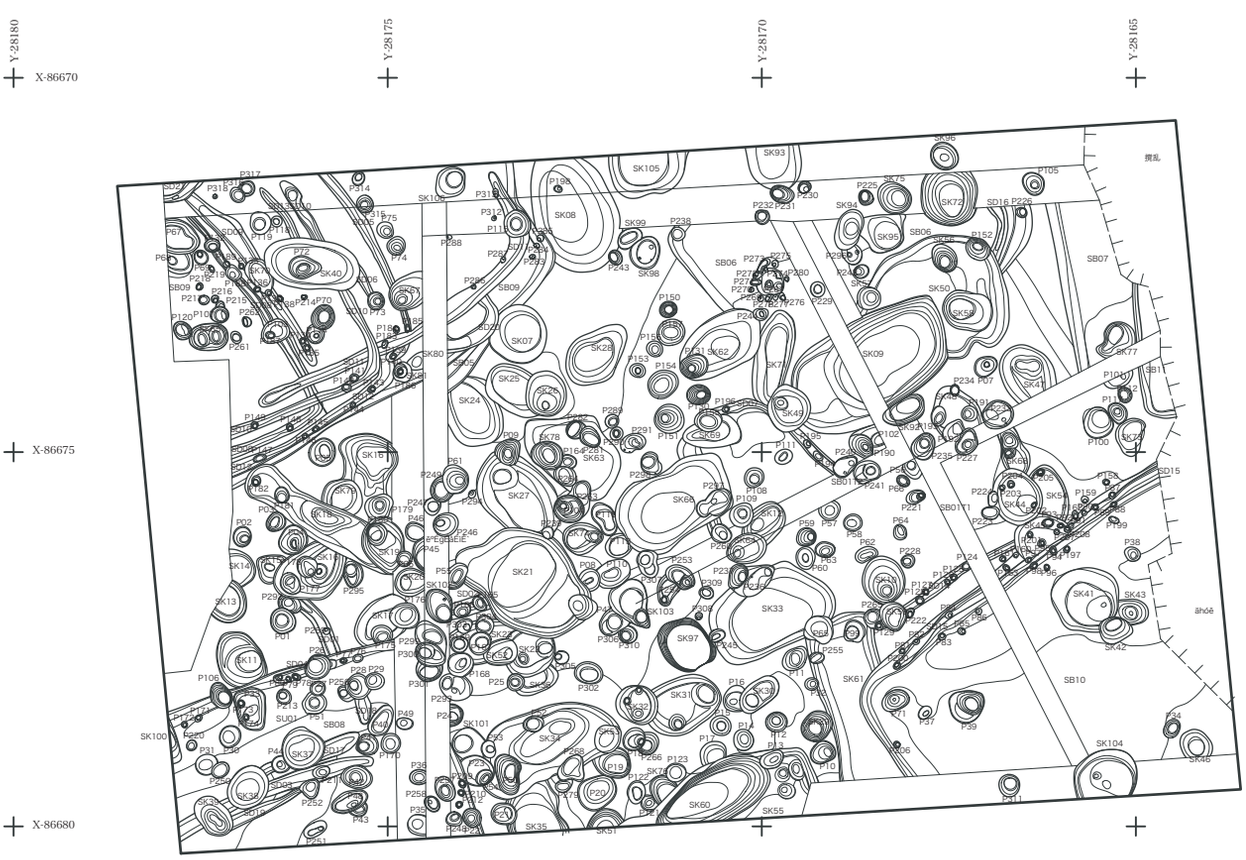
05De区住居内土器埋設遺構(弥生中期中葉)

05Da区　調査地点は、朝日遺跡南集落内の北端部にあたる。朝日Ｈ層が10cm前後不整合面を伴って堆積し、その下部に黒褐色のシルトまじり砂層である朝日Ｔ層が20cmから40cm堆積する。朝日Ｈ層を除去するとおおむね三個所ほどに大きな落ち込みが確認でき、竪穴建物が存在することが想定できた。調査の結果、これらの竪穴建物は山中Ⅱ式期を中心としたものと考えられる。その後、整地層などを除去する過程で、朝日Ｔ層下位付近から新たに複数の竪穴建物を発見した。結果的に調査区北西及び南西・南東隅に竪穴建物が検出でき、その内で南東隅で確認したSB10は、床面に複数の貼床を伴うものであった。掘方は朝日Ｂ層を20cmほど垂直に掘削し、底部の貼床は、建物南東隅で3cm単位の三層構造が見られた。朝日Ｂ層と朝日Ｔ層を撹拌したような、きめ細かな細斑土で丁寧に築固められた状況である。出土した土器などから山中Ⅰ式期に所属するものと思われる。その他の建物や土坑などもおおむね山中式から八王子古宮式期にかけてのものと想定できる。ただ、大型の土坑などからは高蔵式期の土器が出土しており、中期末葉段階の遺構が重複しているものと思われる。なお、05Da区の中央付近に所在する

筒形容器　SK63からは、鹿などの繊細な文様を施した筒形容器がほぼ完全な状況で出土している。(赤塚次郎)



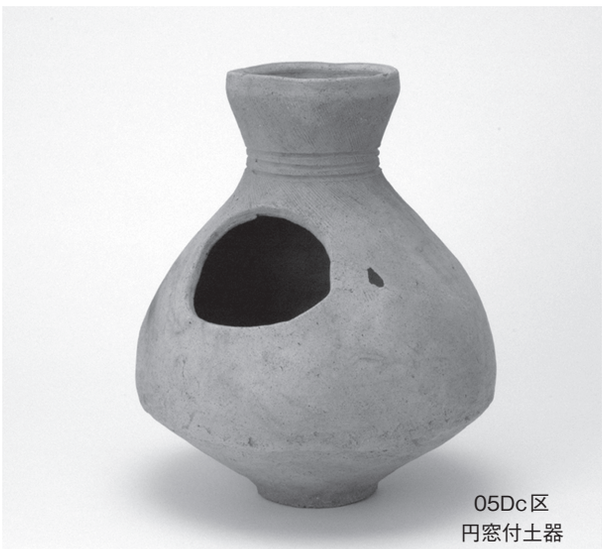
筒形容器の文様



05Da区遺構配置図(１：100)

Cc･Cd区　今年度の調査としては、比較的調査面積の広いCc･Cd区について触れ、まとめとしたい。

05Ｃ区は朝日遺跡南集落の東南端にあたる。後期南集落の外環濠をCc区からCd区へ縦断するように確認した。この外環濠とした溝は、南集落寄りのCc区SD01とSD01の外側に展開するCd区SD06の２条ある。両者は、おそらく虎口状に重複しながら開口部を形成したと思われる。Cc区では、谷Bの縁辺部に沿って高蔵式の土器集積を確認した。本来この堆積層は朝日Ｙ層、つまり山中式を中心とした遺物を含む層位である。おそらく、山中式の時期に掘削した時、大量に出土した高蔵式の遺物群を投棄した結果であろう。調査区ほぼ全域にわたって、貝田町式から高蔵式を中心とした建物群が展開する。壁溝の形から、ほとんどが長方形プランの竪穴建物と考えられる。掘立柱建物もいくつか想定できるが、壁溝のめぐる竪穴建物にくらべ確定しにくい。概ね調査区東寄りには方形周溝墓を中心とした墓域が建物群と接しながら展開する。確認した方形周溝墓のほとんどは高蔵式に比定できる。(永井宏幸)



05Dc区
円窓付土器



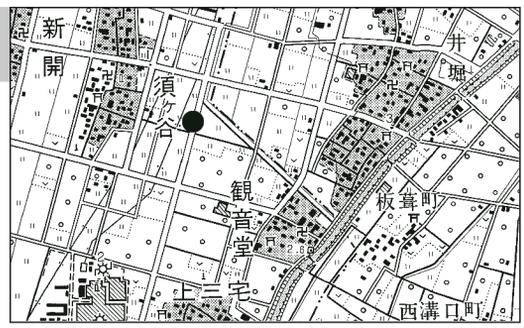
05Da区
筒形容器



05Dc区 SK23出土遺物

須ケ谷（すがたに）遺跡

所　在　地　稲沢市平和町
（北緯35度13分41秒 東経136度45分14秒）
調 査 理 由　県道津島稲沢線道路改築
調 査 期 間　平成17年11～平成18年３月
調 査 面 積　1,341㎡
担　当　者　石黒立人・加藤博紀・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　調査区は現在の県道を挟んで東西に位置している。まず、東側（05Ａ区）から調査を始めた。調査区は北に向かって狭くなるので、北部については土層断面の観察に主眼をおいた。西側（05Ｂ区・05C区）では調査区の幅も広く、面的な調査を進めることができた。

立地と環境　須ヶ谷遺跡は濃尾平野のほぼ中央やや西寄りに位置し、遺跡周辺の現況は水田となっている。しかし、かつては畠が広がる自然堤防地帯であったようだ。北北東には約500mには弥生前期から弥生中期の集落遺跡である野口北出遺跡、北には弥生時代中期後半の集落遺跡である一色青海遺跡がある。南方には古代の三宅廃寺がある。

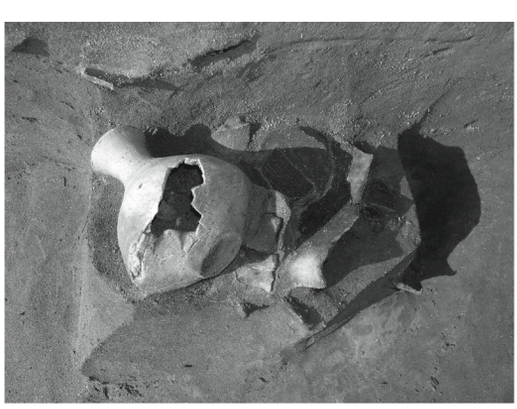
調査の概要　調査区南部は北部に比べて基盤が下降しており、上部から、耕作土、床土、灰色シルト（古代・中世基盤層）、黒色帯、明黄色シルト、暗灰色シルト、黒色シルト（弥生時代地表面および包含層）、青灰色シルトである（基盤）。それに対して北部では床土直下が弥生時代の包含層であり、かなりの削平が窺える。重要なのは黒色帯で、上部と下部の２層に分かれ、とくに弥生中期中葉後半に属す方形周溝墓の周溝埋土上部に明確に堆積しており、遺構判定の重要な指標になった。弥生時代の包含層は、南半部では弥生前期から中期前葉にほぼ限定され、北半部では竪穴建物跡などの濃密な遺構の分布を伴い中期後半までの時期を含み、一色青海遺跡とも並行する可能性がある。このほか、方形周溝墓や竪穴建物跡上部に粗砂が堆積する場合があり、弥生中期中葉後半の一時期に洪水によって浸食・堆積されたことが窺える。

調査は3面に区分して進めた。

第1面は中世以後に属し、流路跡、溝・土坑が検出された。

第2面は弥生時代中期中葉後半以降に属し、方形周溝墓群や竪穴建物跡を検出した。竪穴建物のまわりには外周溝がめぐっていたようであり、調査ではその一部を検出した。方形周溝墓は05Ｂ区南部では墳丘の残りがよく、同時期の他の遺跡の周溝墓とは印象を異


Ｃ区竪穴住居


Ｃ区　周溝墓出土遺物

にする。主体部が検出できたのは１基のみであった。ほかに土坑墓が少数分布するようである。

第3面は弥生前期から弥生中期前半に属し、竪穴建物跡や土坑を検出した。竪穴建物には覆土中に貝層を伴うものがある。

ま と め

須ヶ谷遺跡についてはこれまで情報は無く、今回初めてメスが入った。付近では野口北出遺跡と一色青海遺跡が知られており、両遺跡との関係が問題となる。今回の調査成果によれば、須ヶ谷遺跡は野口北出遺跡に並行しつつ、一色青海遺跡にも年代的に一部重なりをみせるというように、空白期を埋める位置にある。とくに問題になるのが方形周溝墓群であり、野口北出遺跡の方形周溝墓群に後続して形成されている点で、両者が一連のものならば広大な墓域を形成している可能性が浮上するのである。これら遺跡群の関係について詳細は今後の調査によらなければならないが、弥生時代の濃尾平野に新たな核の姿が浮かび上がりつつある予感を感じさせる。(石黒立人)



B･C区　全景



C区　周溝墓



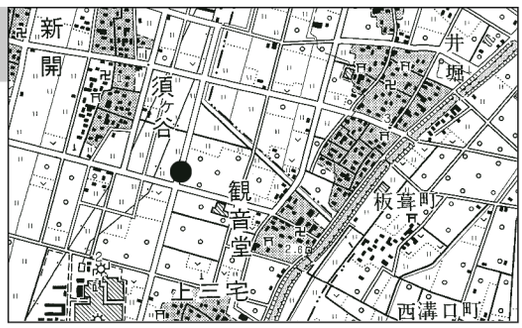
C区　3面北部



C区　3面南部

西海塚遺跡（にしかいづか）

所　在　地　稲沢市平和町
（北緯35度13分36秒 東経136度45分12秒）
調 査 理 由　県道津島稲沢線道路改築
調 査 期 間　平成17年11月～平成18年３月
調 査 面 積　461㎡
担　当　者　石黒立人・加藤博紀・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　本遺跡の発掘調査は、県道津島稲沢線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成17年11月から18年３月にかけて須ヶ谷遺跡・山王遺跡とともに実施した。調査面積は461㎡である。

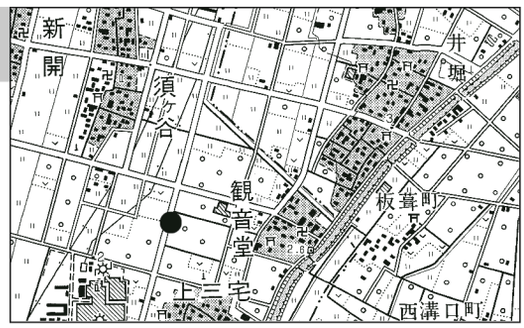
立地と環境　本遺跡は、稲沢市平和町に所在し、三宅川やそれに先行する河道によって形成された微高地上に位置する。近隣には、弥生時代前期の野口・北出遺跡や同時代中期の一色青海遺跡、奈良時代の寺院跡の三宅廃寺などがある。

調査の概要　昭和40年以降に実施された土地区画整理事業によって行われた盛土などの表土を約30㎝除去すると、検出面が現れる。遺跡の南北にある検出面の落込みは、昭和40年以前の水田によると思われる。それは、明治期に作成された地籍図においても確認できる。そして、検出される遺構は、A・B区ともに溝、土坑など多数あるが、遺物はきわめて少ない。これらの遺構は、どれも近世後期から現代までの耕作に伴うものと思われる。また、深堀調査によって、見かけ上、北から南へ河川の縁辺部が次第に移動していく、いわゆる側方付加堆積物の断面が確認された。山王遺跡A区において確認できた自然流路によるものと思われる。（加藤博紀）


北から西海塚遺跡・山王遺跡を望む

山王（さんのう）遺跡

所　在　地　稲沢市平和町
（北緯35度13分30秒 東経136度45分10秒）
調 査 理 由　県道津島稲沢線道路改築
調 査 期 間　平成17年11月～平成18年３月
調 査 面 積　738㎡
担　当　者　石黒立人・加藤博紀・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　本遺跡の発掘調査は、県道津島稲沢線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成17年11月から18年３月にかけて須ヶ谷遺跡・西海塚遺跡とともに実施した。調査面積は738㎡である。

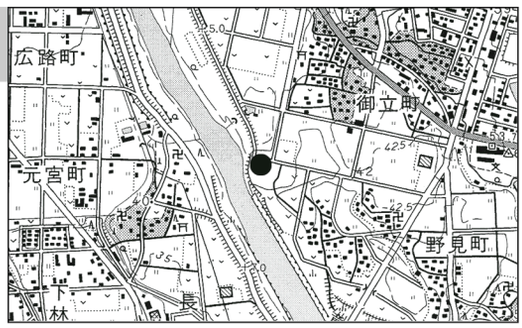
立地と環境　本遺跡は、稲沢市平和町に所在し、三宅川やそれに先行する河道によって形成された微高地上に位置する。近隣には、弥生時代前期の野口・北出遺跡や同時代中期の一色青海遺跡、奈良時代の寺院跡の三宅廃寺などがある。

調査の概要　昭和40年以降に実施された土地区画整理事業によって行われた盛土などの表土を約30㎝除去すると、検出面が現れる。検出される遺構は、一番南に位置するA区に北東方向から南西方向に走る自然流路1条、B区に井戸２基、自然流路と同方向の溝６条以上などがある。自然流路は、三宅川成立以前のもので、自然堆積によって埋められ近世以降においては水田として利用されていた。それは、明治期に作成された地籍図からも読み取ることができる。２基確認できた井戸は、ほぼ掘削できた井戸（SE01）は、曲物などの構造物をもち、遺物は奈良時代から平安時代までの須恵器や灰釉陶器が多い。しかし、13世紀の遺物が若干存在するので、井戸としての掘削時期はその時期だと思われる。もうひとつの井戸（SE02）も、遺物は少ないながらも、堆積状況が似ているので同時期のものと思われる。その他の遺構は、近世後期から現代までの耕作に伴うものと思われる。（加藤博紀）


SE01遺物出土状況　南東から

牛寺（ごでら）遺跡

所　在　地　豊田市御立町11丁目
（北緯35度4分25秒、東経137度10分17秒）
調 査 理 由　矢作川野見地区改修事業
調 査 期 間　平成17年6月～7月
調 査 面 積　1300㎡
担　当　者　小澤一弘・永井宏幸・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5万「豊田南部」）

調査の経過　本遺跡の調査は、矢作川野見地区改修事業に伴う事前調査として、国土交通省豊橋河川事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年6月から7月にかけて実施した。調査面積は1300㎡である。

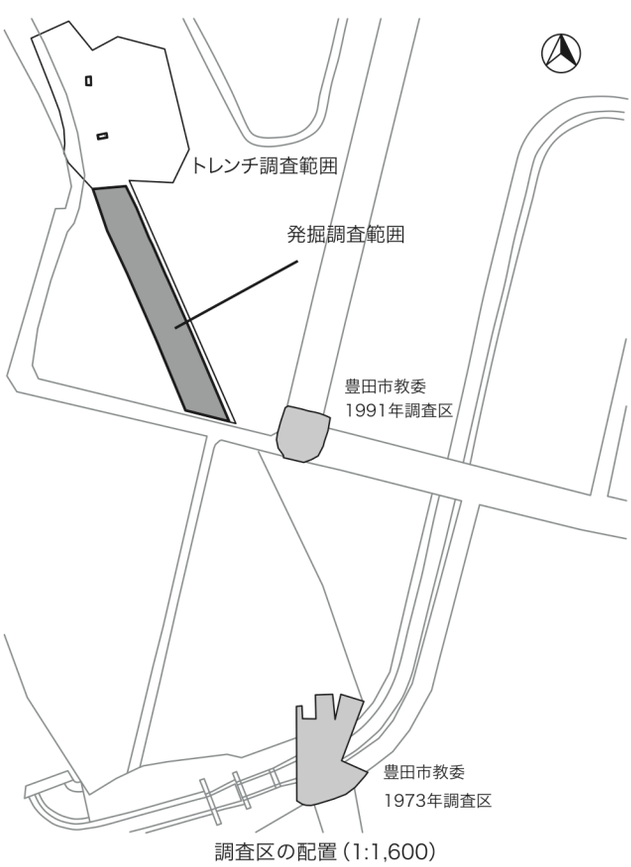
立地と環境　本遺跡は矢作川左岸の段丘低位面上、標高約39mに位置する。遺跡は南に牛寺廃寺、北に古城遺跡が隣接し、同じ段丘上には曽根遺跡、八柱神社古墳、市塚古墳などが所在する。

調査の概要　調査の結果、以下の遺構を確認した。

縄文時代　後世行われた整地の影響を受けており、周溝などを確認する事ができなかったが、竪穴住居に伴う柱穴を1棟分確認した。また土坑SK06aでは土器敷炉を確認した。敷設されていた土器が神明式にあたる事から、縄文中期後半に位置づけられる。またSK06bでは打製石斧が出土している。

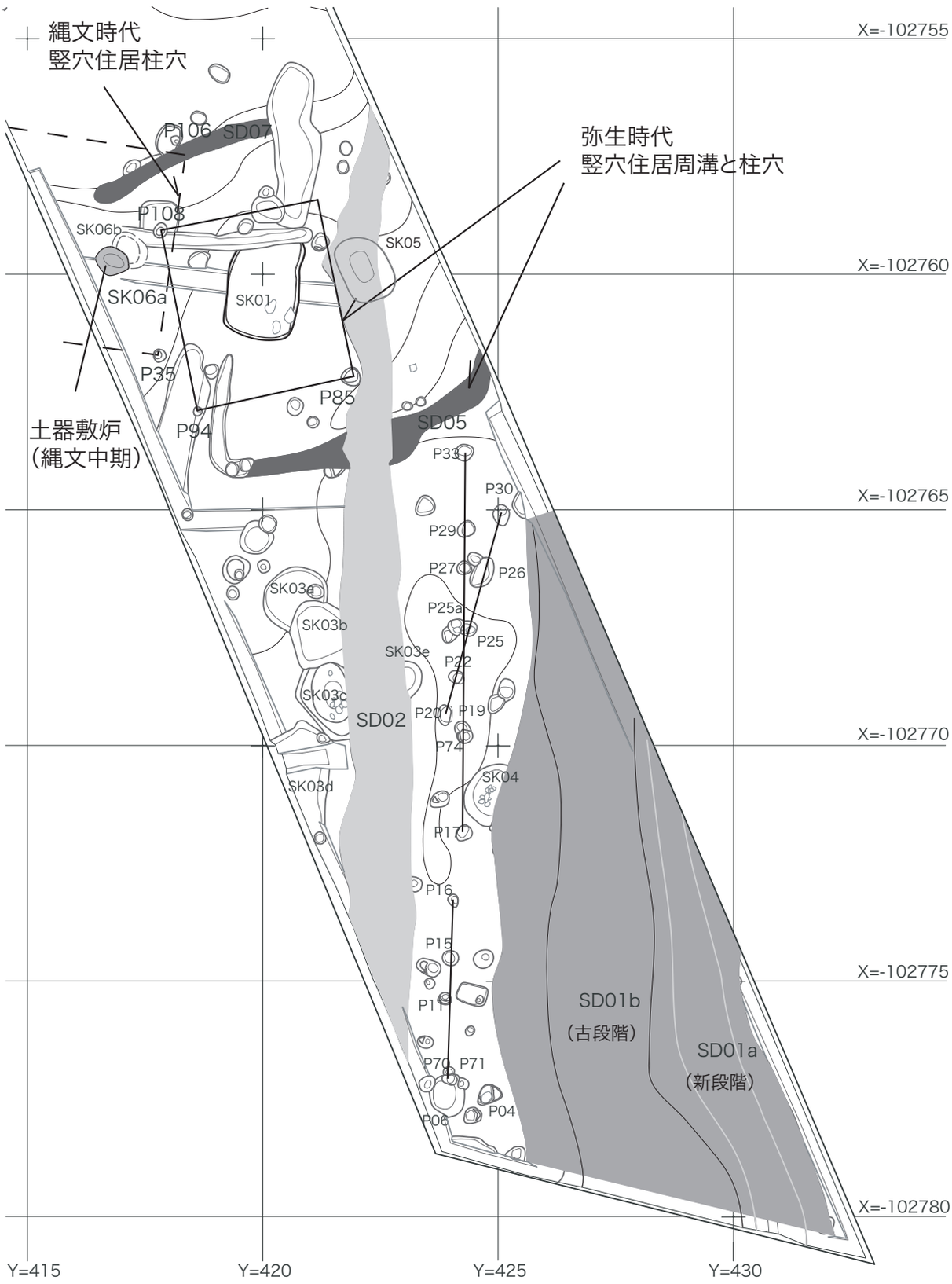
弥生時代　SD05とSD07は竪穴住居の周溝と考えられ、P85、P94、P105はこれに伴う柱穴と考えられる。SD05の付近からは高杯の脚部が出土している。

古代以降　南北に伸びる溝SD01・02を確認した。このうちSD01は幅５～６ｍを測り、古・新の２段階に分かれる。出土遺物から古段階は尾張型山茶碗5形式もしくは6形式、新段階は古瀬戸後期に位置づけられる。またSD01・02に平行するピット列も確認されており、何らかの区画を表していると考えられる。このほかにSK03・04が確認されている。なお調査区の北側は急激に傾斜しており、トレンチ調査を実施したが遺構を確認する事はできなかった。矢作川と賀茂川の合流地点に相当すると考えられる。



調査区の配置（1:1,600）

まとめ　今回の調査の結果縄文中期及び弥生時代の遺構が確認されたことは、この地域における集落の存在を推定する大きな根拠となりうるものである。また調査区のすぐ東では1991年豊田市教育委員会により発掘調査が行われ、今回と同様に12世紀中葉から後葉にかけての溝とピット列が確認されている。北200mに隣接する古城遺跡との関連を含め、今後遺構の検討が必要となろう。（鵜飼雅弘）


縄文時代
竪穴住居柱穴
弥生時代
竪穴住居周溝と柱穴
土器敷炉
(縄文中期)
P106
SD07
P108
SK06b
SK06a
SK01
SK05
P35
P94
P85
SD05
P33
P30
P29
P27
P26
SK03a
P25a
SK03b
P25
SK03e
P22
SK03c
SD02
P20
P19
P74
SK04
SK03d
P17
P16
P15
P11
SD01b
(古段階)
SD01a
(新段階)
P70
P71
P06
P04
X=-102755
X=-102760
X=-102765
X=-102770
X=-102775
X=-102780
Y=415
Y=420
Y=425
Y=430

主要遺構図



調査区全景　南東から



竪穴住居完掘状況



SK06a土器敷炉出土状況



SK06b石斧出土状況



高杯出土状況



SD02石組出土状況



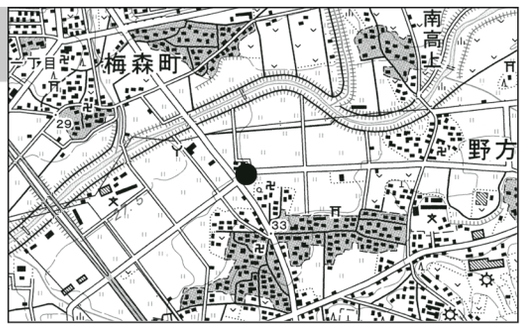
SD01・02完掘状況



SK03石出土状況

三ヶ所（さんがせ）遺跡

所　在　地　日進市浅田町地内
（北緯35度7分47秒 東経137度1分20秒）
調 査 理 由　県道岩崎名古屋線道路改築
調 査 期 間　平成17年８月～９月
調 査 面 積　800㎡
担　当　者　小澤一弘・永井宏幸

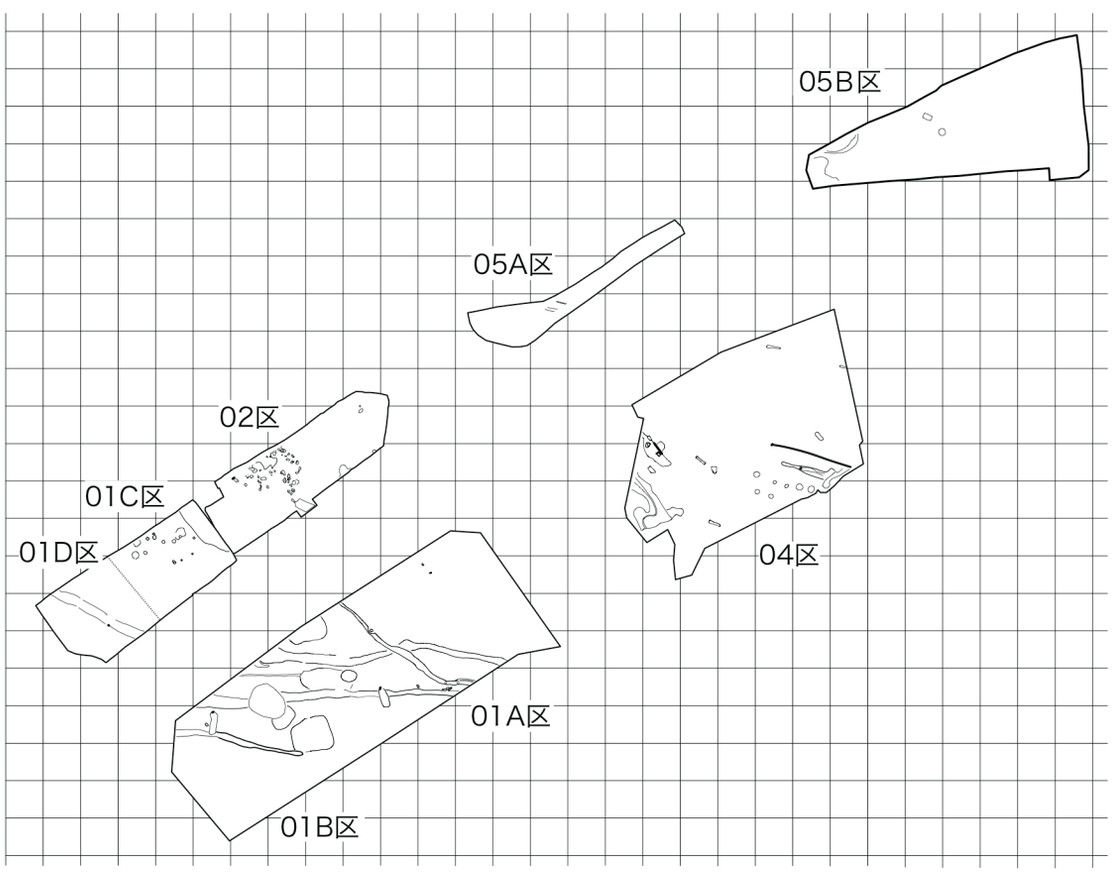


調査地点（1/2.5万「平針」）

調査の経過　調査は、岩崎名古屋線建設の事前調査として、愛知県道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成13年度（1,550㎡）、平成14年度（370㎡）、平成16年度（880㎡）の３次にわたりおこなった。今回は４次調査にあたり、平成17年８月から９月にかけて実施した。調査面積は800㎡である

立地と環境　三ヶ所遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道153号線バイパス浅田西交差点の北東500mに位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は28m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した西田面遺跡が500m南西にある。

調査の概要　調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。本年度の調査区は、遺構と遺物が極めて少ないことから、遺跡の北西端と考えられる。



遺構配置図（1：2000）

05A区は、耕地整理前の用水路跡を確認した。調査区内で確認できる範囲では、若干北に振るほぼ東西方向の溝で、おそらく04区水路１および２に繋がる溝であろう。

05B区は、土坑2基と溝1条を検出した。いずれも尾張型第6型式の灰釉系陶器を伴う遺構であった。

ま と め

4年にわたる調査の結果、調査面積が都合3,600㎡に達した。本年度の調査は最終年度にあたるので、調査成果をまとめておきたい。

遺跡の大半は、大きく3時期に分かれる。10世紀代を中心とした遺構・遺物群、12世紀半ばを中心とした遺構・遺物群、そして近世から耕地整理直前の水田関連の水路。現在の三ヶ所交差点がちょうど自然流路にあたり、南東から北西へ、天白川へ向かって流れている。この流路の方向と沿うように遺構が展開する。

04区の西端で確認した溝SD605は古代の流路と想定できる。01AB区の古代溝群は微高地縁辺に位置し、水路あるいは道路遺構に伴う溝の可能性が指摘できる。

中世の遺構は土坑を中心に検出した。土坑の性格を直接示すものはない。

近世以降は、耕地整理前の景観が旧地図から窺える。水田を中心とした地区にあたる。

（永井宏幸）



調査区全景（東から）

桑下東窯跡（くわしたひがし）

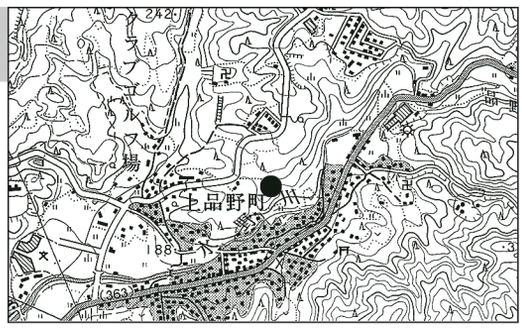
所　在　地　瀬戸市上品野町地内
（北緯35度15分25秒 東経137度8分33秒）

調 査 理 由　国道363号改良

調 査 期 間　平成17年９月～平成18年３月

調 査 面 積　4,726㎡

担　当　者　小澤一弘・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5万「多治見」）

調査の経過　本遺跡の調査は、国道363号の改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年9月から平成18年3月にかけて実施した。調査面積は4,726㎡である。

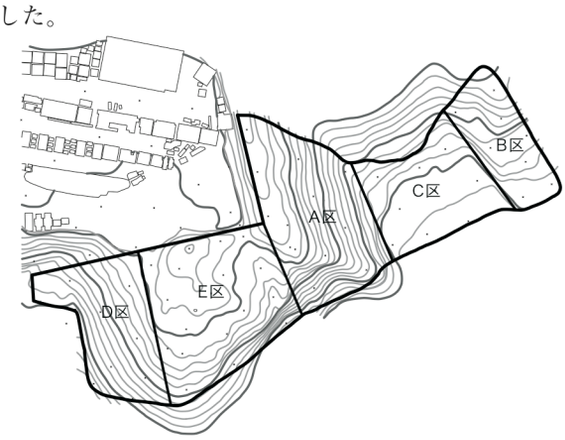
立地と環境　本遺跡は品野盆地の北東、水野川北岸の丘陵上標高220mに立地する。遺跡の西には桑下城跡、東には西金地遺跡が隣接する。また水野川の対岸標高300mの丘陵上には、品野城跡が立地する。

調査の概要　調査区は着手した順番でＡ区からＥ区に区別した。以下、調査により明らかになった成果を、調査区ごとに紹介する。

Ａ　区　調査区東側の平坦面及び高低差を持つ斜面を範囲とする。表土直下で作業場SX01を検出した。SX01は南北13m、東西10mの範囲に及び、南端には南北２群の石敷が見られる。うち北寄りの一群は東側へ傾斜し、周囲からは挟み皿が集中して出土した。石敷の東側は急傾斜となるが灰層状の堆積が見られ、擂鉢・端反皿・匣鉢等が集中して出土した。SX01を拡張するため斜面に盛土を施し、更に盛土の平坦部を維持するために石敷を敷設したと考えられる。

石敷周辺では精製された粘土の散布がみられたため、更に掘削して遺構を確認したところ、ロクロピット40基を検出した。ロクロピットは大別すると、A）平面形態が円形で、粘土が充填されたもの、B）平面形態が円形で、拳よりやや小さい石で軸周りを固めたもの、C）土坑状の楕円形の平面形態で、埋土が地山と同じ茶褐色、中程から粘土混じりの土で軸周りを固めたもの、に分類可能である。これらロクロピットの間には相互に切り合いを持つものもみられ、石組井戸のように石を周りに巡らせたもの、焼台に穴をあけたもの等もみられた。このほか方形の土坑が確認された。SX01より北では遺構は確認されていないが、表土直下から狛犬の胴部が1個体出土した。

Ｂ　区　Ｂ区　調査区の東端にあたり、西金地遺跡に隣接する。斜面を南向きに削り、平坦面を４段つくる。このうち最上段および２段目の平坦面では集石を検出し、下部から土壙墓が検出された。また最上段の土坑墓の周囲では排水溝SD24を確認した。出土遺物は大窯の年代観を示すことから、窯とほぼ同時期の構築が考えられる。２段目にある方形の土坑墓



調査区の配置

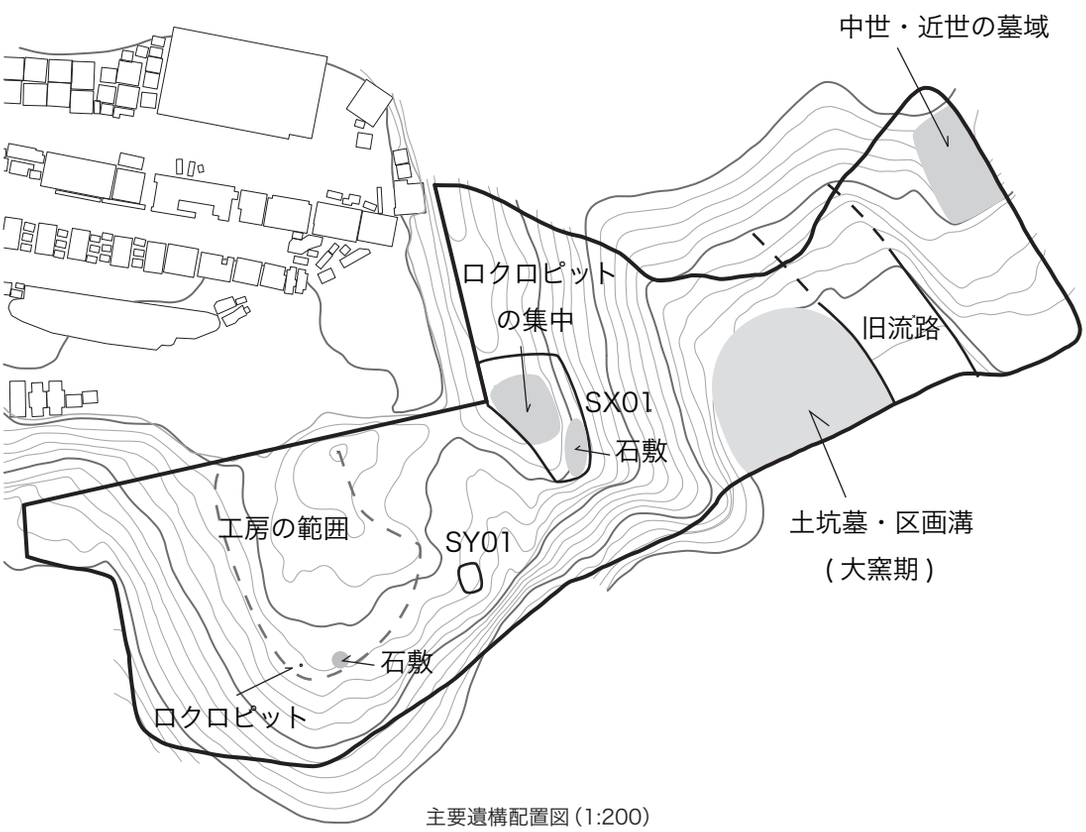
SK12は、出土遺物から17世紀半ばの構築と考えられる。SK12の西４mでは石囲いの溜井戸SE01を検出し。遺構からは近世の徳利、柳茶碗等が出土した。残る下の２段は、後世の耕地造成の影響を受けていたものの、竪穴状の遺構SK02を確認した。SK02は半分以上を削られているものの、壁面は強く被熱している。遺物は擂鉢が出土しているが、あるいは小窯に類するものの可能性がある。

C　　区　A区とB区にはさまれた、谷間の調査区である。谷の東寄りは自然流路と化しているものの、調査区西寄りでは多数の柱穴・土坑・区画溝を確認した。このうち土坑SK21からは、炭化物を多く含む埋土と拳大の石が出土した。形態から火葬墓と考えられる。また柱穴の中には打ち込み柱が多く見られ、P105では柱とともに礎板が出土している。出土遺物は大窯の年代観を持つものが多く、完品が比較的多い事も特徴である。このほか漆椀・箸・木製の鍬・銅製金具などが出土している。谷の埋没後は水田として利用されていたが、出土遺物からは近世中期以降の開墾が想定される。

D　　区　調査区の西端、西に傾斜する斜面及び谷の部分である。その西に桑下城跡が隣接する。明確な遺構は確認できなかったが、谷に堆積する赤色土から手水鉢が1個体出土した。その下層の白色粘土層からは匣鉢片が出土したが、崩落の危険が予想されたため、トレンチよる確認に留めた。

E　　区　窯体SY01およびその西に展開する平坦部をさす。SY01は窯体の床面及び壁面の一部が残存しているものの、窯体右側は既に流失していた。中軸線はほぼ南北方向、残存長は約2.4m、燃焼室の幅は約2m、焼成室床面の傾斜は約26°である。燃焼室には小分焔柱が、焼成室には分焔柱および支柱の痕跡がある。

SY01の西側では作業場が確認された。作業場は調査区の大半で連続して展開しており、



主要遺構配置図（1:200）

斜面では基盤岩を掘削し平坦面を確保している。また末端部では粘土が混じった土を貼り、補強している。このうちSX02は方形のプランを持ち、壁際に排水溝を施す。またSX03の南端ではロクロピット及び方形の土坑が確認された。丘陵の頂部には掘立柱建物SB01が検出された。(鵜飼雅弘)

ま と め　桑下東窯跡の調査では新たな発見が相次いだ。第１はA区のロクロピット群である。約50㎡の範囲から63基を検出した。またE区でも３基を検出した。第２には丘陵全体に土木事業が施され、窯体の周辺には石敷、竪穴状作業場、住居跡もしくは作業施設、縁辺部には盛り土がみられ、大規模な作業空間を造成していた事である。第３にはC区の谷の柱穴群とB区の土壙墓である。今まで見過ごされていた谷部より遺構を検出した事により、今後の窯跡の調査に一石を投じる事となった。出土遺物の大半は匣鉢と挟み皿の窯道具である。製品としては天目茶碗、灰釉丸碗、端反皿、擂鉢が多くみられるが、狛犬、魚型掛け花生、燭台なども出土している。(小澤一弘)



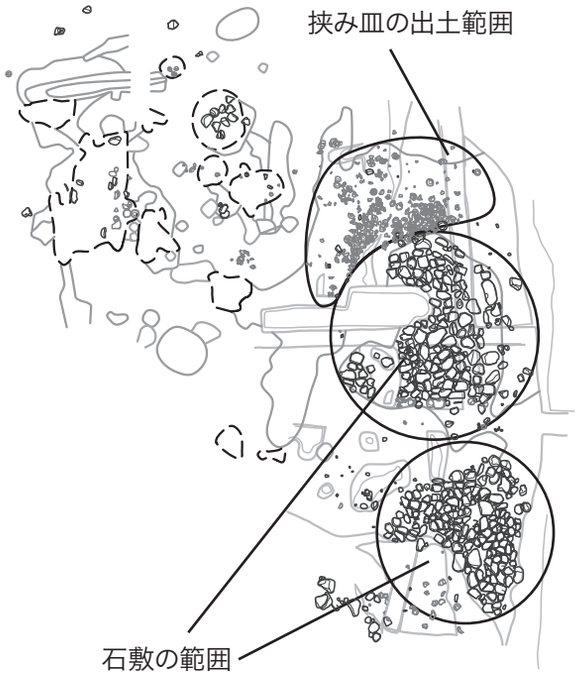
A区ロクロピット



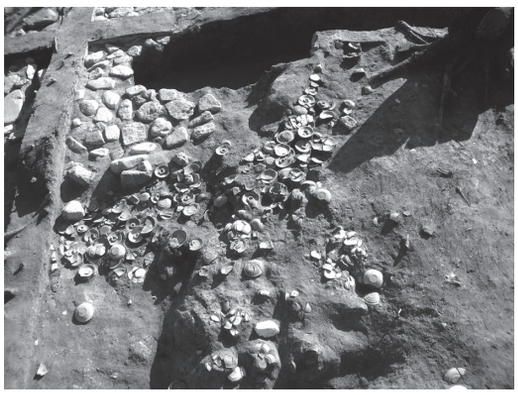
A区出土狛犬



A区石敷検出状況



SX01石敷・挟み皿の分布（1:150）



SX01 挟み皿



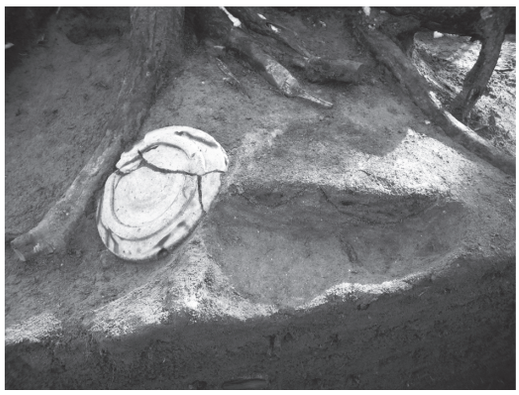
SK09 完掘状況



B区 SK02出土状況



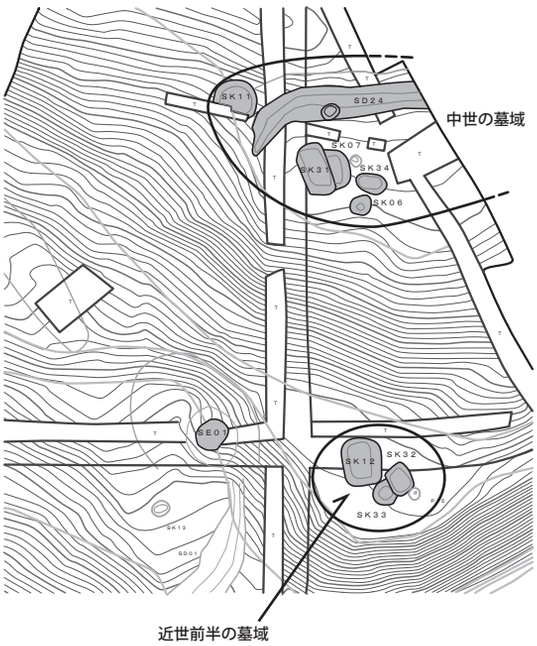
C区 SK21出土状況



D区 手水鉢出土状況



C区 礎板



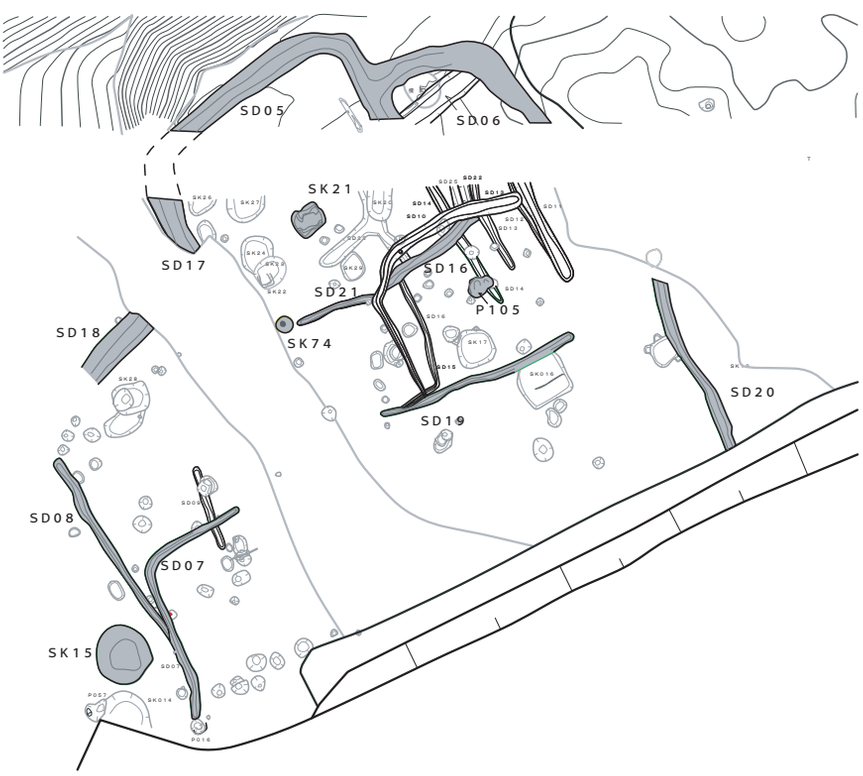
B区の主な遺構 (1:200)



B区土坑墓半裁状況



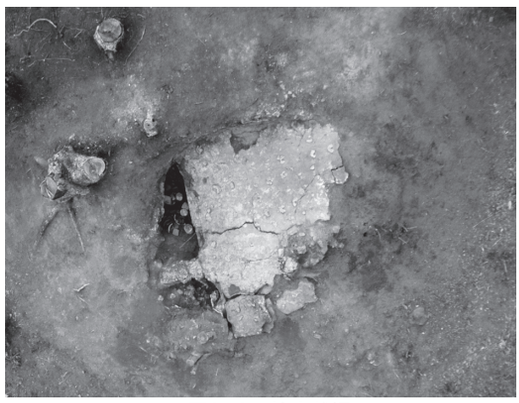
B区 SE01



C区の主な遺構 (1:200)



SY01窯体部分 (1:40)



E区SY01 検出状況



E区 SB01



E区 作業場出土状況

大坪西遺跡（おおつぼにし）

所　在　地　瀬戸市大坪町
（北緯35度11分39秒 東経137度6分12秒）
調 査 理 由　国道248号線建設
調 査 期 間　平成17年11月～12月
調 査 面 積　380㎡
担　当　者　小澤一弘・樋上　昇



調査地点（1/2.5万「瀬戸」）

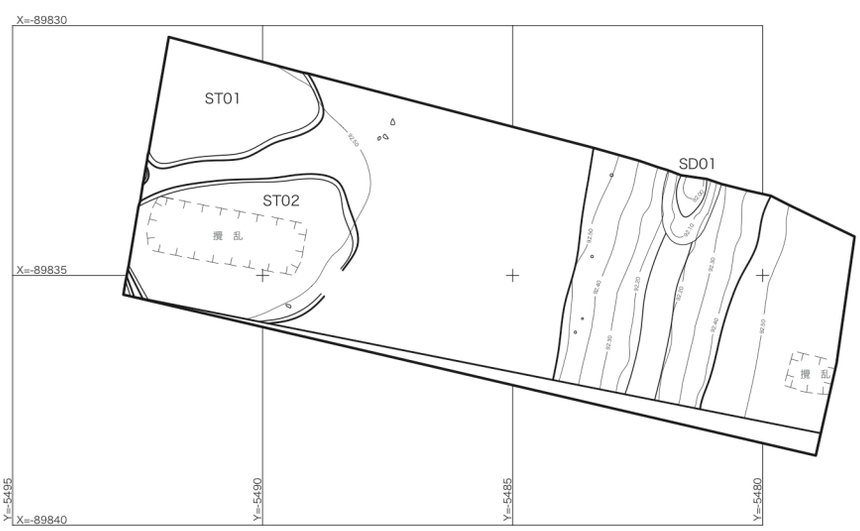
調査の経過　本遺跡の発掘調査は、国道248号線の建設にともなう事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年11月から12月にかけて実施した。調査面積は380㎡である。

立地と環境　大坪西遺跡は瀬戸市南部に位置し、東から西に流れる山口川（矢田川）によって形成された沖積地と、遺跡の南東に聳える猿投山から派生する丘陵部との境に立地している。標高は約92mである。

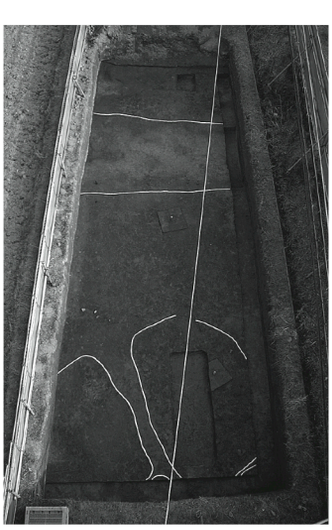
調査の概要　すでに平成12・13年度に、今年度調査区の西側で発掘調査が行われており、縄文後期に属する、南から北に流れる自然流路1条と土器集積遺構4基・土坑2基と、古墳前期の水田跡が確認されている。今回の調査区では、縄文後期中葉の竪穴住居3棟と溝3条、土坑20基、ピット66基および古墳前期の水田区画2筆を検出した。

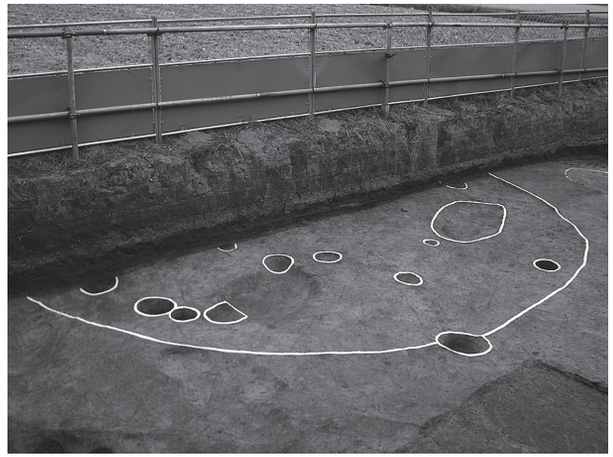
縄文後期の遺構群では、調査区西寄りで直径約6mの円形住居SB01および、その東に竪穴住居の掘り込み面は失われているが、円形にめぐる柱穴列が確認できたSB02・03がある。さらにSB01の付近には、土坑SK01～12のほか、平面がL字形に曲がる溝SD02がある。うちSB01、SK08～10・12からは、磨製石斧や石鏃のほか、200点近い石器の剥片が出土している。なお、調査区の東端付近では、昭和40年頃に削平された、南からのびる尾根筋を確認し、この尾根筋が遺跡の東限にあたることが判明した。

古墳前期の水田跡は、調査区の西端で南北に並ぶ2筆（ST01・02）を検出するにとどまり、これ以上東には水田域が広がらないことを確認した。さらに水田区画の東には南北溝SD01がある。遺物は縄文後期と古墳前期の土器を含むが、水田区画とは方位が異なることや、水田耕作土と同一層である黒色粘土層を切って掘削されていることから、水田区画よりも新しく、さらにこの溝が洪水によって埋没したのちに形成された土層から山茶椀が出土しているため、中世より以前に機能していたと考えられる。（樋上　昇）



上面遺構（古墳前期水田区画　1:150）


上面遺構全景



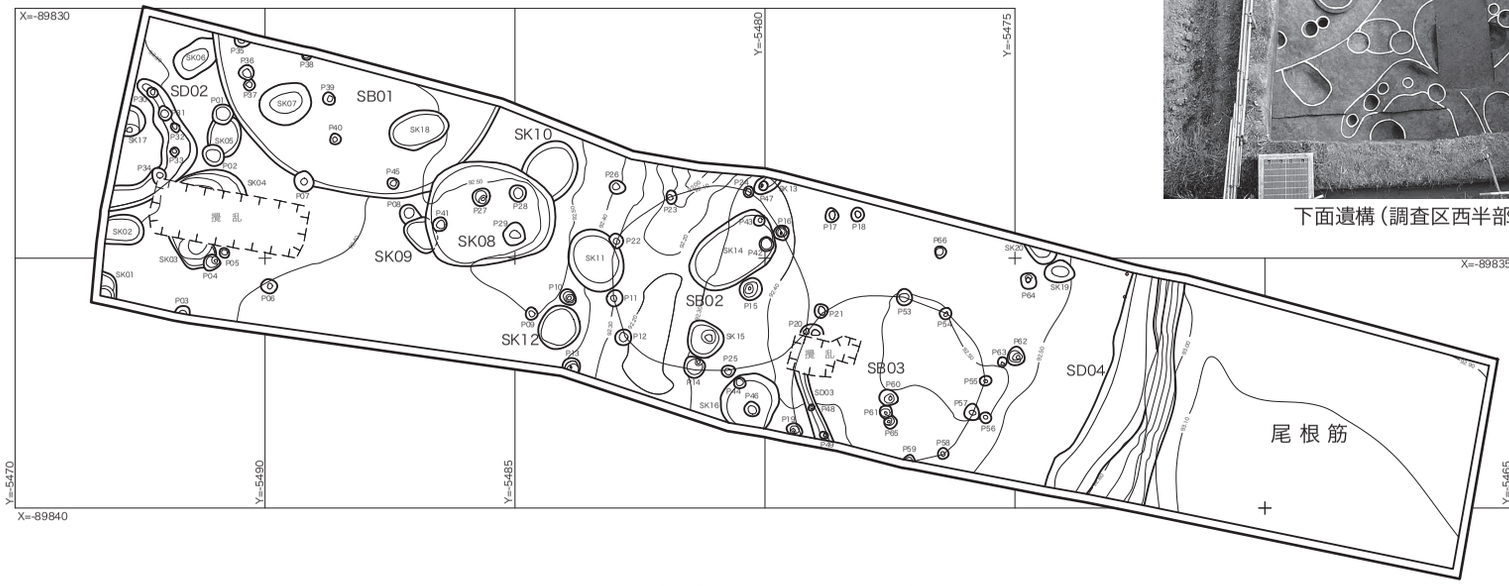
SB01全景



SK08石器出土状況



下面遺構（調査区西半部）



下面遺構（縄文後期中葉　1:150）

鎌倉街道周辺遺跡（かまくらかいどうしゅうへん）

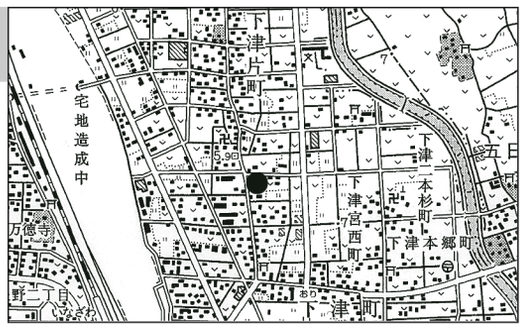
所　在　地　稲沢市下津新町
（北緯35度15分27秒 東経136度49分33秒）

調 査 理 由　道路改良事業(都市再開発関連)主要地方道路名古屋豊山稲沢線

調 査 期 間　平成17年４月～11月

調 査 面 積　2,278㎡

担　当　者　宮腰健司・鈴木正貴・加藤博紀



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　調査は愛知県建設部道路建設課による県道名古屋豊山稲沢線の改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成17年４月から11月にかけて実施された。調査区を旧岐阜街道などが存在するためA区～C区の３つに分けて行った。

立地と環境　鎌倉街道周辺遺跡は稲沢市赤池東山町から下津下町までの青木川右岸に位置する広大な遺跡である。尾張平野を流れる三宅川や青木川などによって形成された自然堤防および後背湿地上に立地し、現地表面の標高は約６mを測る。遺跡中央部の現在下津小学校付近には15世紀代に尾張守護所があったと伝えられる下津城跡があり、また西方２～３㎞には古代の尾張国府跡があったと推定されている。今回の調査区は、遺跡の西端部中央に位置しており、稲沢市下津新町に所在する。

調査の概要　今回の調査では、古墳時代から江戸時代までの遺構や遺物が確認された。遺構は古墳時代、古墳時代末～平安時代（古代）、鎌倉・室町時代、江戸時代後半に大別できる。調査は繰り返し積み重なった河川堆積物を検討することによって４面の遺構検出面を把握して進めたが、検出が難しい遺構もあり必ずしも遺構の時期と遺構検出面は対応していない。C区の西側に現宮田用水が流れているが、明治17年作成地籍図によれば青木川から分流する旧河川が用水の位置に流れていたと推測され、調査地点はその旧河川によって形成された自然堤防上に立地すると考えられる。B区南東端部から東側は水田が広がる後背湿地状となっており、遺構の密度は急激に希薄となっている。

古墳時代前期　A区では現地表下約2.2mの黒灰色粘土層上面で浅い落ち込み状の土坑が数基確認された。このうち土坑SX07ではS字状口縁台付甕が埋設されていた。

古墳時代末～平安時代　この時期の遺構には竪穴建物跡約50棟、掘立柱建物跡３棟、溝、土坑などがあり、本遺跡の中心をなす段階と考えられる。竪穴建物跡は全ての調査区で確認され、平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。カマドの痕跡を持つものが数基存在するが、残存状況は不良で破壊されていた。A区中央部ではわずかに地形が落ち込んでおり、竪穴建物跡は少ない。その代わりに第４面の遺構として２間×３間の総柱の掘立柱建物跡が２棟確認された。時期を確定することは難しいが、掘立柱建物跡の方位に平行する溝SD43から出土した遺物などから見て、おそらく奈良時代に属するものと思われる。また、B区中央部では９世紀以降の２間×３間の掘立柱建物跡が１棟発見されている。

出土遺物は須恵器杯類や土師器甕が多く、これまでのところ硯など官衙関連遺跡で見られるような特異な遺物は存在しない。これらの状況から、律令体制下における新規開発に伴う竪穴建物跡を主体とした集落と位置づけられ、その一角に掘立柱建物跡の倉庫が設けられたものと推定される。

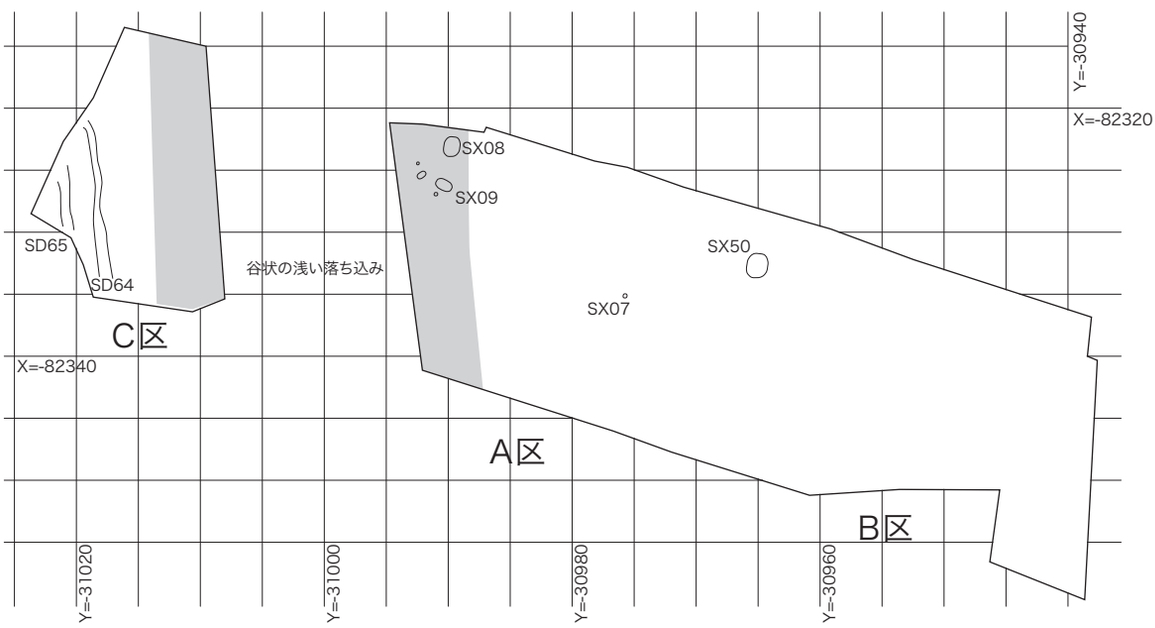


図１　古墳時代前期の主要遺構配置図（1:600）

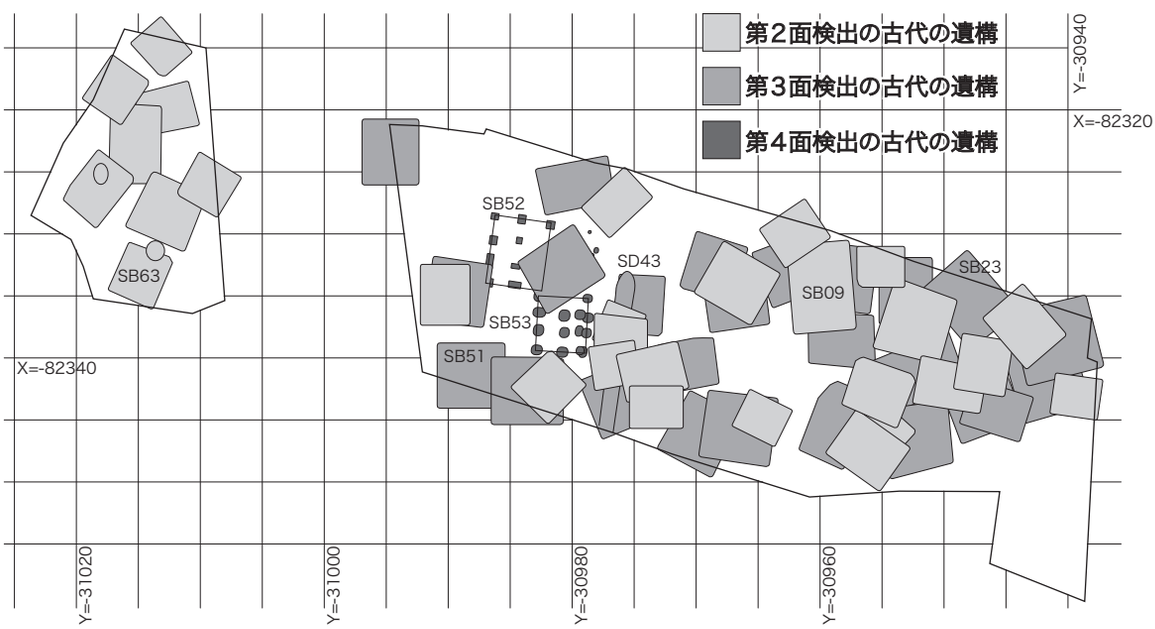


図２　古墳時代末～平安時代の主要遺構配置図（1:600）

鎌　倉・室町時代

平安時代末期から鎌倉時代では、幅が1～4mの溝で囲まれた屋敷地が確認された。区画溝SD11などからは藤澤編年第4～5型式の尾張型山茶椀等が出土した。B区では井戸SK14が発見されたが、井戸側構造物は残存していなかった。

室町時代では、溝2条とそれに平行する形で掘立柱建物跡が2棟以上確認された。溝は屋敷地を区画するものと思われ、鎌倉時代の溝とは方位が異なる。出土遺物は少ないが東濃型山茶椀などが存在しており15世紀前半に位置づけられる。鎌倉時代とは地割の方位が大きく異なることから、集落の変遷において大きな画期が存在した可能性を考えることもできる。

江戸時代以降

江戸時代の遺構としては区画溝、井戸、畑、水田跡などが確認された。A区とC区の間には江戸時代に開設された岐阜街道が通っており、井戸の配置からみてこの街道に沿って屋敷が並んでいたと考えられる。この屋敷裏に相当するB区では溝で区画された畑や水田跡が確認された。出土遺物からみて18世紀後半以降の屋敷と思われ、下津片町と下津下町の間に所在する下津新町は18世紀後半頃から形成されたと考えられる。

ま と め

今回の調査の結果、調査区の北西に流れる古河川によって形成された自然堤防の微高地に古墳時代末期からほぼ連綿と集落が展開していたことが判明した。鎌倉街道は調査区の東約500mの位置に現青木川に並行して通っていたと推定され、推定鎌倉街道が乗る自然堤防と本調査区が所在する自然堤防は異なる可能性が高い。本調査区は、古代の集落のあり方などからみて推定鎌倉街道近辺の遺跡とは異なる遺跡と認識した方が理解しやすいといえる。ただし、尾張守護所が下津にあった室町時代では地割の方位が変更されており、かつ調査区が下津城跡推定地から南西に500mの地点であることから、中世「下津」の一角を担う集落であった可能性も考えられる。（鈴木正貴）

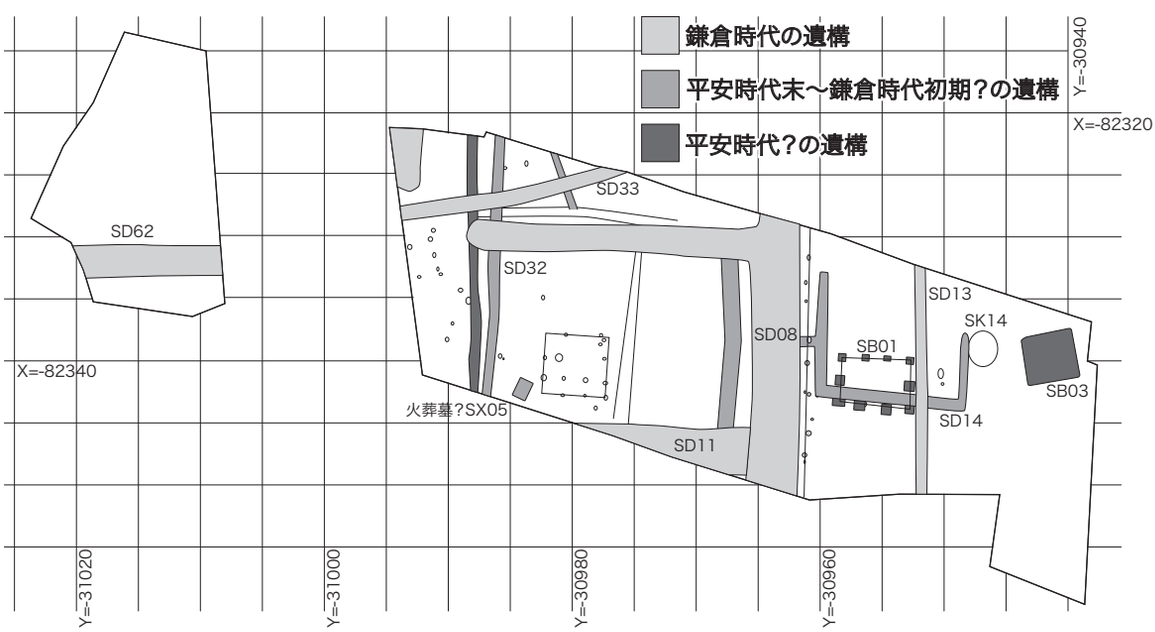


図３　平安時代～鎌倉時代の主要遺構配置図（1:600）

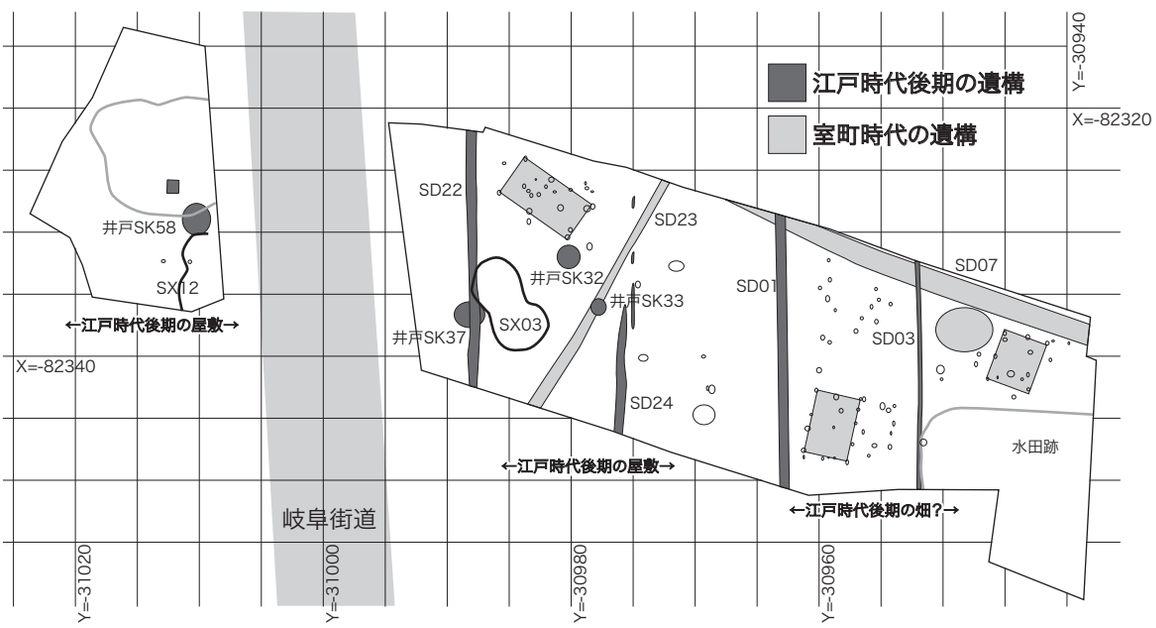
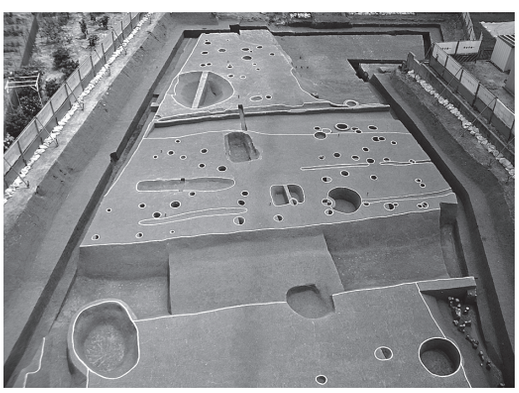
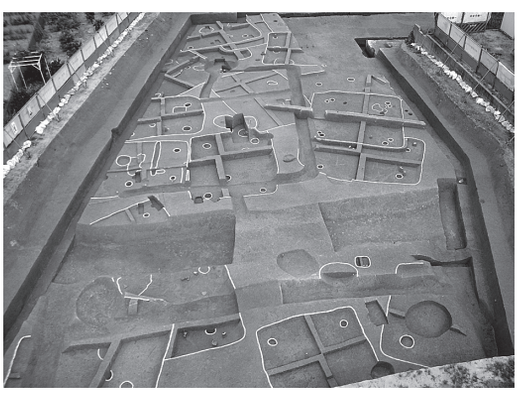


図４　室町時代～江戸時代の主要遺構配置図（1:600）



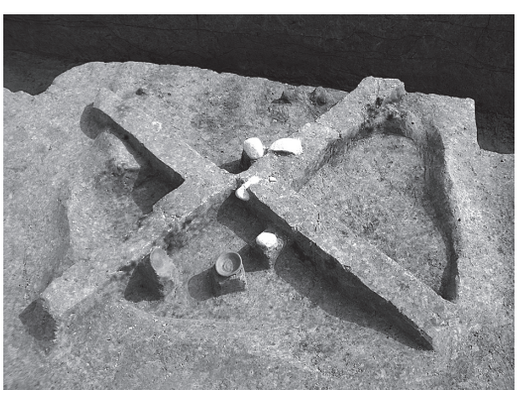
B区１面全体　鎌倉～室町時代の遺構　西から



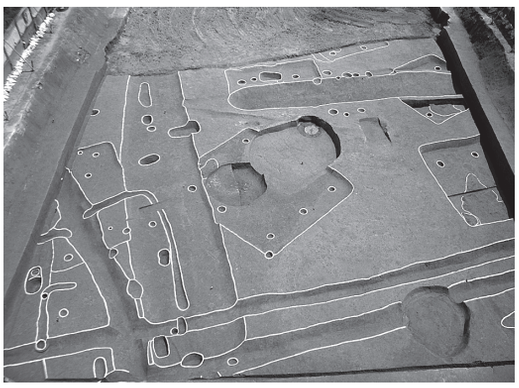
B区３面全体　奈良時代の遺構　西から



Aa区１面全体　鎌倉～江戸時代の遺構　西から



Aa区火葬墓？SX05　北西から



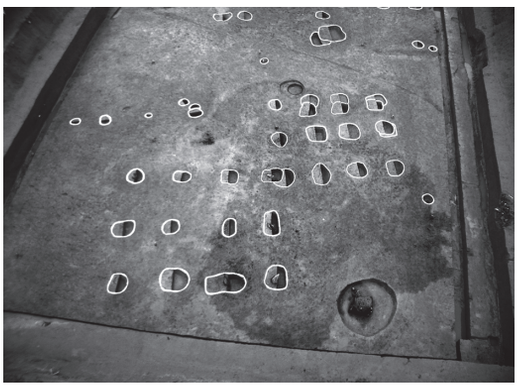
Aa区3面全体　奈良～鎌倉時代の遺構　西から



Aa区掘立柱建物跡SB53検出状況　北東から



Aa区土坑SX07遺物出土状況　南から



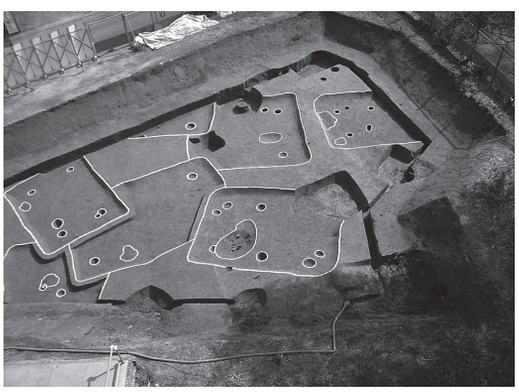
Aa区4面西半部　奈良時代の遺構　西から



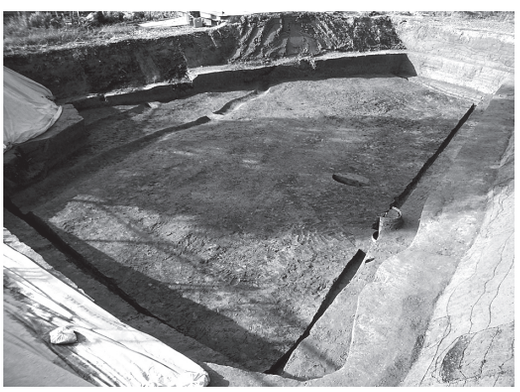
Ab区1面北半部　鎌倉～室町時代の遺構　北から



C区1面全体　室町～江戸時代の遺構　南から



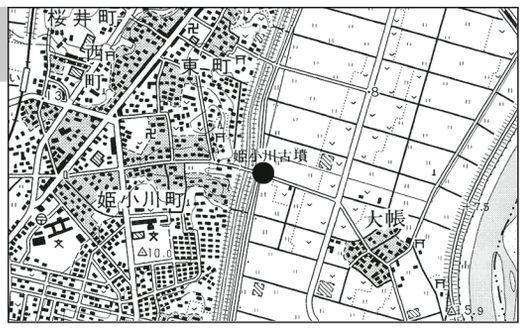
C区2面全体　奈良時代の遺構　西から



C区3面全体　古墳時代？の遺構　南東から

姫下（ひめした）遺跡

所　在　地　安城市姫小川町
（北緯34度54分52秒 東経137度5分49秒）
調 査 理 由　鹿乗川河川改良工事
調 査 期 間　平成17年10月～平成18年3月
調 査 面 積　3470㎡
担　当　者　宮腰健司・鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は愛知県建設部河川課による鹿乗川河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成17年10月から平成18年３月にかけて実施された。調査区は東西に横断する道路によって２調査区に区分され、北側を05Ａ区、南側を05Ｂ区と呼称した。

立地と環境　姫下遺跡は、碧海台地縁辺部直下の沖積地に立地する。遺跡の標高は約７ｍで、台地との比高は約４ｍを測る。この遺跡西側の台地縁辺には、獅子塚古墳・姫塚古墳・姫小川古墳・王塚古墳などの古墳が並び、特に全長69ｍの前方後円墳である姫小川古墳は、桜井古墳群中でも最大規模の古墳である。また遺跡の東には内行花文鏡を出土した八ツ塚古墳が、北約700ｍには人面文土器を出土した古墳時代初頭の亀塚遺跡や、南約700ｍには奈良時代の木簡が出土した下懸遺跡が所在する。

調査の概要　今回の調査で確認された遺構は、大きく弥生時代中期、古墳時代前期～中期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代、江戸時代に分かれる。また地形的にみると、05Ａ区と05Ｂ区間、05Ｂ区の南側に走る河川によって区切られている。05Ａ区と05Ｂ区間の河川は古墳時代後期以降に形成されたと考えられ、05Ｂ区の南側河川は古墳時代前期以前に形成され、古墳時代中期には大部分が埋没するが、中世までわずかに落ち込みが残存している。

弥生時代　05Ａ区の北西部で２棟の竪穴住居と土坑１基が検出され、弥生時代中期後葉の土器が出土している。

古墳時代前期～中期　05Ａ区から05Ｂ区北側2/3程が居住域で、その南側に北東から南西方向の河川が走る。居住域部分は、古墳時代後期以降の削平を受け、遺構の遺存状況はよくないが、少なくとも十数棟以上の竪穴住居があったと想定される。また05Ａ区では北西―南東方向に走るSD42が、05Ｂ区北西部では、炭化物・焼土を含む土坑群が16基検出されている。河川は大きくNR01とNR02に分かれ、幅の広いNR02埋没後、幅の狭いNR01が形成される。さらにNR01は埋没過程で、断面が逆台形を呈し、北東から南西・南方向を向く形状から、断面がややＶ字形で幅が狭く、東西方向を向く形状に変化する。NR01北岸を中心に、南岸、埋土中より高坏・壺・小型壺・鉢・甕・Ｓ字状口縁甕などの多量の土器や管玉・ガラス小玉が出土し、同じく河川埋土中より鍬・縦杵・横槌・杭や大型加工材を含む木製品も多く出土している。

古墳時代後期～奈良時代　05Ａ区の北部では古墳時代前期～中期の溝SD42に重複するように走る断面Ｕ字形の浅い溝SD43や、やや弧状になるように走る溝群が検出されている。また遺跡全域において、当期に属すると思われる、北西―南東方向の溝が多数検出されている。

平安時代　05Ｂ区南の河川は窪地状に落ち込んでおり、それより北側は居住域となる。居住域では70棟以上の竪穴住居や、当期と考えられる２×２（３）間の掘立柱建物が検出されている。

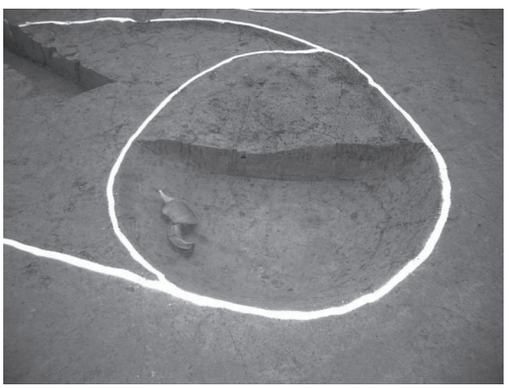
江戸時代　やや北東―南西方向を向く溝群や、05Ａ区南部を中心に連続する土坑群が検出されている。

ま と め　今回の調査では、古墳時代前期～中期と平安時代の遺構群が検出されたことが特筆される。古墳時代前期～中期の遺構群は、多量な土器・木製品の廃棄がみられた河川利用のあり方や、隣接する桜井古墳群との関連が注目される。また平安時代の遺構群は、碧海台地縁辺部に展開する同期の遺跡群の動向を考える上で貴重な事例になると思われる。

（宮腰健司）



05A区 江戸時代土坑群



05A区 弥生時代土坑



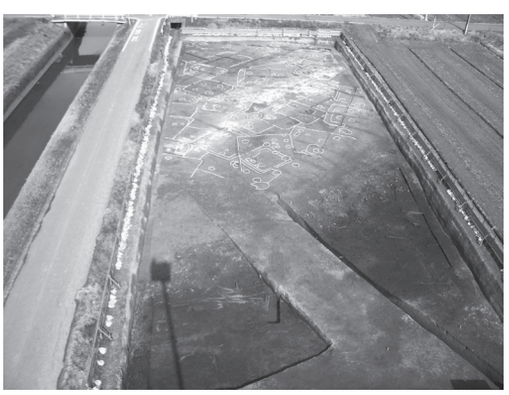
姫小川古墳と05A区古墳時代後期～奈良時代遺構



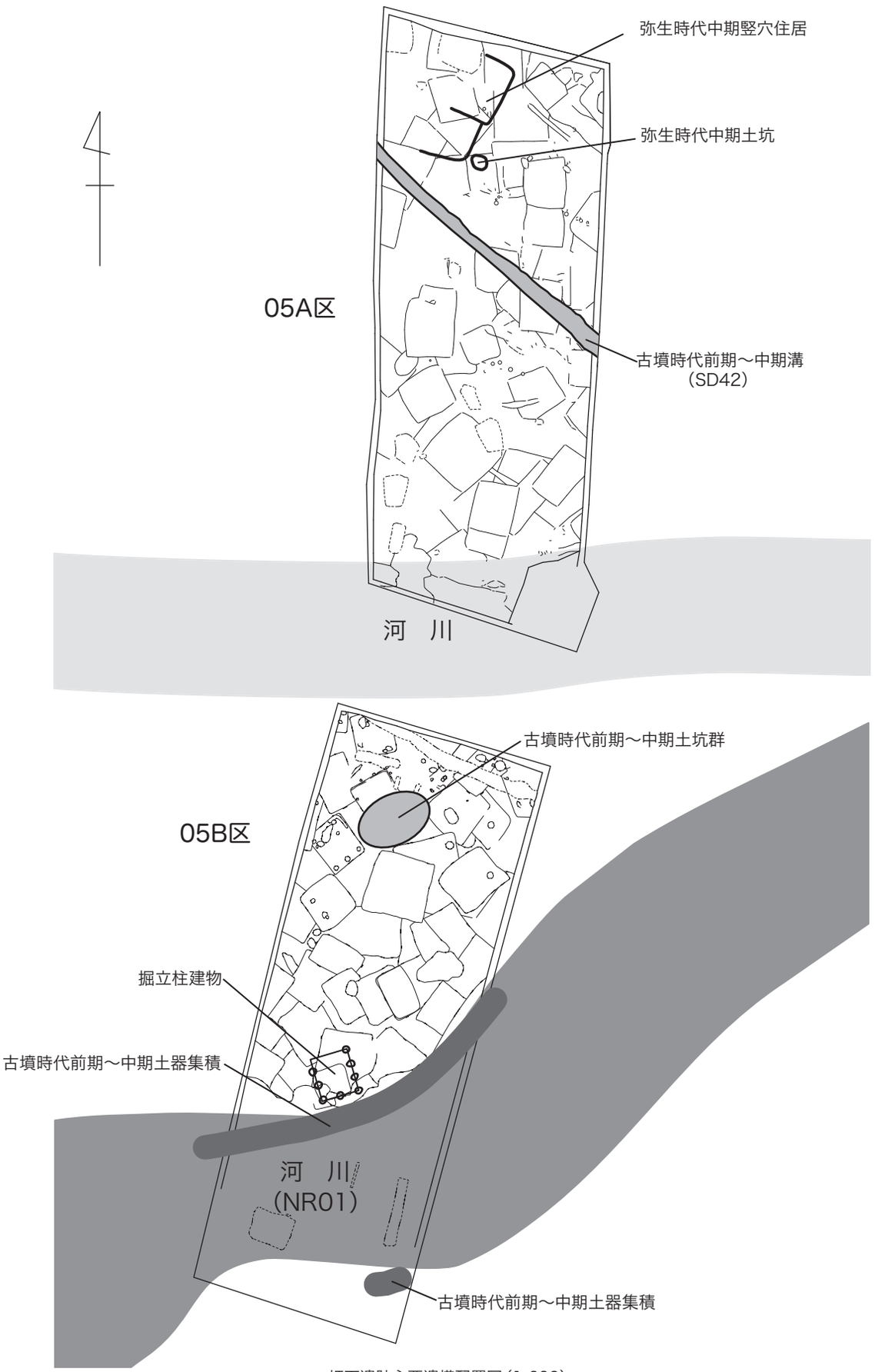
05A区 SD42



05A区 古墳時代・平安時代遺構



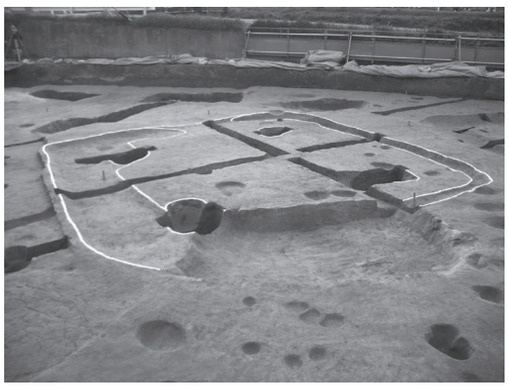
05B区 古墳時代・平安時代遺構



姫下遺跡主要遺構配置図（1:600）



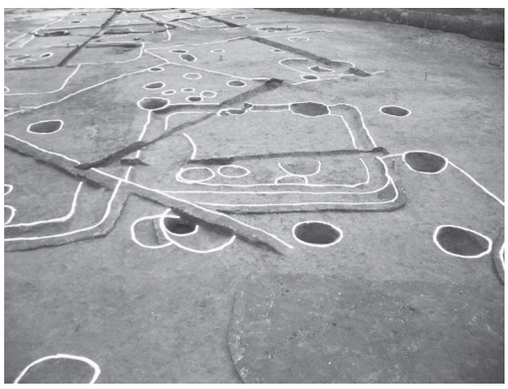
05B区 古墳時代中期竪穴住居



05A区 平安時代竪穴住居



05A区 SD43遺物出土状態



05B区 掘立柱建物



05B区 NR01



05B区 NR01北岸土器出土状態



05B区 NR01北岸土器出土状態



05B区 NR01木器出土状態

III. 刊行報告書抄録

第108集　水入遺跡

本書は、平成10(1998)～11(1999)年度に豊田市南部で行なわれた約67,000㎡におよぶ調査面積の発掘調査報告書である。水入遺跡は矢作川西岸の低～中位段丘に立地し、後期旧石器時代～江戸時代前半のさまざまな時期にわたる遺構・遺物が展開する。

後期旧石器時代　遺跡北東部ではナイフ形石器などの後期旧石器が多数出土した(第2章)。

縄文時代草創期～早期　遺跡中央部の谷地形南側では無遺物の焼土坑が多数ある。炭素年代測定法によって約9000年前という年代値が得られた。(第3章)

縄文時代中期後葉～後期初頭　谷地形の北側で2～3棟の竪穴建物からなる集落が展開し、南側では土坑群が展開する。(第3章)

縄文時代末期　遺跡各地点で土器棺墓がみられる。(第3章)

弥生時代末期　遺跡南部で竪穴建物からなる集落が展開する。時期は川原上層III式(廻間Ⅰ式前半併行期)である。(第4章)

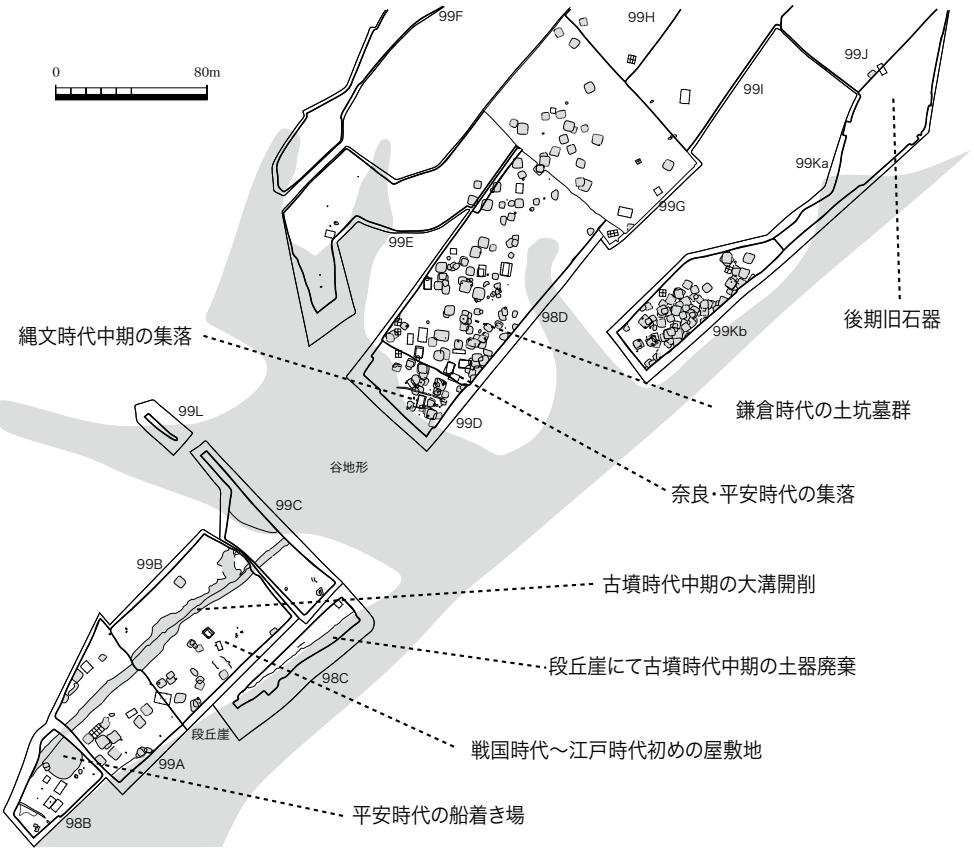
古墳時代中期　遺跡南部に灌漑目的と推測される全長220m以上の大溝が開削される。石製模造品を使った祭祀が行なわれた。また矢作川に面する段丘崖では多数の土師器廃棄があった(松河戸Ⅱ式併行期)。大溝機能停止後は掘立柱建物の集落が展開し、猿投窯初期段階の須恵器が多数廃棄される。三河地域で初めての軟質韓式系土器出土。(第5章)

奈良時代～平安時代　7世紀前半以降竪穴建物中心の集落が遺跡北部も含めて拡大傾向にある。それは8世紀半ばまで続き、8世紀末～9世紀初頭には低地に向かって集落域の移動がみられる。(第6章)

鎌倉時代　約300基にのぼる土坑墓が遺跡全体に展開する。土坑墓は青磁や刀子などが副葬された方形のものと灰釉系陶器が副葬されるか副葬品のない円形のものとに大別される。(第7章)

戦国時代　16世紀には古墳時代中期の大溝上部を再掘削・拡張して運河として再生する。運河と矢作川の間には直径20㎝以上の柱からなる掘立柱建物が配置され、川湊の様相を呈する。(第8章)

江戸時代前半　矢作川の洪水が頻繁になり、集落域としての利用はここで終る。(第9章)　(永井邦仁)



奈良～平安時代の主要遺構配置図

報告書抄録

ふりがな	みずいりいせき
書名	水入遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第108集
編著者名	永井邦仁・川井啓介・川添和暁・鬼頭　剛・鈴木正貴・森　勇一・藤根　久・今村美智子・植田弥生・佐々木由香・松葉礼子・宮塚義人
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
みずいりいせき 水入遺跡	あいちけんとよたしとがりちょう 愛知県豊田市渡刈町 おおやしき・しもかすめ 大屋敷・下糟目	23211	63475	35度 1分 40秒	137度 18分 20秒	1998.7.7 ～ 2000.3.30	67,850	第二東海自動車道豊田東I.C.建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水入遺跡	集落	後期旧石器時代	なし	ナイフ形石器・剥片	
		縄文時代 草創期～早期	焼土坑群	なし	放射性炭素年代測定による時期判断
		縄文時代中期	竪穴建物・土坑など	土器・石器	
		弥生時代末期	竪穴建物	土器	
		古墳時代 中期～後期	竪穴建物・掘立柱建物・大溝・土坑など	土師器・須恵器・韓式系軟質土器・木製品・石製模造品	
		奈良時代 ～平安時代	竪穴建物・掘立柱建物・船着場・土坑など	土師器・須恵器・土錘・製塩土器・瓦塔・緑釉陶器・灰釉陶器	
		鎌倉時代	竪穴建物・掘立柱建物・土坑墓など	灰釉系陶器・青磁・白磁・土師器・渥美産陶器・常滑産陶器	
		戦国時代～ 江戸時代初め	竪穴建物・掘立柱建物・大溝・井戸・土坑など	瀬戸美濃産陶器・土師器・木製品	

文書番号	発掘届出(10埋セ第140号 1998.5.15/11埋セ第87号 1999.4.2) 通知(10教文第61-18号 1998.6.8/11教文第61-17号 1999.5.6) 終了届・保管証・発見届(11埋セ第65・68号 1999.3.23/11埋セ第35・36号 2000.3.28) 鑑査結果通知(10教文第61-18号/11教文第61-17号)

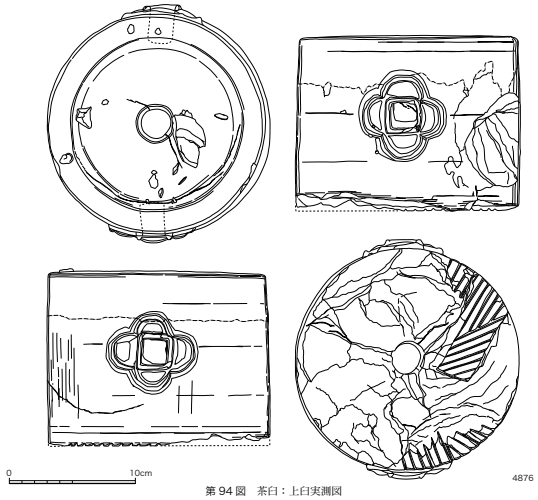
要約	水入遺跡は、矢作川西岸に面する中～低位段丘上に様々な時代の集落が展開する遺跡である。後期旧石器は流れ込みであったが付近に生活空間があったことが考えられる。縄紋時代草創期～早期には焼土坑群があり、同中期末に竪穴建物からなる集落が出現する。その後弥生時代末期に集落が展開するが、本格的な段丘面の開発が始まるのは古墳時代中期である。大屋敷地区に下流への灌漑を目的にしたと思われる全長200m以上の大溝が掘削され、大溝機能停止後も集落が展開、尾張産初期須恵器が多く搬入される。そして7世紀後半には下糟目地区も開発され、集落域が拡大する。古代集落は9世紀代に急激な縮小を経て、11世紀代にはほぼ廃絶する。次いで当該地は鎌倉時代に土坑墓からなる墓地として利用される。墓地は14世紀代には廃絶し、15世紀代からは再び集落地となる。特に16世紀代の大屋敷地区は大溝の最掘削や土塁構築、大型掘立柱建物が造られ、一種の川湊として機能していた可能性が考えられる。しかし矢作川の洪水が増え、18世紀代には当該地での集落経営は断絶する。

第109集　鷲窯跡

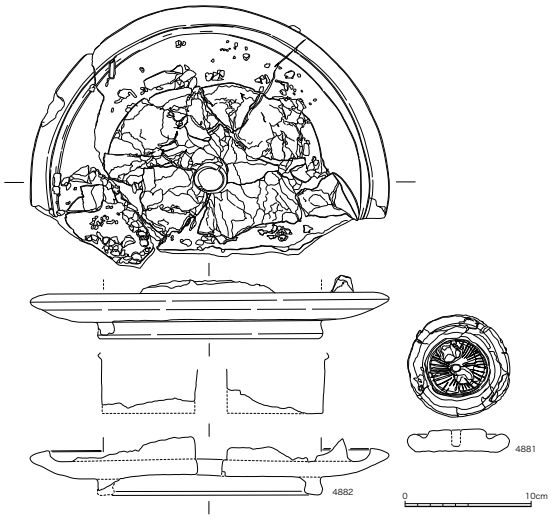
瀬戸市岩屋町・鳥原町に所在する。水野川の支流鳥原川沿いに南東奥に細長くのびた谷状地形の北側段丘に立地し、鳥原川と右岸段丘上に形成された狭小な沖積地を見下ろす標高200m～237mの南側斜面に立地している。瀬戸窯における14世紀後半から15世紀前半を代表する窯で、窯業遺跡のなかでも古瀬戸後期の編年資料の標識遺跡として知られている。

窯跡全体の80%を調査し、窯体1基、工房跡11ヶ所の遺構とほぼ完全に遺存した灰原等から膨大な量の遺物が出土した。窯体は1基であるが同じ場所に再掘削しており、大きく2時期あることが判明した。窯体に伴う工房跡は11ヶ所検出され、いずれも風化花崗岩を竪穴状に刳り貫いた遺構でその中の一つからは未焼成の5枚重ねの天目茶碗が13個出土した。

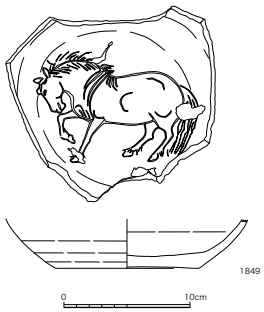
出土遺物については陶器片を口縁部、底部、胴部に分類しすべてカウントし、データーベースを作成した。P27のコンテナに3873箱、出土総点数773,955点である。鷲窯では山茶碗は焼成していないので、出土総点数から山茶碗の981点を引いた、772,974点が窯からの出土遺物となる。口縁部・底部計測法から、口縁部個体数は29,486個体、底部個体数は45,712個体を数える。総重量は22814.91kg、約22.8トンで、製品が632,515点、18078.15kg、焼台が114,739点、1435.85kg、匣鉢が25,722点、3300.91kgである。焼台の分析から、操業回数は312回、年４回操業で78年となる通年操業の窯である。　（小澤一弘）

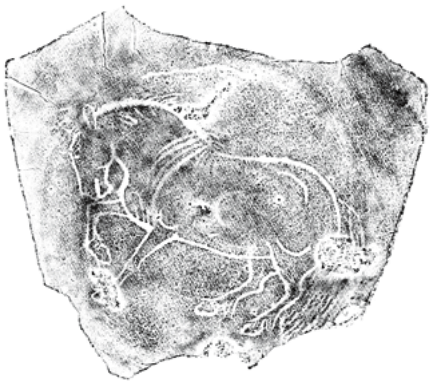


第 94 図　茶臼：上臼実測図



第 95 図　茶臼：下臼、ミニチュア下臼実測図




第 96 図　灰釉馬文皿実測図・拓影

報告書抄録

ふりがな	うぐいすかまあと
書名	鶯窯跡
副書名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
巻次	第109集
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小澤一弘・伊藤秀紀・植田弥生・宇佐見守・荻野繁春・織部匡久・川添和暁・小村美代子・三澤壮太・辻本裕也・藤根　久・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
うぐいすかまあと 鶯窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 いわやちょう　とりはらちょうちない 岩屋町・鳥原町地内	23204	415	35度 14分 22秒	137度 8分 30秒	1998.12.1 ～ 2001.3.30	1,400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶯窯跡	古窯跡	室町	窯体、工房跡	古瀬戸の各器種	未焼成天目茶碗.人面陶板.灰釉馬文皿.茶臼

文書番号	発掘届出(10埋セ254,10.10.15/11埋セ78,7.4.1/13埋セ117,13.10.11) 発掘許可(10教文第61-26号,10.11.2/11教文第61-13号,11.4.19/13教生36-20号,13.11.5) 調査終了届(11埋セ63-1,11.3.25/12埋セ49-11,12.3.30/13埋セ187,14.3.29) 遺物発見届(11埋セ63-2,11.3.25/12埋セ48-11,12.4.7/13埋セ187,14.3.29) 保管証(11埋セ62-1,11.3.25/12埋セ48-11,12.4.7/13埋セ187,14.3.29) 鑑査結果通知(10教文61-26,11.5.18/11教文61-13,12.5.31/13教生36-20,14.8.6)
要約	窯体1基と工房跡11ヶ所、そして膨大な量の遺物が出土した。窯体は全長7m50cm最大幅約3m床面傾斜角度50度を測り、操業回数は312回と推定。工房跡はいずれも風化花崗岩を竪穴状に刳貫いた遺構で、その中の一つから未焼成の5枚重ねの天目茶碗が13個合計65点出土した。主な出土遺物として人面陶板、灰釉馬文皿、灰釉鉄彩七宝文八稜皿、茶臼、ミニチュア下臼等が出土した。出土遺物総点数773,955点のうち窯より出土は772,974点、口縁部個体数は29,486個体、底部個体数は45,712個体、出土遺物の総重量約22.8tである。

第122集　城山城跡

本書は、中馬街道を見下ろす足助市街地北辺に位置する16世紀代の山城跡の発掘調査報告書である。山城の縁辺部を発掘調査し、各種の防御施設や日常生活に関わる施設を確認した。

山城の西端を画する堀切　00A区では主郭に次ぐ規模の平場西端に対してつくられた堀切があった。

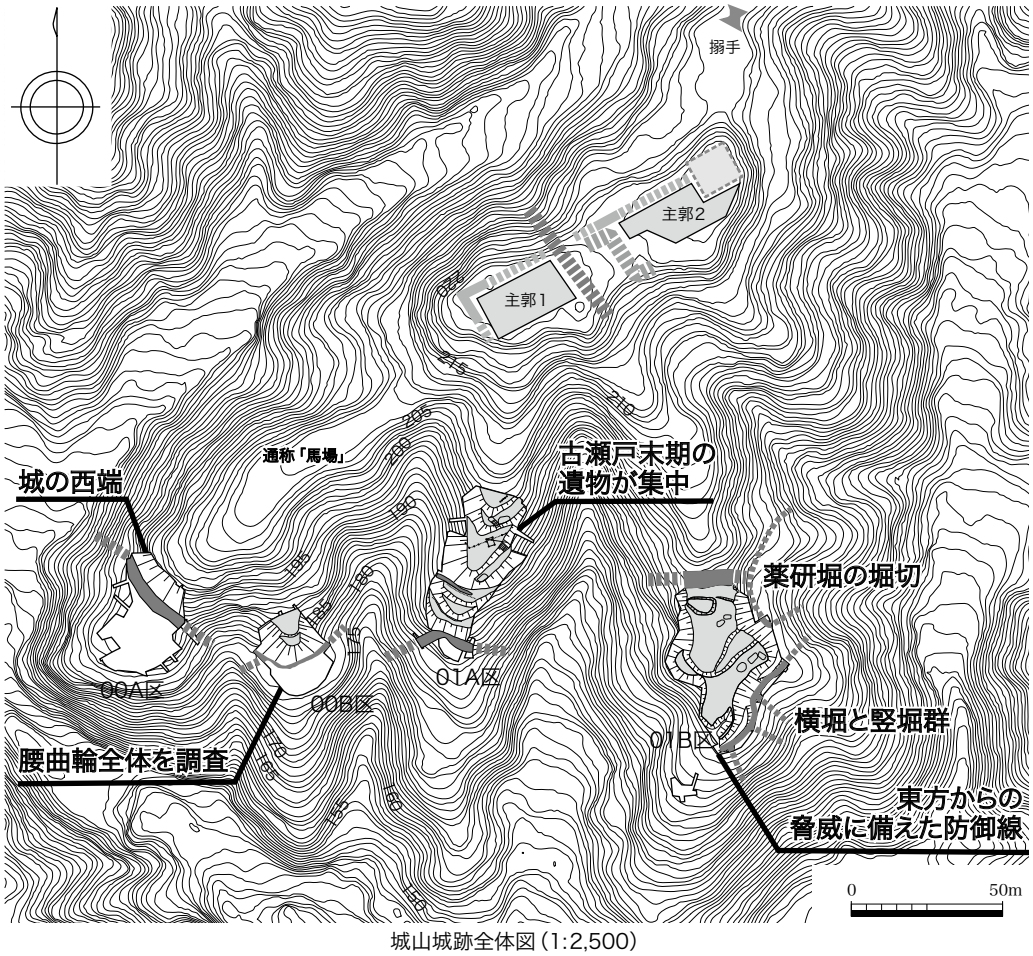
帯曲輪ほぼ全体を検出　00B区では上記平場に付属する帯曲輪を確認し、横堀と切岸に画された平場にて掘立柱建物を検出した。

古瀬戸末期段階の施設　01A区では古瀬戸末期段階の竪穴状施設を確認。擂鉢などの雑器が多く銅製錘が出土するなど、日常的な作業が実施されていた場所と推察された。

「大手道」と最前線の曲輪　01B区では全長約40mの横堀や薬研堀の堀切が確認された。平場群からは鉄鏃や小札が出土し、鉄鍛冶遺物もあったことから16世紀後半の軍事的緊張の中で使用された曲輪と考えられる。またこの平場群が整地される以前は堀割状の通路が主郭へと通じており、さながら「大手道」の様相を呈していた。

遺構の電気的探査　主郭や搦手については電気探査を実施し、その規模や現状ではうかがえない施設の存在などに言及した。

武田の三河侵攻との関わり　城山城の曲輪配置は、東方から街道を侵攻する軍に対する防御・威嚇を考慮したものであることがあきらかとなった。足助は元亀元（1572）年に武田氏の侵攻を受けているが、それに備えた守りであったとも考えられる。当該期にあっては本城たる真弓山城とそれに対面する城山城が足助防衛の要であったといえよう。　（永井邦仁）



城山城跡全体図（1:2,500）

報告書抄録

ふりがな	しろやまじょうあと
書名	城山城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第122集
編著者名	永井邦仁・宮腰健司・鈴木正貴・蔭山誠一・平塚賢二郎・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しろやまじょうあと 城山城跡	あいちけんとよたしあすけちょう 愛知県豊田市足助町 しろやま ひきじん 城山・引陣	23211	37110	35度 8分 17秒	137度 19分 20秒	1999.7.7 ～ 2002.3.27	4,400	国道153号 足助バイパス 建設に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山城跡	城郭	戦国時代	掘割状通路・堀切・横堀・平場・切岸・竪穴状施設・掘立柱建物・礎石建物など	瀬戸美濃産陶器・中国産青磁・白磁・土師器・石製品・金属製品・鍛冶遺物など	戦国時代の山城縁辺部の防御施設
		明治～昭和	野壺	常滑産赤甕・ガラス製品・瀬戸美濃産陶器	19世紀後半～20世紀前半の耕作地

文書番号	発掘届出(11埋セ第109号 1995.5.14/12埋セ135-1号 2000.9.22/13埋セ76-1号 2001.8.28) 通知(11教文第61-18号 1999.6.3/12教生第216-29号 2001.10.18/13教生第36-9号 2001.9.4) 終了届・保管証・発見届(11埋セ第163・164号 1999.8.20/12埋セ228号 2001.3.30/13埋セ188号 2002.4.4) 鑑査結果通知(11教文第61-18号 1999.10.28/12教生第216-29号 2001.5.28/13教生第36-9号 2002.6.3)
要約	これまで縄張図以外の情報が全くなかった城山城跡について、その範囲を中心に新知見を得た。山城の範囲は考えられていたよりやや広く標高185m前後に外郭防御ラインが設定されていたことが判明した。また山城の築城時期は、主郭部分は不明であるが、出土遺物から古瀬戸末期を遡る可能性が高い。01B区では主郭へ上る堀割状通路の時期、それを埋めて平場を造成した時期に大別される。後者は大窯2期と判断され、横堀出土遺物から大窯4期には山城機能が停止したとみられる。山城廃絶後は明治時代に耕作地化が進み、多数の野壺が埋設される。加えて平安時代の須恵器は当該期に集落が斜面地に営まれた可能性を示している。

第132集　上品野遺跡

整理作業における成果は、以下の通りである。

後期旧石器時代の石器群については、石材の分類および接合作業を行った。その結果、出土地点との照合から、台形様石器に代表されるⅠ期の石器群とⅢ期の石器群が分離される可能性を指摘した。しかし、出土石器群の主体はⅠ期であるといえよう。

この遺跡では、現在瀬戸市域で唯一のドングリピットが4基検出されている。出土土器および放射性炭素年代測定の結果、弥生時代の所産である可能性が提示できた。堅果類は、シラガシ・イチイガシが目立った。

古墳時代初頭の住居跡から、土器の一括資料が出土した。同時期の遺物は、谷地形の中でもまとまって出土している。当地域においてこの時期は資料的に希薄である意味ばかりではなく、遺跡内での活動を考える上でも重要となろう。

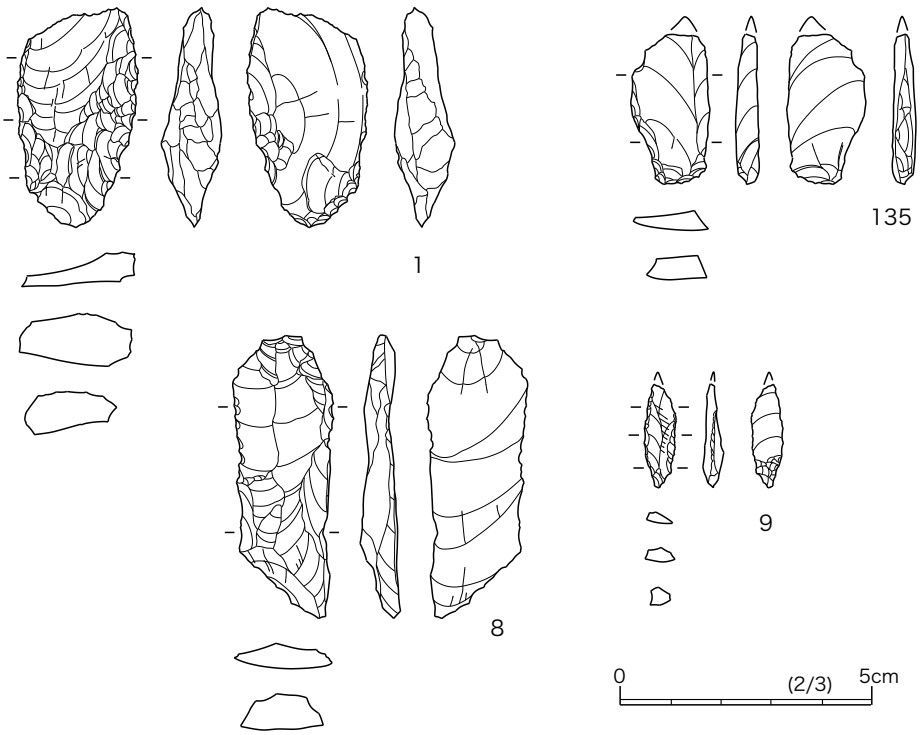
古代の集落跡が面的に見つかった。溝内などからの出土遺物は、虎渓山1号窯式を中心にまとまっているようである。

本文160頁、遺構図版12PL、写真図版14PL

CD-ROM集録データ

○報告書PDF版　　○遺構一覧表　　○遺物登録一覧表

○後期旧石器時代遺物展開データおよび三次元展開データ



上品野遺跡出土後期旧石器時代遺物

報告書抄録

ふりがな	かみしなのいせき
書名	上品野遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第132集
編著者名	川添和暁・鬼頭　剛・古澤　明・新山雅広・山形秀樹・植田弥生・藤根　久・森　勇一
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
かみしなのいせき 上品野遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03678	35度 15分 11秒	137度 8分 10秒	1996.11 ～ 1998.12	13,000	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野遺跡	集落	後期旧石器	石器製作跡など 集落跡	台形様石器・ナイフ形石器・掻器・削器・局部磨製石斧・剥片・石核	
		縄文～弥生	貯蔵穴	土器・石器・植物遺体	
		古墳	竪穴住居跡など	土器・石器・植物遺体	
		古代	土坑・ピット・溝	須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土師器・フイゴの羽口・管状土錘など	灰釉陶器には墨書あり
		中世以降	土坑・ピット・溝	中世～戦国期陶器（山茶椀・古瀬戸・大窯）・砥石・木製品など	山茶椀には墨書あり

文書番号	発掘届出（8埋セ第199号 1996.10.11 /9埋セ第92号 1997.4.1 /10埋セ第100号 1998.4.1） 通知（8教文第61-24号 /9教文第61-13号 1997.5.13 /10教文第61-10号 1998.4.27） 終了届（9埋セ第69号 1997.3.31 /10埋セ第113号 1998.4.9 /11埋セ第10号 1999.2.1） 保管証・発見届（9埋セ第68号 1997.3.31 /10埋セ第112号 1998.4.9 /11埋セ第11号 1999.2.1） 鑑査結果通知（8教文第61-26号 /9教文第61-13号 /10教文第61-10号 1999.2.17）
要約	今回の調査で新たに見つかった時代の遺構・遺物として、後期旧石器時代初頭の石器群と、縄文時代晩期～弥生時代の貯蔵穴群がある。この石器群は、東海地域において、後期旧石器としては最古となる石器群であり、資料のまとまりなどからも今後の指標となると考えられる。 貯蔵穴（ドングリピット）については、水稲耕作導入後も広く堅果類利用が行われていたことを示す資料として、注目される。 今回の調査でも、古墳時代初頭・古代・中世～戦国期の集落跡が見つかった。前回の調査を追認するばかりではなく、各時代、当地域における集落跡としては、良好な資料を提示しているといえよう。

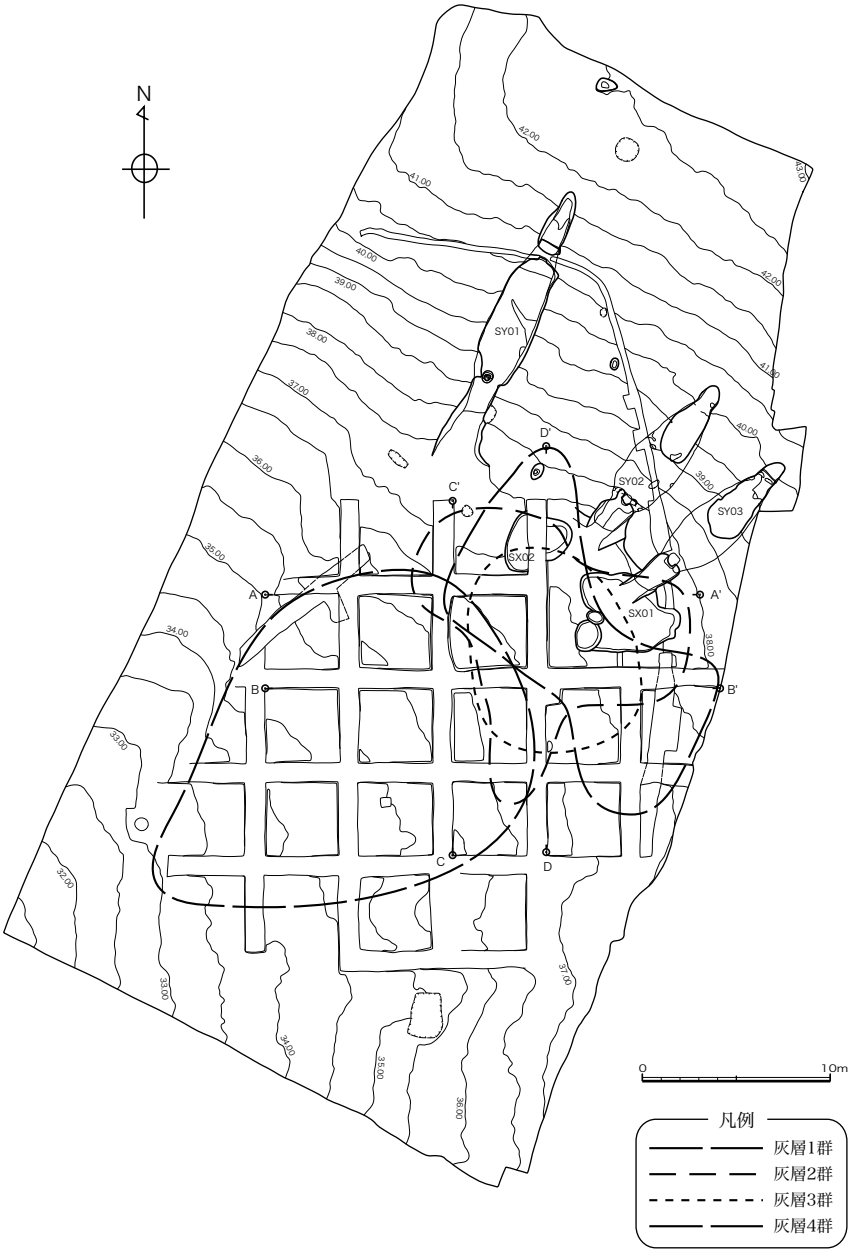
第133集　NA311号窯

NA311号窯は名古屋市緑区大高町高根に所在し、猿投窯の鳴海地区有松支群に属している。発掘調査は国道302号線建設を理由とし、調査面積は1800㎡、期間は平成11(1999)年5月～9月である。

調査の結果、13世紀前半の窯体３基(SY01～03)と、これに伴う灰原や整地層、前庭部土坑のほか、土坑3基を検出した。窯体の残存状況は良好で、床面はSY01がほぼ残存SY02・03は煙道部上端を除き残存する。規模は、SY01が全長12.94mで焼成室の最大幅は2.24m、SY02が残存長9.52mで焼成室の最大幅は2.90m、SY03が残存長は 9.96m。焼成室の最大幅は2.72mである。

窯体は断ち割り調査の結果、SY02・03に床面下施設が確認できた。SY03は床面を掘削した後、土砂を充填してその上に炭を敷き詰めるものだが、SY02はさらに底面に焼成不良の椀を伏せ並べている。

(池本正明)



灰層分布図

報告書抄録

ふりがな	NA311ごうよう
書名	NA311号窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第133集
編著者名	池本正明・藤根　久・Zauri Lomtatize・植田弥生・井上　巖・神谷巳佳
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
NA311ごうよう NA311号窯	あいちけんなごやしみどりく 愛知県名古屋市緑区 おおだかちょうたかね 大高町高根	23114	14117	35度 3分 3秒	136度 57分 56秒	199902・ 199905 ～ 199909	1,800	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
NA311号窯	古窯跡	鎌倉時代	窯体3基 灰原	灰釉系陶器	窯体は残存状況が良好。うち1基は椀を伏せ並べた床面下施設を確認。

文書番号	発掘届出(11埋セ第16号 1999.1.28 /11埋セ第92号 1999.4.15) 通知(11教文第61-1号 1999.2.1 /11教文第61-41号) 終了届(11埋セ第49号 1999.3.11 /11埋セ第190号 1999.10.18) 保管証・発見届(11埋セ第47号 1999.3.11 /11埋セ第191号 1999.11.8) 鑑査結果通知(11教文第61-1号 /11教文第61-41号)

要約	本窯は、猿投窯鳴海地区有松支群に属し、椀・小皿にほぼ限定された生産を行っている。認知できた窯体は3基で、いずれも13世紀前半に属する。3基とも保存状態が良好で、床面はほぼ完全に残存し、天井部も一部分ではあるが残されている。また、灰原も西側の一部が流出するのみで、ほぼ完全に残されている。当該期の窯体構造・生産規模を知り得る好例と考えられる。

第134集　凩山Ｃ窯跡・惣作･鐘場遺跡Ⅰ

（1）凩山Ｃ窯跡は、灰釉系陶器（いわゆる「山茶椀」）を専焼する窖窯である。出土遺物の型式から、藤澤編年尾張型第７型式に相当し、13世紀半ばから後半に位置づけられる。出土した資料は、灰釉系陶器の椀と皿が大半を占め、陶丸も併焼している。陶丸は、焼成済みの椀を転用した匣鉢のほかに、施釉陶器（いわゆる「古瀬戸」）の瓶類を再利用した匣鉢もある。

窯体は2基確認できた。2基は先後関係にあり、SY02→SY01の順に構築されている。

焼成回数について。灰層1つに対して1回の操業とすると、凩山Ｃ窯跡の操業回数は合計5回。築窯排土と灰層の堆積、2つの窯が同時操業ではないことから、以下の操業順序を想定する。SY02に対応する灰層は東灰原５層のみなので、SY02は1回。その後、SY02は廃窯となり、SY01を構築。東灰原の灰層である東灰原2層と西灰原の灰層である西灰原10層→8層→2層の順に堆積していることから、SY01は合計4回操業したことになる。

出土した椀皿類は尾張第７型式の特徴を大きく逸脱することはない。むしろ確実にこの型式で納まる。今回、凩山Ｃ窯跡の製品から抽出した事例は、「高台の輪トチ化」傾向のほか、口縁部に残存する粘土紐接合痕跡、椀内面の摩耗痕と「陶器片調整具」の使用がある。

（2）本センターは平成12～16年にかけて惣作・鐘場遺跡を調査した。総調査面積は30,775㎡である。今回は東海環状自動車道に関連する調査区2,125㎡について報告する。

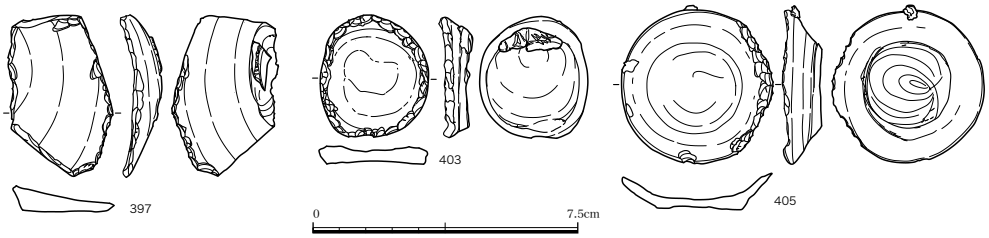
本遺跡は旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。主体となるのは古墳時代と中世後半の集落である。調査区は遺跡の南端に位置し、遺跡の周縁に相当する。検出された主な遺構遺物は縄文時代後期～晩期前葉及び中世初期の時期に属する。縄文時代については竪穴住居に付属するものと考えられる土器埋設遺構と倒木に伴う遺物包含層が検出された。また、中世初期の掘立柱建物2棟と13～14世紀の遺物包含層などが確認された。遺物は縄文土器、石器、中世前半の山茶椀などが出土した。　（永井宏幸）



惣作・鐘場遺跡出土の土器埋設遺構



凩山Ｃ窯跡出土陶器片調整具の使用法復原案



凩山Ｃ窯跡出土陶器片調整具実測図

報告書抄録

ふりがな	たこやまCかまあと・そうさくかねばいせき いち
書名	凧山C窯跡・惣作･鐘場遺跡I
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第134集
編著者名	永井宏幸・酒井俊彦・川添和暁・植田弥生・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たこやまCかまあと 凧山C窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやまちょう 凧山町	23204	なし	35度 13分 20秒	135度 8分 11秒	20020408 ～ 20020704	700	東海環状自動車道建設に伴う事前調査
そうさくかねば 惣作・鐘場 いせき 遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 そうさくちょうかねばちょう 惣作町・鐘場町	23204	03792	35度 12分 47秒	135度 7分 47秒	20021020 ～ 20021210	2,125	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
凧山C窯跡	集落 集落 生産遺跡	縄文時代 古代 中世	土坑 土坑 窯体・土坑・灰原	縄文土器・石器 須恵器 灰釉系陶器・皿	窯築造以前の遺構を確認した。 窯体と灰原がほぼ完掘できた。
惣作・鐘場遺跡	集落	縄文時代 中世	土器埋設遺構 掘立柱建物	縄文土器 山茶椀	竪穴住居の施設の可能性がある。 同時存在の掘立柱建物2棟を検出する。

文書番号 (凧山C窯跡)	発掘届出（13埋セ第175号 2002.3.1） 通知（13教生第36-28号 2002.3.14） 終了届・保管証・発見届（14埋セ第46・47号 2002.6.25） 鑑査結果通知（13教生第36-29号 2002.8.6）
文書番号 (惣作・鐘場遺跡)	発掘届出（13埋セ第174-1号 2002.2.25） 通知（13教生第36-28号 2002.3.14） 終了届・保管証・発見届（14埋セ第121・123・124号 2002.12.10） 鑑査結果通知（14教生第72-8号 2002.12.17）

要約	**凧山C窯跡**：13世紀第3四半世紀に比定される中世窯を2基、および付属施設を調査した。本窯は灰釉系陶器椀・皿の専焼である。中世窯の分布を詳細に見ると、赤津地区の最古段階で、その後この地区に展開する中世窯の先駆的操業として注目できる。 **惣作・鐘場遺跡**：縄文時代後期と考えられる土器埋設遺構を2基検出する。竪穴住居に付随するものと考えられ、集落が展開していたと推定される。また、中世の掘立柱建物2棟を確認する。調査区全体に柱穴と推定される小土坑が検出され、数棟から構成される集落が形成されていたことを確認する。

第135集　瓶子窯跡

瓶子窯跡は瀬戸市凧山町に所在し、現在も窯業の中心的な地域である「赤津」集落から少し離れた丘陵地に立地する。瀬戸市埋蔵文化財センター調査により、17世紀半ば～後半にかけて操業した2基の窯体と作業場跡が確認されている。

今回の調査地点は窯体の前方に広がる物原の調査であり、物原末端は谷下の自然流路に達していた。出土した製品および窯道具類はコンテナ840箱にのぼり、そのほぼ半量は擂鉢、銭甕であった。

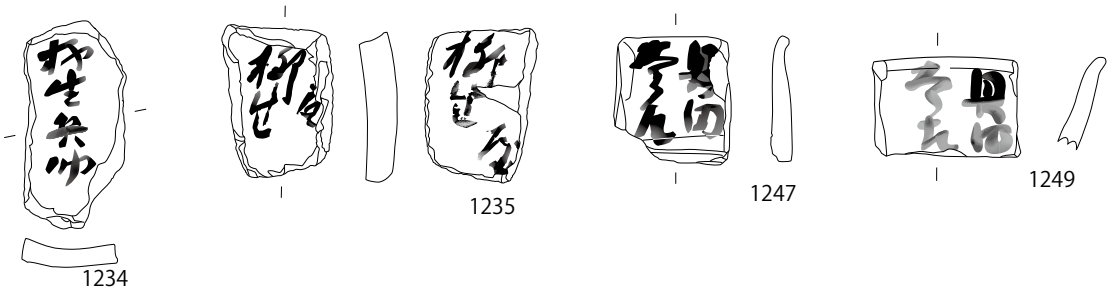
(1) 擂鉢の形式より、連房式登窯第3小期～第5小期（藤澤編年）と比定でき、2基の操業期間は17世紀半ば～後半の時期と推定される。

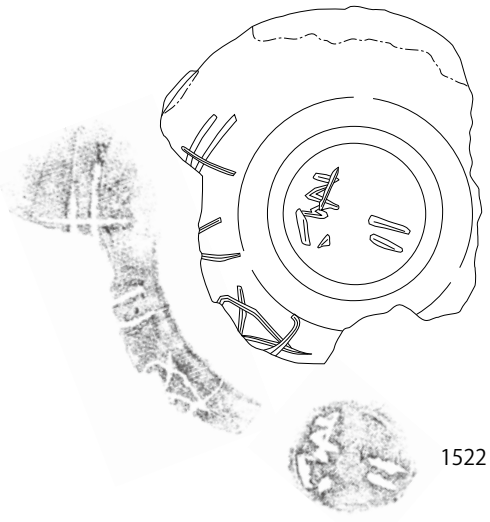
(2) 擂鉢、徳利、銭甕をはじめとする調理具、貯蔵具など日常品の量産と、各種碗や茶入など茶陶の注文生産が同地点で行われていた。

(3) 窯道具には瀬戸美濃地域では瓶子窯跡独自となる技法がみられ、それらは茶入をはじめとする茶陶の制作に関連するものと思われる。

(4) 注文生産品のうち特に茶入に関して、注文者を示すと思われる「付け札」が検出された。しかも、その人名には尾張藩剣術指南役、柳生兵助（連也）を含む、一部の尾張藩士が含まれることが判明した。

(5) 茶入を大量に焼成し、特殊な窯体構造であったこと等より、尾張藩の御用をつとめる特別な窯である、とこれまでにも認識されてきた。今回の調査成果はこれを裏付けるものであり、さらに注文生産の実態についてもその一端がわかる貴重な資料となった。　（武部真木）





人名の書かれた陶片・窯印のある陶片（1：2）



廃棄された茶入

報告書抄録

ふりがな	へいじかまあと
書名	瓶子窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第135集
編著者名	武部真木・森　勇一・鵜飼雅弘・堀木真美子・鬼頭　剛
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいじかま 瓶子窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやまちょう 凧山町	23204	03504	35度 13分 18秒	137度 8分 4秒	2003.4.1 ～ 2003.6.30	1,300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瓶子窯跡	古窯跡	江戸時代 前期	物原・自然流路	陶器・窯道具	茶陶(茶入)の注文生産に関する資料

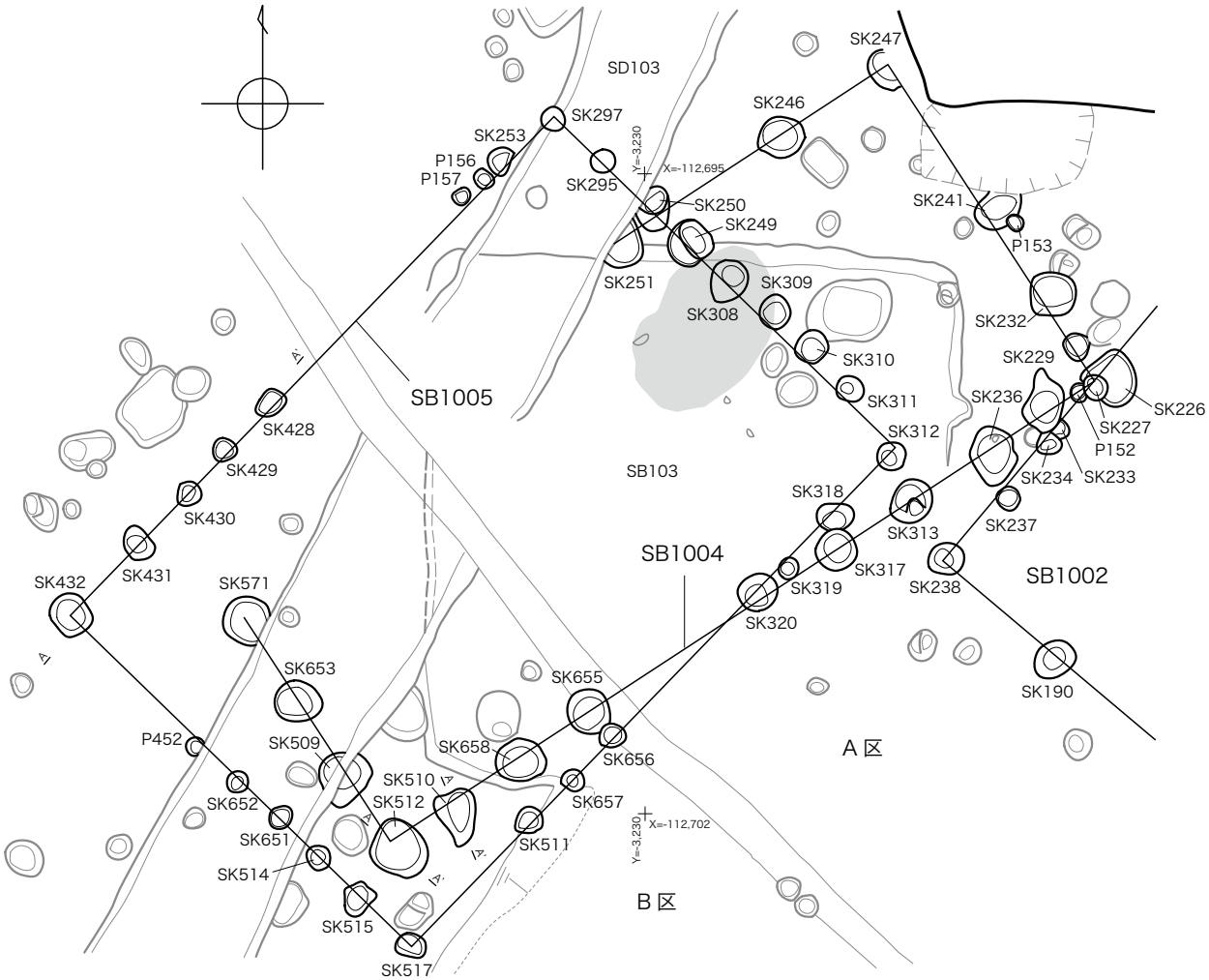
文書番号	発掘届出(14埋セ第155号 2003.3.1) 通知(14教生第72-13号 2003.3.7) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第29号 2003.7.2)

要約	連房式登窯、大窯・連房連結窯の2基の窯体の前方に広がる物原の調査。17世紀半ば～後半に操業し、擂鉢、銭甕など日常品を量産する一方で、茶入や各種碗など茶陶の注文生産を行っていた。注文者を示すと思われる「付け札」が出土した。

第136集　小針遺跡

小針遺跡は、岡崎市小針町地内に位置する。調査地点は、碧海台地の東側縁辺部にあたり、矢作川右岸と台地の間に形成された沖積平野を、東に臨む。 調査区は、県道名古屋岡崎線バイパス建設予定地を3分割して、A～C区として設定した。調査期間は5ヶ月強を要し、平成15年7月15日よりA区の表土剥ぎを実施し、12月22日にC区の埋め戻し作業を終了した。

出土遺物の整理作業は、調査中に洗浄・注記作業を行い、引き続き平成16年4月より、報告書作成までの作業を行った。その結果、小針遺跡は継続的ではないが、縄文時代の中～晩期、弥生時代後期、古墳時代、古代、中世、戦国時代の複合遺跡であることが確認できた。その中でも、6～8世紀代に継続して営まれたと思われる集落跡は、この時期の西三河地域では最大級である。本調査地点では、竪穴住居24、掘立柱建物5などが、これまでの調査成果に付け加えられた。　(松田 訓)



SB105・1004・1005平面図(1/80)

報告書抄録

ふりがな	こばりいせき
書名	小針遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第136集
編著者名	松田　訓・鬼頭　剛・山形秀樹（株式会社パレオ・ラボ）
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
こばりいせき 小針遺跡	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 こばりちょういっしき 小針町一シキ	23190	51280	35度 59分 2秒	137度 7分 53秒	2003.7.15 ～ 2003.12.12	2,100	県道名古屋岡崎線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小針遺跡	集落	縄文～戦国	竪穴住居 掘立柱建物	須恵・土師器 戦国時代土器	小針遺跡の集落東端確認

文書番号	発掘届出（15埋セ第12号,15.5.16） 通知（15教文第72-5号 ,15.6.16） 終了届・保管証・発見届（15埋セ第90号,15.12.22） 鑑査結果通知（16教生第99号 ,16.3.26）

要約	調査の結果、小針遺跡は継続的ではないが、縄文時代の中～晩期、弥生時代後期、古墳時代、古代、中世、戦国時代の複合遺跡であることが確認できた。その中でも、6～8世紀代に継続して営まれたと思われる集落跡は、この時期の西三河地域では最大級である。 本調査地点では、竪穴住居24、掘立柱建物5などが、これまでの調査成果に付け加えられた。これらの遺構は、先の岡崎市教育委員会による調査成果に加えると、竪穴住居総数298、掘立柱建物総数90となる。この数は、集落全体のごく一部にあたると思われる。調査結果は、近隣の北野廃寺との関係も含めて、居住した集団の性格を検討する上で良好な資料提示といえよう。

第137集　奥町Ｆ古窯群

Ⅰ　経過

知多半島横断道路拡張工事に伴う立会調査として実施。調査期間は平成15年４月。



壺

Ⅱ　環境

本窯は知多古窯が展開する愛知県知多半島中央部東海岸の半田市内に位置する。所在地は愛知県半田市奥町。

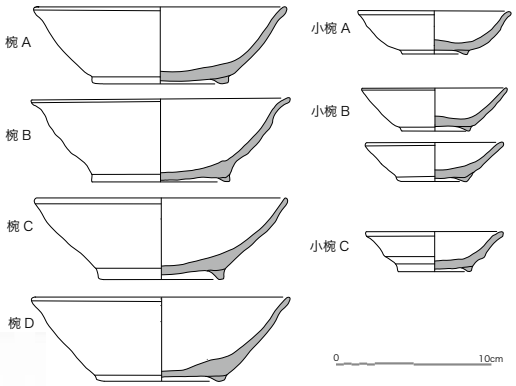
Ⅲ　調査

断面に残る堆積層とその周辺の調査を実施。遺構は存在せず、灰層の広がりを確認。

出土遺物はI層から甕・壺類が、II層から椀・小椀類が多量に発見された。器種は椀・小椀・甕・広口壺・三筋壺・短頸壺・鉢・羽釜である。(総破片数11475点)



作業風景



椀分類

Ⅳ　総括

奥町Ｆ古窯群は、主に椀類と甕・壺類を別々に焼成した複数の窯体で構成されているものと推測できる。赤羽・中野編年1b型式新相から2型式を中心とする資料(I層が甕・壺類を中心とした2型式、II層が椀類を中心とした1b型式新相)が主体を占め、12世紀中頃の操業と考えたい。

(赤塚次郎)





融着資料

報告書抄録

ふりがな	おくちょうえふこようぐん
書名	奥町F古窯群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第137集
編著者名	赤塚次郎
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくちょうえふこようぐん 奥町F古窯群	あいちけんはんだし 愛知県半田市 おくちょう 奥町	23205	–	34度 54分 29秒	136度 52分 47秒	2003.0403 ～ 2003.0410	–	知多半島横断道路拡張工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥町F古窯群	古窯跡	室町時代 末期	堆積層(灰層)	椀・小椀・甕・広口壺・三筋壺・短頸壺・羽釜・鉢	

要約	本窯の調査は、断面観察と灰層を中心とした部分的な調査に留まり、椀類を中心としたII層と甕・壺類を中心としたI層が確認できた。その他に三筋壺・短頸壺・羽釜・鉢などが出土している。主に椀と甕・壺類を別々に焼成した複数の窯体で構成されているものと推測できる。赤羽・中野編年1b型式新相から2型式を中心とする資料が主体を占め、12世紀中頃の操業と考えられる。

第153集　桜鐘古窯群

桜鐘古窯群は知多市佐布里字奥茂長田に所在する。調査区は北東に向けて伸びる小尾根の頂部付近となる。発掘調査は愛知県企業庁愛知用水水道南部事務所による給水塔建設を理由とし、面積は536㎡、調査期間は平成16(2004) 年４月～６月である。

調査の結果、7基の窯体を確認している。窯体構造で特徴的となるのは、A区SY02の焼成室内に設置された窯内柱がある。これはA区SY01、B区SY05の床部でもその痕跡が確認でき、ここでも設置されていた可能性が高い。また、分焔柱を焼成室側に伸ばす改修が、A区SY01・02、B区SY01・03で確認できた。

出土遺物は、甕・壺・鉢を主体として少量の椀・小皿が加わるといった状況となっている。これらの特徴を赤羽・中野編年 (中野　1994) に当てはめると、6a～6b型式期となる。甕・壺などに確認できる押印文の原体は77種類ある。この中で両翼を円形に図案化した鳥の姿を刻む個性的なものが含まれている。意匠面から注目できるだけでなく、流通の具体的事例を比較的容易に確認できる可能性を持つ。　　(池本正明)



A区全景



B区全景



鳥押印文実測図 (1:1)

報告書抄録

ふりがな	さくらがねこようぐん
書名	桜鐘古窯群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第153集
編著者名	池本正明・神谷巳佳・植田弥生・井上　巖・森　勇一
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらがねこようぐん 桜鐘古窯群	あいちけんちたしそうり 愛知県知多市佐布里 あざおくもちょうだ 字奥茂長田	23224	45305	36度 01分 20秒	137度 12分 16秒	200404 ～ 200406	536	工業用水道 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜鐘古窯群	古窯群	鎌倉時代	窯体7基	中世陶器	窯内柱を持つ窯体 鳥をモチーフとした 押印文

文書番号	発掘届出（15埋セ第123号 2004.3.16） 通知（15教生第72-14号 2004.3.23） 終了届（16埋セ第35号 2004.7.7） 保管証・発見届（16埋セ第35号 2004.7.7） 鑑査結果通知（16教生第825号 2004.8.4）
要約	本窯は知多半島古窯群に属する。確認できた窯体は5基だが、立会調査でも3基の窯体もしくはその痕跡を確認している。出土遺物は壺・甕・鉢が主体となり、椀・皿がこれに加わる。時期は13世紀後半（赤羽・中野編年6a・6b型式期）が中心となる。壺・甕の押印文は多様で、中でも鳥をモチーフとした資料は注目できる。

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき 9
書名	清洲城下町遺跡 IX
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第131集
編著者名	早野浩二
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
きよすじょうかまち 清洲城下町 いせき 遺跡	あいちけんかすがいぐん 愛知県西春日井郡 きよすちょうこじょうほか 清洲町古城他	23346	21002	35度 2分 58秒	136度 6分 57秒	1998.09.17 ～ 1999.03.02	2,700	県道西市場助七線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清洲城下町遺跡	城館	戦国時代	溝、土坑、 自然流路など	縄文土器 土師器・須恵器・灰釉陶器 瀬戸美濃陶器・常滑陶器 土師器・中国陶磁 瓦・石製品 金属製品および その他関連遺物など	清須城下町成立前後の方形区画 清須城下町に関連する遺構群 古瀬戸狛犬の出土

文書番号	発掘届出（10埋セ第192号・1998.7.29） 通知（10教文第61-19号・1998.8.10） 終了届・保管証・発見届（10埋セ・1999.3.2） 鑑査結果通知（10教文第61-19号・1999.3.31）

要約	清洲城下町遺跡は、標高3m前後の低地帯に立地する戦国時代の城館である。本調査区においては、清須城下町成立前後の大規模な区画溝を検出した。区画溝の下層からは、12～15世紀の土器・陶磁器などが豊富に出土した。これらの遺物には古瀬戸鉄釉狛犬も含まれていた。区画溝の上層とその上位に掘削された溝群、周辺の土坑からは、16～17世紀の土器・陶磁器、瓦などが出土した。これらの遺物には、志野、黄瀬戸製品、瀬戸黒茶碗などの優品も多く含まれる。

報告書抄録

ふりがな	しまざきいせき・でんぽうじほんごういせき・なかのごうきたいせき
書名	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第139集
編著者名	宮腰健司・鵜飼雅弘・早野浩二・山形秀樹・植田弥生・馬場健司・辻本裕也・藤根 久・長友純子・小村美代子・森 勇一他
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
しまざきいせき 島崎遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 しまざき 島崎	23203	02107	35度 17分 13秒	136度 49分 46秒	20010113 ～ 20010327	2,000	県道高速清洲一宮線建設
でんぽうじほんごういせき 伝法寺本郷遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうでんぽうじ 丹陽町伝法寺	23203	02108	35度 15分 35秒	136度 50分 36秒	20010409～20010530 20010827～20010919	1,600	
なかのごうきたいせき 中之郷北遺跡	あいちけんにしかすがいぐん 愛知県西春日井郡 にしはるちょうなかのごう 西春町中之郷	23344	19016	35度 14分 37秒	136度 50分 52秒	20011003 ～ 20020214	2,400	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島崎遺跡	集落	鎌倉～室町 江戸	溝・土坑・井戸 水田	山茶碗・常滑陶器 瀬戸美濃陶磁器 土師器皿・土師器鍋 銭貨・刀子	
伝法寺本郷遺跡	集落	古墳 奈良～平安 鎌倉～室町 江戸	水田 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	奈良時代の集落
中之郷北遺跡	集落	古墳 飛鳥～奈良 鎌倉～室町 江戸	溝・竪穴住居 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器・須恵器・鉄製品 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	土師器の一括資料 古墳～奈良時代の金属製品製作関連遺物の出土

文書番号 （島崎遺跡）	発掘届出（12埋セ第173号 12.12.5）　通知（12教生第216-40号 12.12.25） 終了届・保管証・発見届（12埋セ第220号 13.3.28）　鑑査結果通知（12教生第216-40号 13.5.28）
文書番号 （中之郷北遺跡）	発掘届出（12埋セ第208-14号 13.3.16）　通知（12教生第216-46号 13.3.28） 終了届・保管証・発見届（13埋セ第101号 13.9.27）　鑑査結果通知（13教生第216-46号 13.10.11）
文書番号 （伝法寺本郷遺跡）	発掘届出（13埋セ第72号 13.8.24）　通知（13教生第36-10号 13.9.13） 終了届・保管証・発見届（13埋セ第169号 14.2.28）　鑑査結果通知（13教生第36-10号 14.3.27）

要約	島崎遺跡は、鎌倉～室町時代には、遺跡中央部が集落域となり、北東―南西に延びる微高地地形に沿うような、溝・井戸・方形土坑が検出されている。 伝法寺本郷遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査の結果、各時代を通じた土地利用の変遷が明らかとなった。 中之郷北遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査では各時代の遺構と遺物が層序ごとに連続して検出された。発掘調査の成果は、当地域における地形発達史、土地利用史に資する重要な知見である。 なお、立会調査によって発見された宇福寺遺跡においては、古墳時代の土器を大量に採集した。

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成17年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1　目的

埋蔵文化財に対する理解を深め、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図ることを目的に開催する。本展示会では愛知県内の発掘調査成果を基に、平易な歴史展示を実施する。

2　主催

安城市歴史博物館
安城市埋蔵文化財センター
安城市教育委員会
(財)愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県教育委員会

3　埋蔵文化財展

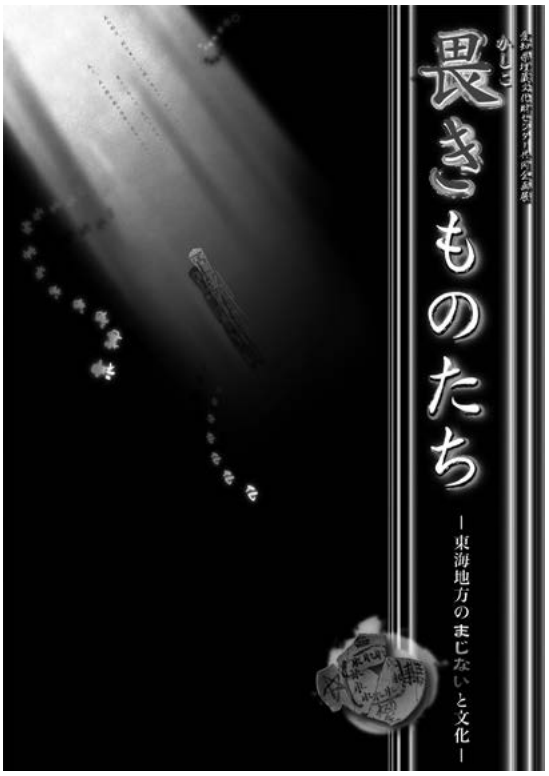
1) 会場：安城市歴史博物館
　　安城市安城町城堀30(0566-77-6655)
2) 日時：平成17年12月17日(土)
　　～平成18年２月19日(日)
　　午前９時～午後５時　月曜休館
3) タイトル：「畏(かしこ)きものたち
　　―東海地方のまじないと文化―」

4　埋蔵文化財講演会(参加自由)

1) 会場：安城市歴史博物館
2) 日時：平成18年１月15日(日)
3) 講師：水野正好　奈良大学元学長
4) 演題：「まじないと日本文化」

5　企画展合同講演会１・２

1) 会場：安城市歴史博物館
2) 日時：平成18年２月４日・２月11日
3) 講師：安城市歴史博物館学芸員
　　安城市埋蔵文化財センター職員
　　愛知県埋蔵文化財センター職員
4) タイトル：「まじない・うらない・たたり」
　　「安城市域における近年の発掘調査から」



ポスター


清洲城下町遺跡出土　墨書・刻書土器


岩倉城遺跡出土　木製品

問わず語り

吾は御川の碧海の湿原と原野に遠い昔から暮らしてきた。いつしか人間は吾のことをカミと呼ぶようになった。
話して聞かせよう。いにしえの吾と人間たちの交わりを……

テーマ１　プロローグ
人間は吾を祀る代わりに、吾の湿原を田と変え米を糧とすることを望んだ。吾は許した。人間のムラは精霊に護られ、次第に大きくなった。

テーマ２　神祇信仰
新しいカミも西からやってきた。そのカミは木を削った形代を使った祀りを特に好んだ。
吾も新しいカミとよく似た方法で祀られたこともある。それはそれで心地よい。

テーマ３　ホトケの世界
ある時、人間が仲間を募って湿原を見下ろす原野にテラという建物を造った。大きな建物だった。遠い異国から来たホトケを祀るためである。
吾は許し、ホトケを受け入れた。

テーマ４　開発と祭祀
その頃から、吾の世界を人間が分けて欲しいと申し出ることが続いた。各地のカミも同じような状況らしい。人間たちと闘ったカミもいた。吾は篤く祀られたので、祟りはしない。許そう。

テーマ５　祭祀の多様化
人間の望みは、戦争に勝たせてくれとか、病気を治してくれとか、様々だ。その度に様々な祈りの作法や器具を創作してきた。
ホトケにも似たような祈りが捧げられているらしい。

テーマ６　墓制と周辺
人間の命には限りがある。
ホトケは特に人間の葬送儀礼に強く関わった。
ホトケは人間の霊魂を導いた。

話はこれでおしまいだ。人間たちよ。どこかで吾の姿を偶然見てしまったら、その場を速やかに立ち去れ。
祟りを恐れるなら、決して振り返るでない。





上橋下遺跡　水辺の祭祀遺構



本川遺跡　ミニチュア土器を含む一括資料



勝川遺跡出土
人形

儀長正楽寺遺跡出土
浄瓶

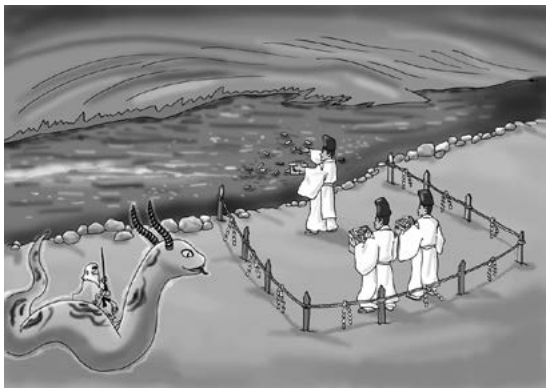
6　事業の内容について

埋蔵文化財展

1)「畏きものたち―東海地方のまじないと文化―」

―碧海郡の原生林と湿原で活動した国津神が、ふと問わず語りする―。

人々の営みと「畏きものたち」との交感の歴史を考古資料とイラストを用いて展示・解説する。



テーマ２　イラスト

2) 平成17年度　新出土品展

整理・報告が終了した鴈窯跡・水入遺跡の資料をはじめ、平成16年度調査成果について、出土資料と作業風景など写真やパネルなどを用いて展示・紹介する。

展示遺跡：高木遺跡、御山寺遺跡、朝日遺跡、桜鐘古窯群、蛇廻間古窯跡、夏敷古窯跡、惣作遺跡、桑下城跡、三ヶ所遺跡、高坂遺跡



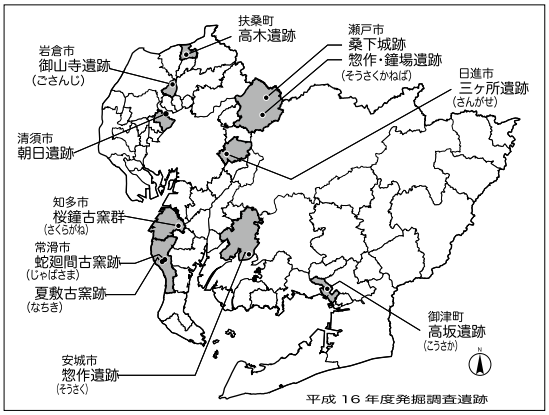
新出土品展

埋蔵文化財講演会

水野正好氏（奈良大学元学長）による「まじないと日本文化」と題する講演を開催した。講演は、生活の隅々の事柄に関った「まじない」の歴史を具体的な資料で振り返るもので、今日にも明らかに、あるいは秘かに息づく習俗が日本文化のある一面を形成してきたことについて分かり易く解説された。会場は活況を呈し、参加者は約240名となった。



埋蔵文化財講演会資料



展示遺跡位置図

企画展合同講演会

２月４日は「まじない・うらない・たたり」と題し、主に企画展展示内容に沿って３つの講演が行われた。

・「開発と宗教」斉藤弘之（安城市歴史博物館）
・「占い–未来や不可知を認知すること」
　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）
・「中世の墓制」
　武部真木（愛知県埋蔵文化財センター）

２月11日は「安城市域における近年の発掘調査から」と題し、発掘調査の成果に沿って３つの講演が行われた。

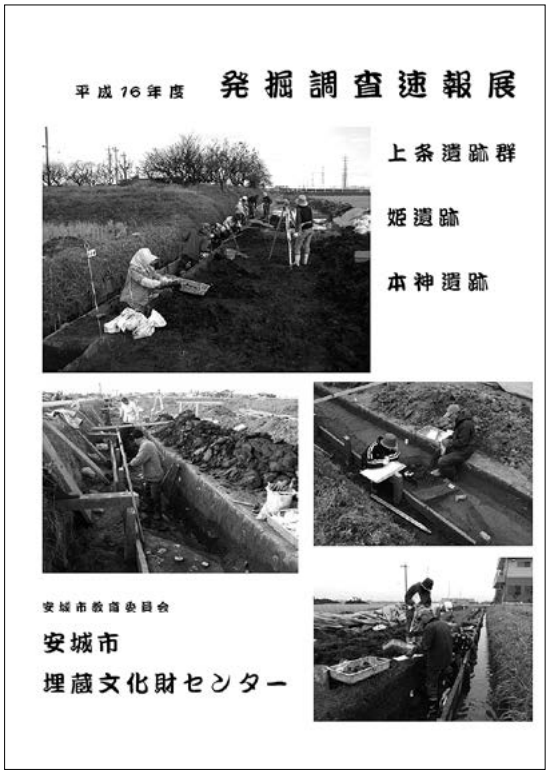
・「安城市内の発掘調査速報–上条遺跡群ほか」
　李　浩基（安城市埋蔵文化財センター）
・「下懸木簡について」
　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）
・「鹿乗川流域遺跡群について」
　松田　訓（愛知県埋蔵文化財センター）

いずれも会場がいっぱいになる盛況ぶりでした。





埋蔵文化財講演会



「安城市内の発掘調査速報」資料





企画展合同講演会

Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成17年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

1　目的

発掘調査における民間調査組織の支援状況と問題点について検討し、同時に、調査現場での実態と調査成果標準のあり方について研修する。

2　タイトル

「民間調査組織の支援と調査標準について」

3　主催

愛知県教育委員会／愛知県埋蔵文化財センター

4　日程

平成17年12月7日（水）・8日（木）

5　会場

1日目　愛知県埋蔵文化財調査センター
2階研修室（海部郡弥富町前ヶ須新田字野方802-24）

2日目　朝日遺跡調査現場　貝殻山貝塚資料館（清須市朝日）

6　内容

12月7日（水）参加者45名

「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準」赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）

「積算標準について」
野口哲也（愛知県教育委員会文化財保護室）

「発掘調査業務委託の設計・入札等問題点について」細木克彦（愛知県埋蔵文化財センター）

「文化財としての民間企業と行政を巡る問題点」
岡安光彦（アークビジョン）

座談会・意見交換会

12月8日（木）参加者23名

「朝日遺跡発掘調査現場の視察」
安全対策について・情報処理の実態・測量支援の方法・労務管理の問題点など

「貝殻山貝塚資料館の見学」

座談会・意見交換会


赤塚氏の講演


野口氏の講演


細木氏の講演


岡安氏の講演

導入が決まり、すでに年々増加傾向にある民間調査組織による業務委託・支援の実態について、様々な角度から具体的に紹介され、座談会でも多くの問題点等が指摘された。県内各市町村の事情により、民間組織を利用することになった理由や規模、内容等は多様であり、共有を意図して設定された「積算標準」は、市町村ごとの格差の大きい現段階では有効に機能しない状況にある。また、民間調査組織そのものの抱える問題点、技術者育成や身分保障の面から調査・研究の将来性への懸念についての言及もあった。

同時に、「安全管理」「デジタル化」の技術など民間調査組織に学ぶ所も多く、従来の調査体制や技術、調査成果について、改めて見直す機会となっている。こうした状況の中、現実的な「調査標準」の設定、一般化が望まれている。　　（武部真木）



朝日遺跡視察

VI. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目　的	遺跡名	貸出・提供資料		期間
美濃加茂市民ミュージアム	企画展「土に残る記憶III－弥生と古墳－」展示パネルに使用	朝日遺跡	遺構写真(環濠と方形周溝墓・乱杭・柵列・玉作工房跡・銅鐸出土状況) 遺物写真(銅鐸)	デジタルデータ6点提供	平成17.4.14
(株)新人物往来社	月刊『歴史読本』2005年8月号掲載	名古屋城三の丸遺跡	遺構写真(VI:戦国時代の遺構群)	デジタルデータ1点提供	平成17.6.2
(株)雄山閣	『季刊考古学』第92号掲載	川原遺跡	遺構写真(全景・方形周溝墓SZ01)	デジタルデータ3点提供	平成17.6.6
		猫島遺跡	遺構写真(方形周溝墓SZ05・環濠・SB01)		
西尾市教育委員会	岡島弥生資料館リーフレット及びホームページに使用	岡島遺跡	遺構写真(弥生時代中期の溝・水辺の祭り・竪穴住居・土器棺墓・中期中葉の方形周溝墓・後期の方形周溝墓)	転載許可	平成16.6.24
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館平成17年度企画展示コーナー展示パネルに使用	朝日遺跡	遺構写真(SD101北西隅セクション)	デジタルデータ4点提供	平成16.7.5
		山中遺跡	全景(遺跡を北東上空から望む)		
		三ツ井遺跡	遺構写真(97Ab区　水田跡)		
		平手町遺跡	遺構写真(SD06セクションベルト)		
(株)新人物往来社	『中世都市研究11号　交流・物流・越境』に掲載	惣作・鐘場遺跡	遺構写真(集落域と大溝が巡る方形区画)	デジタルデータ1点提供	平成17.7.7
瀬戸市歴史民俗資料館	蔵展示「モリゾーと暮らすキッコロに託す　海上・山口」パンフレット・広報用写真に使用	吉野遺跡	遺構写真(調査区全景写真・SB02・柵状遺構復元CG)	デジタルデータ5点提供	平成17.7.15
		上品野遺跡	遺構写真(貯蔵穴・ドングリ出土状況)		
名古屋市博物館	特別展「古墳はなぜつくられたのか」展示図録及びパネルに使用	大毛池田遺跡	遺構写真(調査区全景)	6×7カラーポジ4点	平成17.8.12 〜 平成17.10.4
		廻間遺跡	遺構写真(SZ01)		
		西上免遺跡	遺構写真(調査区全景)		
		八王子遺跡	遺構写真(Ba区井泉検出状況)		
豊橋市美術博物館	市制施行100周年記念事業・築城500年記念展「吉田城と城下町」図録に掲載	吉田城遺跡	遺構写真(II:調査区全景・SE107断ち割り状況・III:屋敷地2中心部分)	6×7カラーポジ3点	平成17.9.6 〜
沼津市教育委員会	『沼津市史　通史編　原史・古代・中世』に掲載	麻生田大橋遺跡	遺物写真(樫王式の条痕文系大形壺)	転載許可	平成17.9.16
渥美町役場	『渥美町史　現代編』に掲載	川地遺跡	遺物写真(SK02出土首飾り復元) 図版(調査区設定図・縄文土器実測図・遺構全体図・遺構3・石器1)	転載許可	平成17.9.20
(株)吉川弘文館	『日本軍事史』に掲載	朝日遺跡	遺構写真(逆茂木出土)	デジタルデータ1点提供	平成17.9.30
愛知県豊田加茂建設事務所　足助支所	パンフレット「主要地方道　土岐足助線　榊野バイパス」に掲載	能見城跡	遺構写真(全景)	デジタルデータ1点提供	平成17.11.2
(株)学生社	＜ドイツ展記念概説＞『日本の考古学』に掲載	西上免遺跡	遺物写真(古墳出土土器)2点	使用許可	平成17.11.8
		朝日遺跡	図版(防禦施設)		
一宮市博物館	木曽川資料館展示リニューアル及び平成18年度企画展「山内一豊とゆかりの戦国武将展」展示・解説書及び広報資料に掲載	岩倉城遺跡	遺構写真(SD07)	デジタルデータ1点提供	平成17.11.8
(株)同成社	『日本の遺跡5　瀬戸窯跡群』に掲載	鷲窯跡	遺構写真(遺物出土状況)	デジタルデータ3点提供	平成17.10.21
		小田妻古窯跡群	遺構写真(調査区全景・遺物出土状況)		

貸出先	目　的	遺跡名	貸出・提供資料		期間
(財)瀬戸市文化振興財団	企画展「近世陶磁の消費遺跡－江戸・名古屋・京都・大坂－」図録等に掲載	名古屋城三の丸遺跡	遺構写真(V：名古屋城全景・IV：調査区全景)	プリント2点	平成17.11.17 〜
(株)碧水社	学習研究社発行　歴史群像デラックス『よみがえる真説安土城』に掲載	清洲城下町遺跡	遺構写真(検出された石垣)	デジタルデータ1点提供	平成17.11.30
岩倉市長	『岩倉市史　現代』に掲載	岩倉城遺跡	遺構写真(89AB区SD06・SD07・63B区SD03遺物出土状態・62A区SD03遺物出土状態) 遺物写真(戦国時代遺物2点・土師質皿・地蔵形木製品・絵馬・獅子頭)	デジタルデータ10点提供	平成17.12.19
(株)碧水社	学習研究社発行　歴史群像デラックス『よみがえる真説安土城』に掲載	名古屋城三の丸遺跡	遺構写真(V：大溝)	デジタルデータ1点提供	平成17.12.21
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館平成17年度第3回企画展示コーナー展示パネルに使用	猫島遺跡	遺構写真(99B,Ca区全景・99Cb区全景・大型掘立柱建物SB01・方形周溝墓SZ05・墓壙SK41,43・竪穴住居SB06・弥生時代後期墳丘墓SZ001,002・SZ002遺物出土状況)	デジタルデータ8点提供	平成16.10.4
稲沢市教育委員会	稲沢市文化財パンフレット「文化財いなざわ」に掲載	一色青海遺跡	遺構写真(大型掘立柱建物跡SB17全景)	デジタルデータ1点提供	平成17.12.27
名古屋市市政資料館	「市史だより24」に掲載	牛牧遺跡	遺構写真(土器棺墓SZ24出土状態・土器棺墓SZ27出土状態)	デジタルデータ4点提供	平成18.1.9
		志賀公園遺跡	遺物写真(NR07黒色土層出土の土器群・NR07下層黒色土出土の土器群)		
さくら市ミュージアム荒井寛方記念館	企画展「四斗蒔遺跡の時代〜古墳時代の始まりと豪族の登場〜」出版物に掲載	朝日遺跡	遺構写真(上空・防御施設・乱杭・逆茂木) 遺物写真(パレス土器)	4×5カラーポジ1点/6×7カラーポジ4点	平成18.1.16 〜
		廻間遺跡	遺構写真(前方後方型墳丘墓)	6×7カラーポジ1点	
		西上免遺跡	遺構写真(94A区全景・西上免古墳2点)	6×7カラーポジ3点	
			遺物写真(銅鏃・古墳出土土器集合2点・壺152,153,138,139・S字状口縁台付甕200,202・舟形木製品)	4×5カラーポジ4点/6×7モノクロネガ8点	
			図版(古墳平面図・遺跡概念図・遺跡のイメージ)	転載許可	
		八王子遺跡	遺構写真(Ab区上面全景,SK73下層土器出土状況,SB04全景,SB10全景,Ba区NR01,SX05検出状況,)	6×7カラーポジ12点	
			遺物写真(集合写真2点・高杯2224,2234,台付甕2254,パレス壺2294)	6×7カラーポジ17点/デジタルデータ2点	
			図版(谷北岸遺構配置図)	転載許可	
(株)創樹社美術出版	情報誌「小さな蕾」4月号に掲載	鷲窯跡	遺物写真(陶製茶臼)	デジタルデータ1点提供	平成18.2.3
(株)中京テレビ映像企画	学校法人河合塾『河合サテライト講座』パーフェクト日本史B第1講で使用	一色青海遺跡	遺構写真(方形周溝墓)	デジタルデータ3点提供	平成18.2.6
		岡島遺跡	遺物写真(高杯)		
		川原遺跡	遺構写真(方形周溝墓)		

<<平成17年4月1日〜平成18年3月1日>>

現地説明会等

現地説明会

遺跡名	開催日	所在地	内容	参加者
姫下遺跡	2月11日(土)	安城市	弥生時代中期から平安時代にかけての集落遺跡を調査。多数の竪穴住居のほか、特に古墳時代前期の土器集積や河道 (大溝) を検出。出土土器・木製品を展示。	約310名

地元説明会

遺跡名	開催日	所在地	内容	参加者
鎌倉街道周辺遺跡	6月25日(土)	稲沢市	古墳時代から室町時代にかけての集落遺跡を調査。多数の竪穴住居や掘立柱建物のほか、井戸・溝等を検出。出土した須恵器・灰釉陶器・青磁などを展示。	約90名
御山寺遺跡	7月23日(土)	岩倉市	古墳時代から古代にかけての竪穴住居や、戦国時代の掘立柱建物・溝で区画された屋敷地のほか、水路状の大溝を検出。出土した須恵器・土師器・灰釉陶器・中近世陶磁器などを展示。	約80名
桑下東窯跡	11月23日(水)	瀬戸市	戦国時代(大窯期)の窯跡を調査。窯体の一部と作業場を検出。特に石敷の作業場は、窯業遺跡としては初例で注目される。碗・皿・鉢類と狛犬、窯道具等を展示。	約150名



姫下遺跡現地説明会

報告書作成のための遺物等の指導

日付	遺跡名	指導者（所属）
平成17年4月～18年3月	朝日遺跡・桜鐘古窯・中之郷北遺跡・上橋下遺跡	森　勇一（愛知県立津島東高等学校）
平成17年8月2日	中之郷北遺跡	城ケ谷和宏（愛知県立豊田南高等学校）
平成17年8月9日	瓶子窯跡	藤澤良祐（愛知学院大学）
平成17年8月9日	瓶子窯跡	金子健一（瀬戸市埋蔵文化財センター）
平成17年8月16日	桜鐘古窯群	中野晴久（常滑市民俗資料館）
平成17年8月22日	桜鐘古窯群	青木　修（瀬戸市埋蔵文化財センター）
平成17年9月8日	朝日遺跡	岡田　賢（大阪府教育委員会）
平成17年9月8・9日	朝日遺跡	山田昌久（首都大学東京）
平成17年10月11・12日	朝日遺跡	馬場伸一郎（国立歴史民俗博物館）
平成17年10月27・28日	朝日遺跡	馬場伸一郎（国立歴史民俗博物館）
平成17年12月27日	上橋下遺跡	藤澤良祐（愛知学院大学）
平成18年1月23日	朝日遺跡	岡田　賢（大阪府教育委員会）
平成18年1月23・24日	朝日遺跡	山田昌久（首都大学東京）
平成18年1月30日	夏敷古窯跡・蛇廻間古窯跡	中野晴久（常滑市民俗資料館）
平成18年1月30・31日	朝日遺跡	村上恭通（愛媛大学）

発掘調査現場における遺構・遺物等の指導

日付	遺跡名	指導者（所属）
平成17年8月25日	鎌倉街道周辺遺跡	楢崎彰一（瀬戸市埋蔵文化財センター）
平成17年12月22日	桑下東窯跡	柴垣勇夫（静岡大学）
平成18年2月8日	姫下遺跡	伊藤秋男（南山大学）
平成18年2月24日	朝日遺跡	深澤芳樹（奈良文化財研究所）
平成18年2月27・28日	朝日遺跡	七田忠昭（佐賀県教育庁）
平成18年3月13日	桑下東窯跡	楢崎彰一（瀬戸市埋蔵文化財センター）

研究会の活動報告

原始研究部会の活動

1.研究事項　設楽地域の考古学的調査
2.日程　7月29日(金)　豊根村教育委員会
　　7月30日(土)　設楽町立奥三河郷土館
3.活動の内容

設楽地域は、矢作川・豊川・天竜川水系が入り組み、三河地域南部(海岸域や渥美半島をも含む)・遠近地域・東濃地域・伊那地域の、文物・人の往来に関して起点となる地域である。当地域の考古学的調査は、先学によって愛知県内においても比較的早くから行われている。しかし、ここ近年においては遺跡の調査などが行われることが少なく、かつ各町村で収蔵されている考古資料の活用もそれほど容易ではない状況になっている。これらの資料の活用・再評価を行うことは、上述したような広域的検討を行う上で重要のみならず、地勢上、遺跡立地が限られるため、未発見の遺跡が想定されながらも、地域内における遺跡間関係を検討する上で良いモデルケースになると考えられる。

今回の資料実見では、縄文時代後晩期の遺跡・遺物に焦点を当て、特に土器の様相・石器の器種および石材の状況を中心に行った。今後も同様の調査を継続の予定である。　(川添和暁)


遺跡見学（大名倉遺跡）


設楽町立奥三河郷土館での調査

中・近世研究部会の活動

平成17年度の活動は、平成16年度に引き続き、中世の尾張国冨田荘関連の調査と当センター及び愛知県内において実施している発掘調査現場の視察を中心に実施した。

尾張国冨田荘関連の調査では、現地視察として七宝町川部地域を踏査し、遺物の散布状態と地形的環境について観察した。また地籍図の調査では海部郡大治町、七宝町に続き、冨田荘絵図の北側にある海部郡甚目寺町と旧西春日井郡新川町（現清須市）の地籍図のデジタル化図化作業を行った。その成果として平成17年度の『研究紀要』において加藤博紀による論考として結実した。

発掘調査現場の視察では、岩倉市御山寺遺跡、瀬戸市桑下東窯跡、小牧市上御園遺跡等の見学を実施し、知見を深めた。　（蔭山誠一）





遺跡見学（桑下東窯跡）



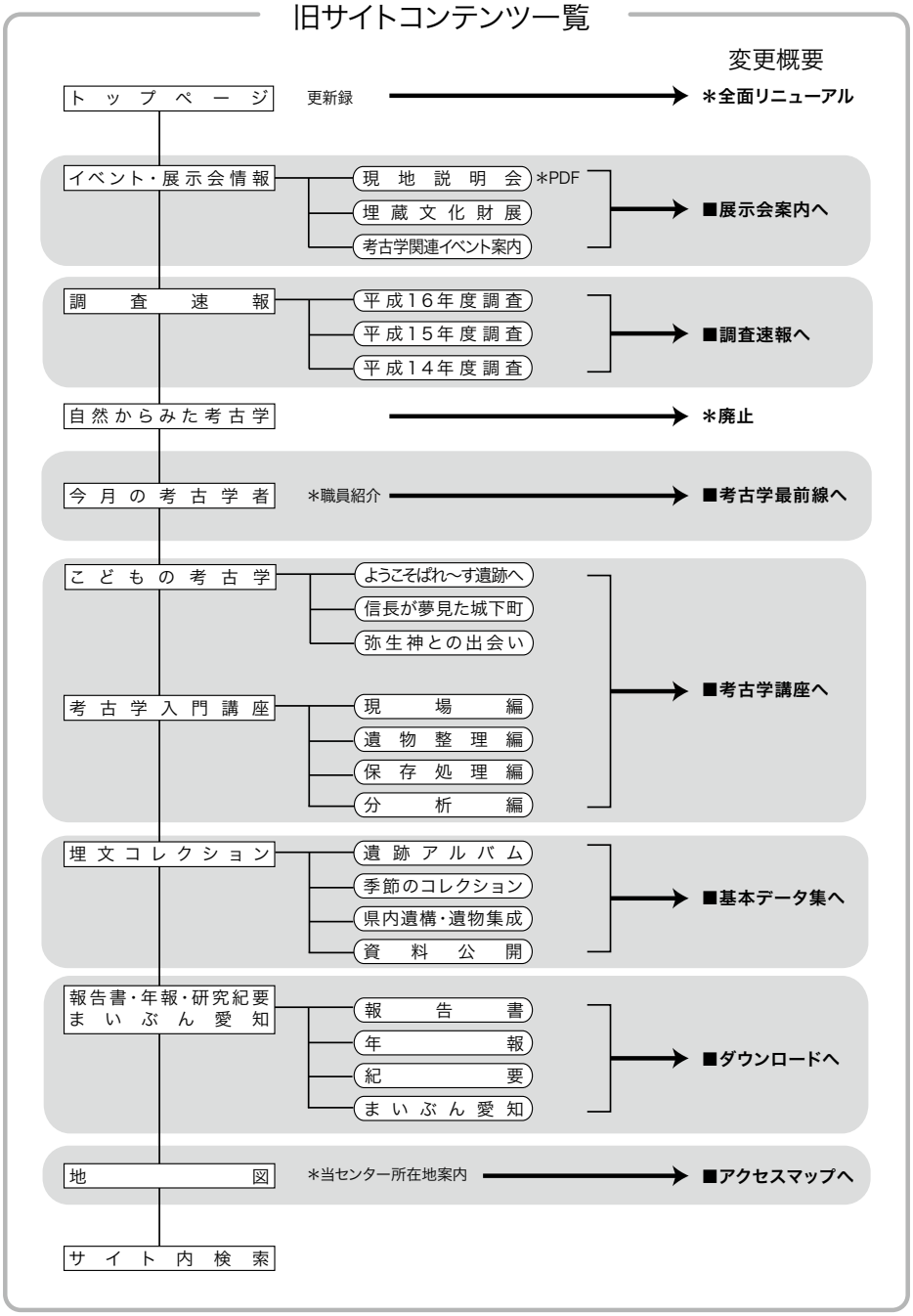
冨田荘関連地域地籍図

ホームページ

Webコンテンツリニューアル

平成17年６月６日より、サーバの移転に際し、コンテンツの見直しを実施。サーバーの容量は、40Gから80Gへ大幅に増量。稼働システムとして従来のWebサーバに加え, PHPおよびMySQLを稼働させWebデータベースを活用できる環境とした。コンテンツ作成については、CSSによるhtmlの作成に加え、PHPによるデータベース機能およびCMSの導入を行った。Weblogツールを活用することにより、これまで以上に多くの情報を提供することができた。また、一般の方が各記事についてコメントを付加することができるため、従来のコンテンツでは得られない情報交換ができた。　（堀木真美子）

旧サイトコンテンツ一覧





旧トップページ



新トップページ

新サイトコンテンツ一覧 (平成17年6月6日以降)

- トップページ
  - 最新トピックス
  - 考古学講座
    - こどもの考古学
      - ようこそぱれ〜ず遺跡へ
      - 信長が夢見た城下町
      - 弥生神との出会い
    - 考古学入門
      - 現場編
      - 遺物整理編
      - 保存処理編
      - 分析編
    - 考古学最前線
  - 基本データ集
    - 調査速報
    - 遺跡アルバム
    - 資料公開
    - 展示会案内
  - ダウンロード
    - 報告書 ＊第90集以降はPDFダウンロード可能 それ以前はCDコピーサービスにて頒布
    - 年報 ＊目次は全て掲載 平成11〜16年度はPDFダウンロード可能
    - 紀要 ＊1号〜5号は各論文ごとにPDFダウンロード可能
    - 情報 ＊no.20のみPDFダウンロード可能
    - まいぶん愛知 ＊no.41〜72PDFダウンロード可能
    - 現地説明会資料 ＊PDFダウンロード可能
  - お問い合わせ
  - アクセスマップ
  - 各事業者の方へ

Web 更新データ

●エントリー数

発掘調査	29 件
お知らせ	61 件
研究報告	7 件
調査速報	9 件
資料公開	8 件

●寄せられたコメント（非公開を含む） 9 件

●公開ファイル

報告書 PDF	50 本
報告書概要	26 本
情報 PDF	1 本
現地説明会 PDF	9 本
紀要 PDF	39 本
まいぶん愛知 PDF	32 本
年報 PDF	108 本
遺跡アルバム	37 遺跡
	1,125 件



エントリー



報告書概要

CDコピーサービス (H17.4.1～H18.2.3)

	コピーファイル				
1	032朝日3	033朝日4	073西上免	079一色青海	
2	034朝日5	083朝日6			
3	030朝日1	031朝日2	032朝日3	034朝日5	
4	003勝川	015三の丸1	016三の丸2	017清洲1	027清洲2
5	075大縄				
6	003勝川	015三の丸1	019三の丸1	024池下	029勝川
7	078吉田城	082毛受	086大脇城	089岩作	097大脇2
8	015三の丸1	016三の丸2	037三の丸3	044三の丸4	060三の丸5
9	020松崎	037三の丸3	044三の丸4	048松河戸	060三の丸5
10	010廻間	015三の丸1	016三の丸2	021麻生田	024池下
11	030朝日1	033朝日4	083朝日6		
12	044三の丸4	060三の丸5			
13	030朝日1	034朝日5			
14	086大脇城	097大脇2			
15	086大脇城	097大脇2			
16	111木戸城･古新田				
17	111木戸城･古新田				
18	015三の丸1	016三の丸2	037三の丸3	044三の丸4	060三の丸5
19	010廻間	040山中	034朝日5	052堀之内	
20	010廻間	040山中	048松河戸	073西上免	080門間沼
21	050清洲3	053清洲4	054清洲5	065清洲6	070清洲7
22	034朝日5	080門間沼	083朝日6		
23	053清洲4	054清洲5			
24	030朝日1	031朝日2	032朝日3	033朝日4	
25	034朝日5	083朝日6			
26	045山中2	048松河戸	073西上免	079一色青海	

平成17年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員

伊藤秋男	南山大学教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
大澤義洋	愛知県都市教育長協議会会長 瀬戸市教育委員会教育長
柴垣勇夫	静岡大学生涯学習教育研究センター長
諏訪兼位	日本福祉大学学園顧問 名古屋大学名誉教授
長谷川純一	愛知県教育委員会生涯学習監
毛利光俊彦	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
渡辺　誠	山梨県立考古博物館長 山梨県立埋蔵文化財センター長 名古屋大学名誉教授

専門委員

考古学	楢崎彰一	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授
考古学	伊藤秋男	南山大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学副学長 日本福祉大学附属高等学校長
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	窪寺　茂	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所　建造物室長
考古学 **動物学** **植物学**	渡辺　誠	山梨県立考古博物館長 山梨県立埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
保存科学	肥塚隆保	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

所　長　金井正樹

管理課

課長補佐	橋本　昇	
主　査	西田勝憲	
主　事	中澤保裕	高桑大輔
	細木克彦	

調査課

課　長	福岡晃彦	
主任主査	赤塚次郎	
主　査	石黒立人	小澤一弘
	宮腰健司	酒井俊彦
	池本正明	
主　任	松田　訓	鈴木正貴
	樋上　昇	
調査研究員	鵜飼雅弘	加藤博紀
	堀木真美子	永井宏幸
	鬼頭　剛	武部真木
	蔭山誠一	川添和暁
	永井邦仁	早野浩二

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
２万５千分の１地形図を複製したものである。
（承認番号　平17部複　第303号）

年報　平成17年度

平成18年3月
編集・発行(財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　西濃印刷 株式会社

本書は再生紙を使用しています。